

八王子（浅川水系）市内の用水路の通水システムと水利用形態の実態調査および、保全、活用にむけた可能性の研究

2008年

須藤 訓平  
多摩美術大学 環境デザイン学科 研究員

## 目次

まえがき	-----2	2) 水路周辺の景観（写真）	
		3) 調査者の調査所感	
1章 農業用水路の調査の目的と方法	-----3	4章 調査・研究のまとめ	-----170
1. 農業用水路の調査と背景		1. 水利施設概況	
2. 調査の目的		2. 水路規模（上流）、グラフ	
3. 調査の方法		3. 水路の流量	
2章 調査地の地形、地理の概要	-----8	4. 水路の水利用形態	
1. 八王子市の地形の概説		5. 水利施設と水田の保全・活用について	
1) 山地			
2) 丘陵			
3) 大地と段丘			
4) 丘陵の特性と景観資源			
5) 地質概要			
2. 河川の概説			
3. 昭和36年頃の農業と水田			
3章 調査によって得られた情報と資料	-----19	あとながき	-----176
1. 調査水路位置図（26水路）			
2. 現地調査によって得られた記録と成果の概要（26水路）			
1) 取水堰および水路断面図および写真			

## まえがき

本調査研究は、八王子市内の用水路の通水システムと水路形態の実施調査を通して、現代都市における水辺空間の保全・活用に向けた新たな可能性を探ることを目的とする。

かつて我が国は、人と自然が共生・共感した持続可能な社会システムを有し、独自の風土美観を形成してきた。水路と人との関わりもまたその一つである。しかし、経済・効率優先社会の中で生活に根ざした多面的水利用形態の多くが消失しようとしている。

用水路の通水システムと水利用形態は貴重な環境資源、文化資源であり、生態系に与える影響や子どもの遊び場、市民の憩いの場としても非常に重要な要素である。我々は、本研究を通し、八王子（浅川水系）市内の地域住民、行政との交流を深め、今後、研究で得られた成果を基に、用水路の保全、市民の暮らしの中での活用に向けて、具体的な活動を提案、展開してゆきたいと考えている。

## 1 章 農業用水路の調査の目的と方法

### 1. 農業用水路の調査と背景

著者は、1978年頃、八王子市の浅川水系に属する農業用水路の景観に関する略式の調査を実施したことがあった。

水路周辺の台地には、宅地開発が点在しはじめていた。

谷戸の水田風景は、八王子の将来における景観形成の貴重な環境資源になると考え、本格的な調査への準備をしていた。

1990年に入ると八王子市は、学園都市を目指し、人口は、年々増加し、都市開発は、台地や丘陵地ではじめられた。

また、都市開発は、稲作地や畑地にも押し寄せ、スプロープ化が進むのをみて、調査着手の遅れを知った。

平成期に入っても、浅川、湯殿川、大栗川等の本流、支流上流部の谷戸が幼稚変更され、駐車場、スポーツ施設となるなどの状況がみられた。

平成6年に「八王子市、21プラン（平成4年策定）」をみたとき、谷戸の水路と景観保全に関する具体策が盛り込まれていないことに注目した。

それ以降、まちづくりをするうえで、「谷戸の水路、水田風景は、魅力ある空間軸形成する資源である」ことを、市の関係者や、市民にどのような形で伝えればよいのか考えるとともに、現地調査の着手は遅れてはいるが、まず現状を定量的、形態的な調査を開

始した。

研究室のメンバーと共に農業用水路に関する情報の収集や、谷戸の風景を写真に記録する作業も実施した。（2008年）

情報収集の中で注目してきたのは、都市開発が進行するころまで存在していた水路の所在、現存している水路の所在を各水系ごとに知ろうとした。

入手した情報を整理したものが図-1-1である。

この図に示している水路名は、市の農林課の用水台帳に記録されたものである。●印は用水の廃止が決まっているもの、△印は平成10年ごろ廃止されたもの、○印は現存するもの（ただしこのなかには、用途変更したものや、水田がないものなどが含まれている）で、著者等が現地調査対象とした水路である。

図-1-2は、水系ごとに調査対象水路の位置をしめしたものである。水系内で調査対象水路が多くあるのは、谷地川水系6水路、北浅川水系5水路、岩入川水系5水路、ついで湯殿川水系6水路、そして大栗川水系1水路、秋川水系1水路となっていることがわかった。

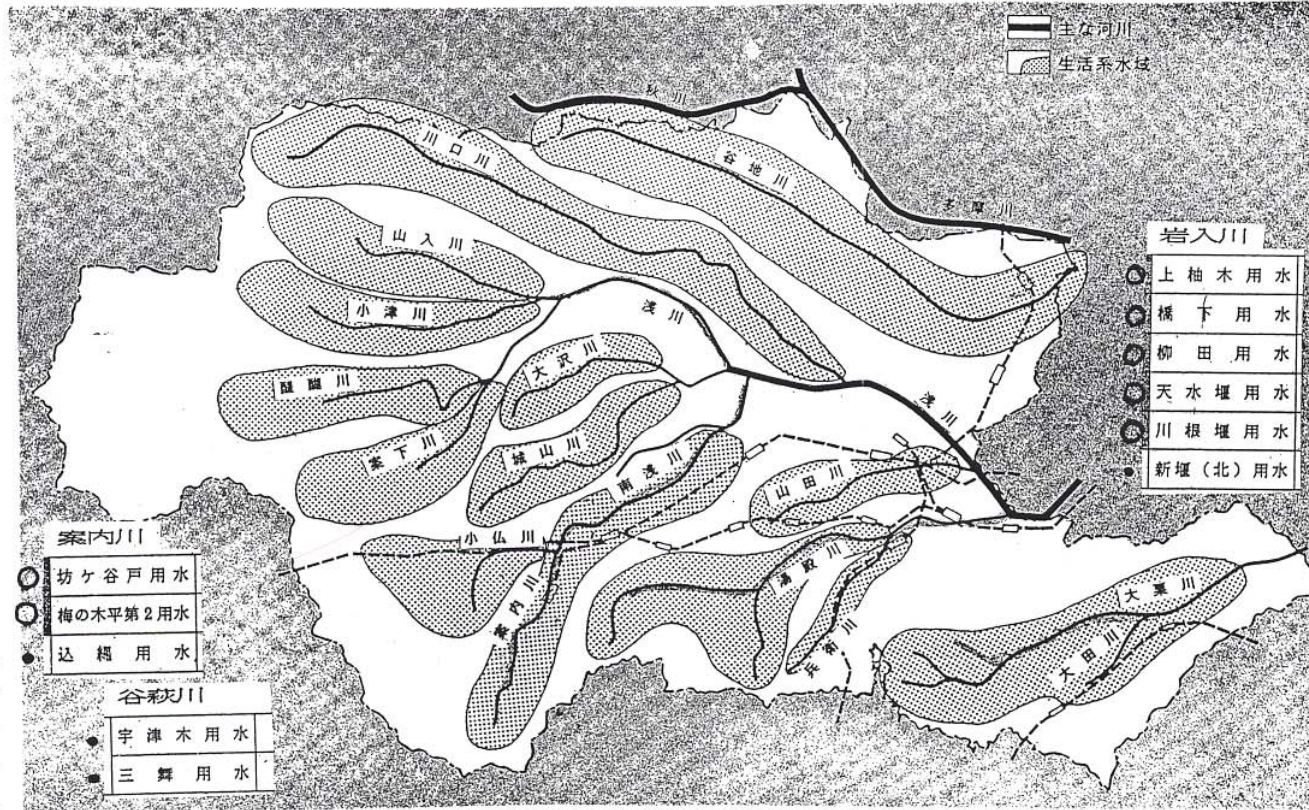
# 八王子市農業用水路位置図 図 1-1

(現存の水路を調査して  
ものは○印、かたは△印)

川口川		番場用水	谷地川	
神明用水	金子田用水	梅坪用水	八幡宿用水	六反用水
滑水耕地下堰用水	大宮北堰用水	鶴舞用水	鳥井場用水	左入用水
片井戸用水	熊前用水	鳥井場用水	大宮前田用水	留所用水
北野根用水	仲田用水	大道下用水	前田用水	鶴見用水
				河原田用水

## 浅川 (北浅川)

- 大柳用水
- 神戸用水
- 黒沼田用水
- 力石用水
- 宮の下用水
- 松竹本田用水
- 小田野用水
- 松竹新田用水
- 大久保用水
- 深沢用水
- 楢原用水
- 叶谷用水
- 小高井用水



## 多摩川

- 日野用水
- 北平用水

## 大栗川

- 永楽寺前用水
- 神田用水
- 五反田用水
- 芝原用水
- 内田用水
- 越野用水
- 堀の内26号用水
- 堀の内連合用水
- 大塚用水
- 池の尻用水
- 大町用水
- 下根用水
- 三森用水

○ 池の水用水

## 大田川

- 峰ヶ谷戸用水
- 東光寺前堰用水
- 天神前堰用水
- 道下用水
- 向山用水
- でいぼだ用水
- 小坂前堰用水
- 八幡前用水

## 岩入川

- 上柚木用水
- 橋下用水
- 柳田用水
- 天水堰用水
- 川根堰用水
- 新堰(北)用水

- 案内川
- 坊ヶ谷戸用水
  - 梅の木平第2用水
  - 込堀用水

## 城山川

- 泉町五反田用水
- 横川3号用水
- 横川10号用水

## 谷萩川

- 宇津木用水
- 三舞用水

## 山田川

- 用水

## 御盤谷川

- 御盤谷下用水

## 浅川 (南浅川)

- |           |        |
|-----------|--------|
| △ 駒木野用水   | ● 向田用水 |
| ● 荒井用水    | ● 本田用水 |
| ● 元本郷上堰用水 | ● 北野用水 |
| ● 元本郷用水   | ● 新田用水 |

## 湯原段川

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| ○ 長沼用水   | △ 大巻下堰用水 | ● 打越新堰用水  |
| ● 長沼第1用水 | ○ 大巻上堰用水 | ● 大畑用水    |
| ● 長沼第2用水 | ○ 山王塚用水  | ● 山王用水    |
| ○ 坂下用水   | ● 長沼第3用水 | ● 時田用水    |
| ○ 釜土用水   | ● 長沼第4用水 | ● 小比企新堰用水 |
|          | ● 長沼第5用水 | ● 中居堰用水   |
|          |          | ● 館新堰用水   |

## ○ 調査対象水路

- 平成5年以降に廃止された水路
- △ 平成10年以降に廃止された水路

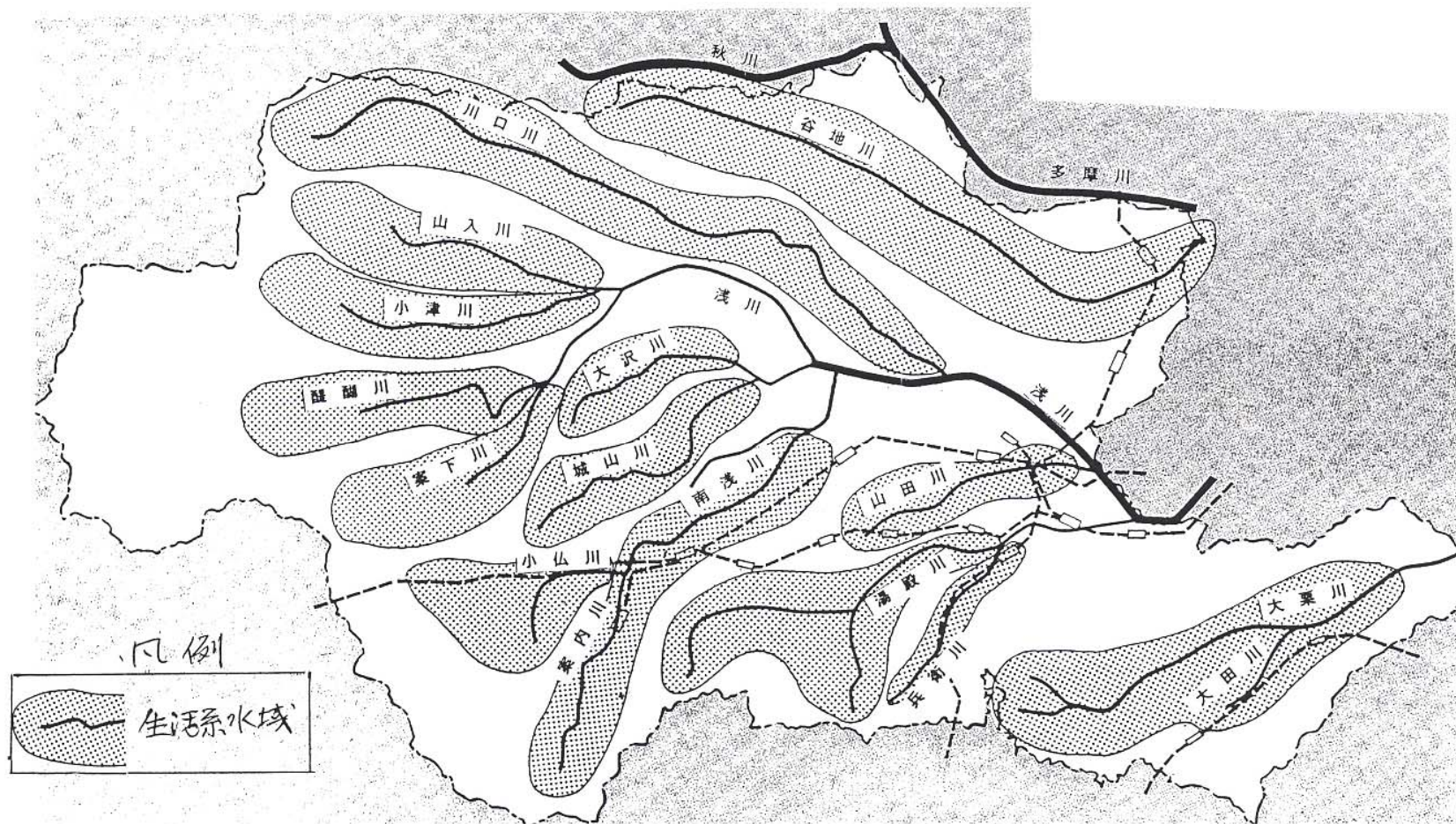


图 1-2 市内河川と丘陵位置图（平成 19 年 4 月）

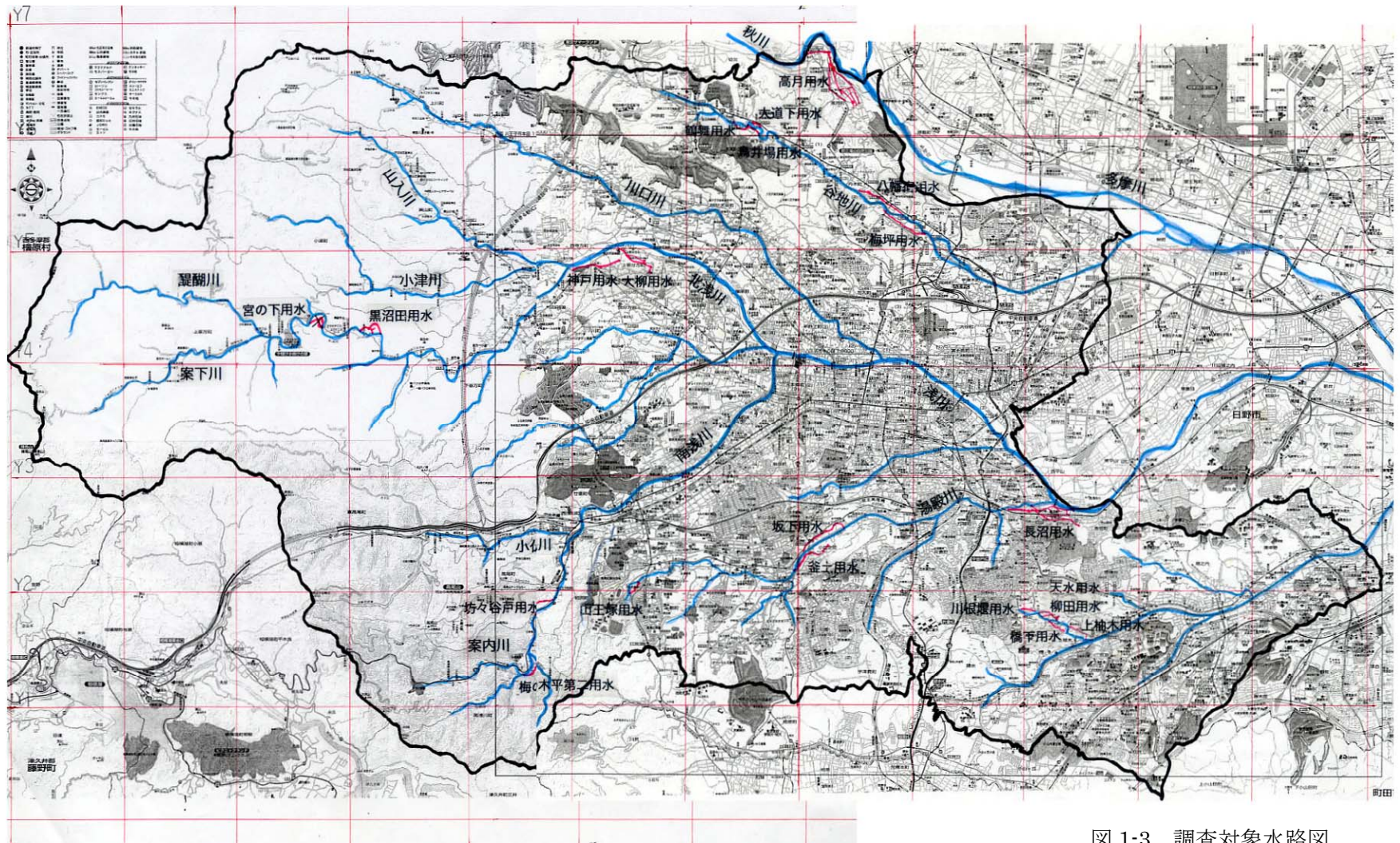


図 1-3 調査対象水路図

## 2. 調査の目的

1章の「調査背景」で記入しているように、現在（2007年）2.調査の対象地で、水路の施設形状がなんらかの状態を確認可能なものが26水路存在するとし、これらがどのような状況で利用されているか、あるいは廃止状況にあるか、水利施設としての現状を把握することを、本調査の目的とした。

現地調査項目は、下記のとおりである。

- 1) 市管理課が把握している水路位置の確認
- 2) 取水施設の形状を図化する
- 3) 水路断面形状（断面図の作成）、写真記録
- 4) 水路、水田のある谷戸の景観を写真で記録
- 5) 通水量の現状
- 6) 水路空間利用の現状
- 7) 水利用者の話

ここに挙げた調査項目は、谷戸の自然的、田園的風景を保全、活用する上で不可欠な環境要素である。

## 3. 調査方法

現地調査項目について

前節の現地調査項目にそって解説する。

- 1) 水路配置図（スケールは1/1000～1/3000程度）

市・管理課が示した配置図をベースとして調査範囲と測

定等の位置を示したもの。

### 2) 取水施設調査

- ・ 取水口の図化（スケールは1/200～1/50程度）
- ・ 取水の形状を略式で書き取る

### 3) 水路断面形状の調査

- ・ 取水口、周辺を起点とし200～300mに1ヶ所断面図を書き取る

### 4) 水路の景観調査

- ・ 水路、水田、宅地、給料の緑などがその地を代表すると思われる景観を写真で記録する。

### 5) 水路の通水量の現状調査

- ・ 略式の水量測定を記録する。

### 6) 水路空間の利活用状況

- ・ 水田利用以外の水利用行為を調査する

### 7) 水利用者、近隣の住人の水路に関する話しを聞く。



## 2章 調査地の地形・地理の概要

### 1.八王子市の地形の概説。

本市全体の地形図を概観すれば、浅川が市中央部をほぼ西から東に向かって流れ、この沿岸流域が最も低く、川を遠ざかるにしたがって漸次高度をましている。

北は加住丘陵、南は、多摩丘陵が限り、西北に関東山地の東端が丘陵性の低山地帯をなして、あたかも市域全体をとり囲むがごとく、小起伏をなしている。東方だけが台地状の平坦地となって武蔵野台地に接続し、本市の中心部は小規模な盆地状の地勢を形成している。(図 2-1)

この地形的特徴をいえば、本市は、山地・丘陵地・台地の3つに区分することができよう。

#### 1) 山地

山地は、高尾・景信を中心とする関東山地の南部を占め、その東端に当たっている。600m～700mの高度を有し、浅川地区の高尾山(600m)・小仏峠(546.23m)・景信山(725.10m) 恩方地区の明王峠(739.15m)・陣馬山(857m)・和田峠(688m)等が主たるものである。

これらの山地は北より川口川・北浅川及び南浅川の各支流により開析され構造線に沿う谷は良く開析されて沖積地が

開け、露頭も少ないが、他の多くの谷は余り開けていないので深い谷を造っている。

#### 2) 丘陵

##### 加住丘陵

丘陵は山地より連続的に連なり、本市街地の北側を限るのは、加住丘陵であり、滝山丘陵とも呼んでいる。

その高度は140～250mを示し、T面(多摩面)に属し、西より東へ低く、その東端は南多摩群日野市の日野台に以降し、浅川及び、多摩川によって削られて崖を作って終わっている。

##### 多摩丘陵

丘陵は本市域においては、浅川及び湯殿川によって開析され東部では大栗川・鶴見川当によって沖積平原が広く開けている。本来これらの諸丘陵は一連のものであるが、中央を浅川系諸川によって開析されたうえ分断されたもので、沖積地及び洪積台地が広がるため、その連続性が不明瞭になったものである。

#### 3) 台地と段丘

本市域の台地の典型的なものに日野台地がある。

日野台地は高度100～120mあり、加住丘陵東部に続いている。その面は下末吉ローム層の堆積面であり、多摩丘陵東部のS面(下末吉面)に対比される。日野台地の南東周縁

には、台地面より約 10m 低い段丘が発達する。これに対比される段丘には、川口丘陵東端の調井より根付中野にいたる川口川の両岸に沿う段丘、舟田丘陵の南東周縁の段丘がある。これらには、厚さ 2~4m の新期ローム層が発達し、段丘は立川面に対比される。小比企給料北縁に沿うこれに対比される段丘面は、沖積面に漸移的で、はっきりした段丘崖を示すことがすくない（八王子の市街地に入ることにもよる）が、高度やローム層の存在から立川段丘であることがわかる。（図 2-2）（表 2-1）

#### 4) 陵の特性と景観資源

八王子は浅川下流の平地とそこへ流れ込む川の源流を持つ山々でなりたっており、大きくは、浅川流域圏といえる。横長の八王子の地形は西側が山地、南と北に丘陵地、中央から東が台地・段丘地と低地に分けることができる。

市域のほぼ中央に 200m の等高線が南北に走っており、この線より西側は非常に入り組んだ地形になっており、多くの谷戸によって構成されている。

八王子の地形区分ごとの概ねの面積の割合を示すと次の通りになる。

山地	44%
丘陵地	27%
台地・段丘	06%
低地	23%

山地・丘陵の広さが圧倒的であり、その地形が八王子の景観に奥行きを出している。

昔から人々は水源をうるおす木々が育つ山を大切にし、敬ってきた都市化していくなかで、身近にそのような山々をもっていることが八王子の素晴らしさであり、大きな景観資源である。

大小の谷戸には水田が耕され、季節の変化をうつしだす。

景観が形成され、そこに住む人々に安らぎを感じとることができた。

都市化が進むほど、この谷戸の田園景観は価値を増してきている。

## 2. 河川の概説

本市の中央部を縦貫するのは浅川であり、本市の北部には谷地川が流れ、又南部には山田川・湯殿川がいずれも西から東へ流れている。(図 2-3) 浅川は本市の動脈ともいうべく、これが主流となってその支川の流域に本市の市街地は形成されたものである。

本市の河川名及び流路延長は次のごとくである。(表 2-2) 八王子市内を流れる主要な河川としては、八王子市域の中央を東西に走る浅川と、北の谷地川、南の大栗川の三本があげられる。そして、それらの支流として多くの中小河川が市内を縦横に流れており人々の生活はその水系によって支えられてきた。浅川の源流は西側の山間部から発している。山あいからおちてきた細い流れはくねりながら里をぬけ、それぞれに流れてきたいくつかの川と合流して大きな流れとなり、市街地をゆったりと流れて、東の端から市外へと抜けてゆく。この浅川の支流は八王子市域を何本も走っており、浅川が「母なる川」と呼ばれる理由となっている。(表 2-3)

この3水系(支流も含む)の領域のなかにある平坦地又、谷戸部に古くから農業用水路が開削され稲作が行われてきた。

農業用水路が開削された領域は、およそ図 2-2 の生活系水域内に付設されている。

## 3. 昭和 36 年頃の農業と水田

昭和 36 年末の本市総耕地面積は 2,580 町四反四畝である、総地積の 21.4 パーセントに当たっている。このうち水田面積 514 町、畑 1,883 町、樹園地 183 町で、これらはほぼ二割・七割・一割の割合で分轄され、畑面積にたいして水田面積が非常に少なくなっており、本市農業の特徴は年近郊農村のそれと同じく畑作中心の経営にある。(図 2-4)

地区別面積に対して各水田比率が非常に低い状態にあることは、「南多摩文化財総合調査報告書」の言葉を借りれば「八王子盆地水系の各主谷は、上流部には下刻穿入の侵蝕谷であり、山麓谷口部は荒れ水的水無川となって水田開発を制約」しているためである。

本市のこれら水田形成は、丘陵を刻む谷戸に水田を形成する谷戸と、扇状地状堆積原における伏流水が末端部に形成する湧泉地点の湧水に依存する水田とに大別される。この谷戸田の顕著なものは、谷地川流域の馬場矢と・北大沢・宮下・戸吹等の旧加住地区、川口川流域の犬目・下川口片井戸・上川口等の旧川口地区、旧由井地区の宇津貫菖蒲谷戸、旧横山地区の寺田・館・大船等があげられる。

又湧泉に養われる水田地区を形成しているのは旧市・由井・元八王子・恩方地区があげられよう。すなわち、市内明神町の子安神社境内及びこの附近の湧水により浅川の沖積地帯である市街東部明神町・旧由井地区に開ける水田、元八王子地

区の北浅川松枝橋際から大楽寺にかけての湧泉列によって開かれるその下方一帯、及び山入川と北浅川の合流する地点である西寺方等である。

本市水田の用水源分類をみればその三分の一がこれらの湧水に依存している現状である。

図 2-1 / 八王子の地形と標高

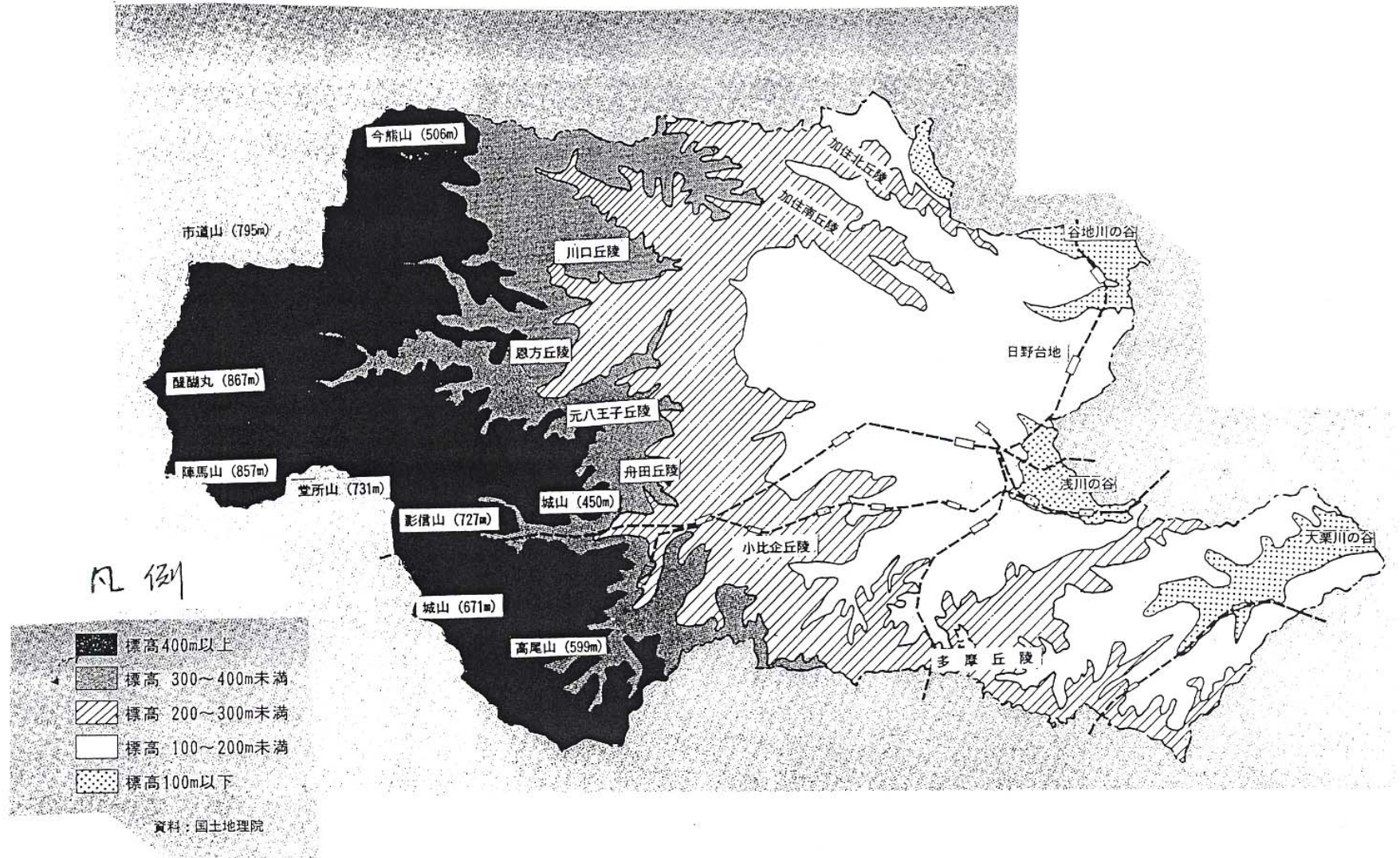
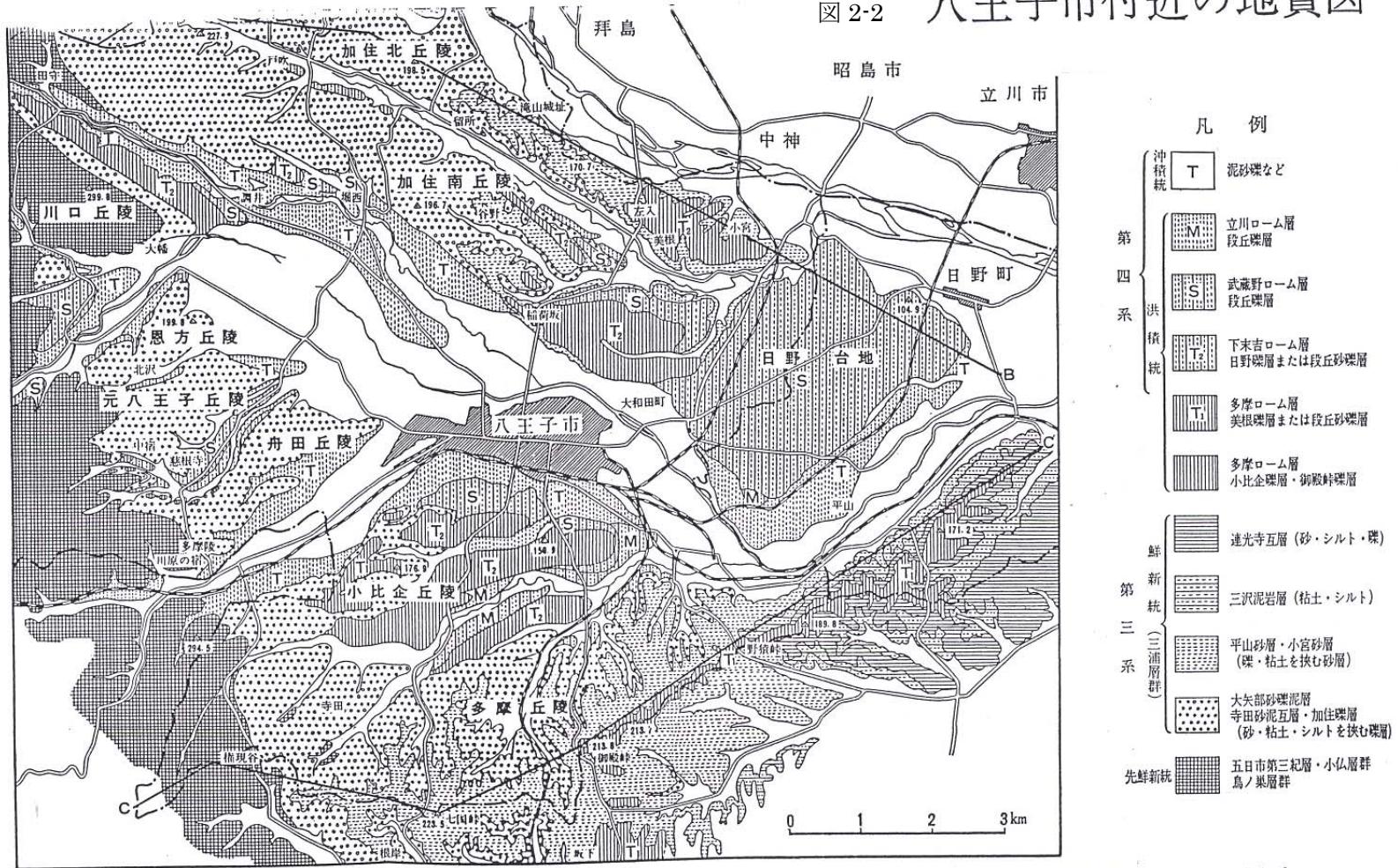


図2-2 八王子市付近の地質図



- 凡 例
- 沖積統
    - T 泥砂礫など
  - 第四系
    - M 立川ローム層 段丘礫層
    - S 武蔵野ローム層 段丘礫層
  - 洪積統
    - T<sub>2</sub> 下末吉ローム層 日野礫層または段丘砂礫層
    - T<sub>1</sub> 多摩ローム層 美根礫層または段丘砂礫層
    - 多摩ローム層 小比企礫層・御殿崎礫層
  - 鮮新統
    - 連光寺五層 (砂・シルト・礫)
    - 三沢泥岩層 (粘土・シルト)
  - 第三系 (三浦層群)
    - 平山砂層・小宮砂層 (礫・粘土を挟む砂層)
    - 大矢部砂礫泥層 寺田砂泥互層・加住礫層 (砂・粘土・シルトを挟む礫層)
  - 先鮮新統
    - 五日市第三紀層・小仏層群 鳥ノ巢層群

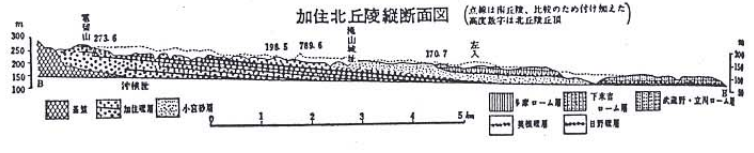


图 2-3

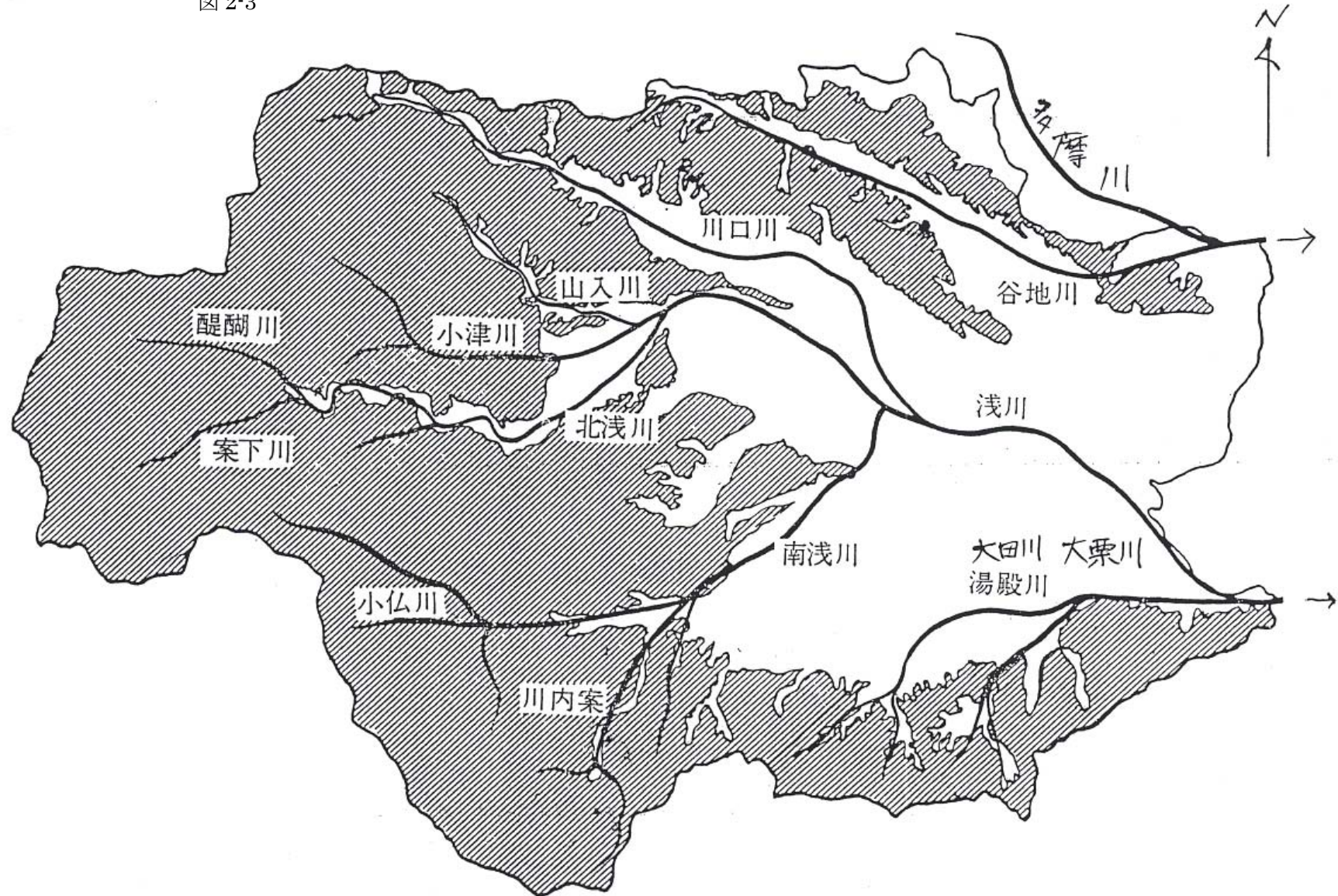


图 2-4 水田 畑分布图

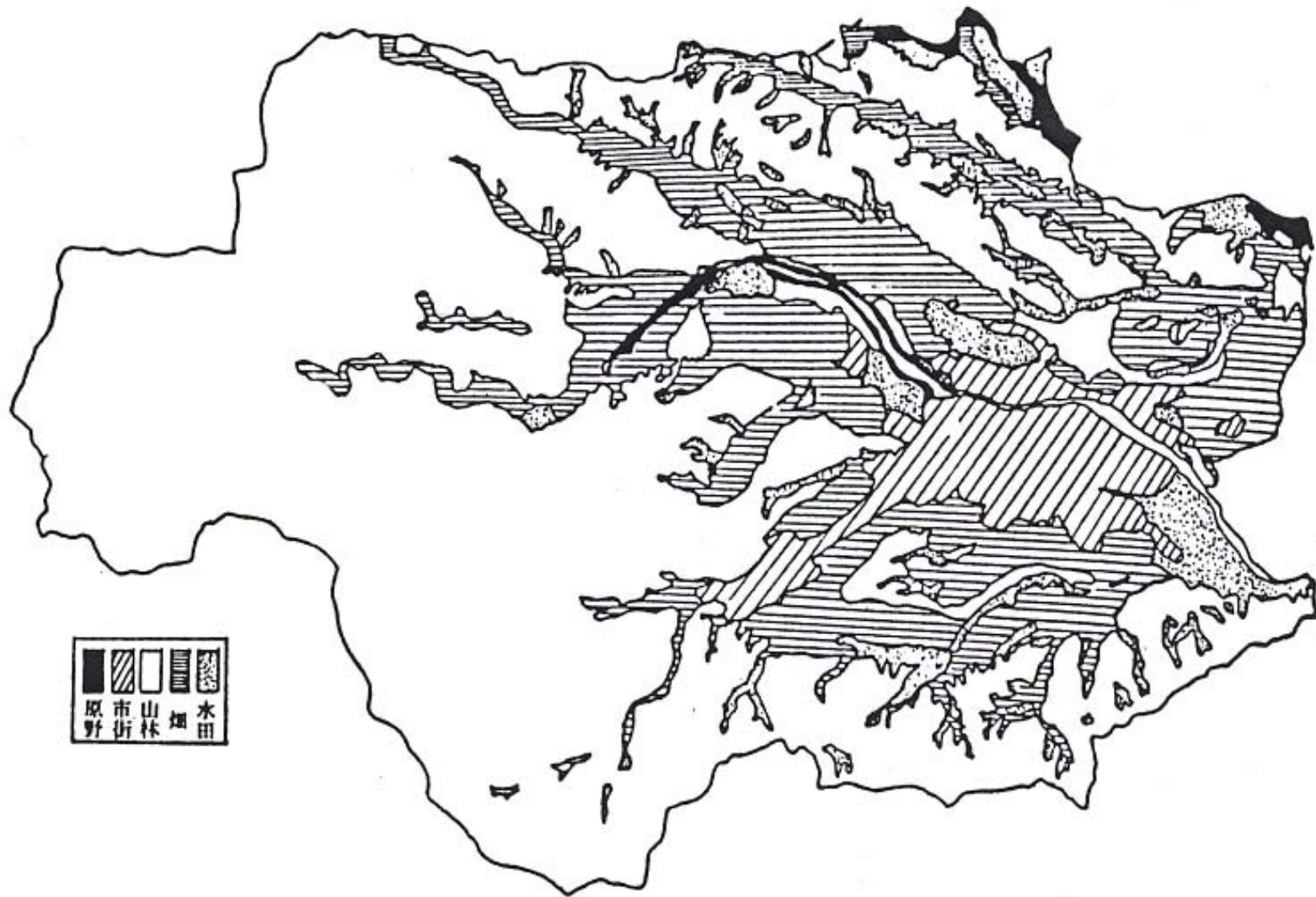




表 2-1

地質時代		地 層 名	分 布 地 域	
新 生 代	第 四 紀	沖積世 (表土及び砂礫層)	主に市街地	
		洪 積 世	上部 洪積統 { 立川 ローム層 武蔵野 ローム層	{ 日野台地、加住丘陵東 南部、多摩丘陵、小比 企丘陵等。
			中部 洪積統 { 下末吉 ローム層 日野礫層	{ 加住丘陵東南部及び日 野台地。
	下部 洪積統 { 多摩 ローム層 美根礫層・御殿峠 礫層・小 比企礫層	{ 加住丘陵東南部、小比 企丘陵、多摩丘陵、御 殿峠周辺から多摩動物 園にかけて。		
第 三 紀	鮮新世	下部 鮮新統・ 三浦層群	加住丘陵と多摩丘陵並 びに西縁諸丘陵の全域 及び他の地域の地下に 基盤として存在。	
中 生 代	白亜紀	小仏層群(統)	主として川口町南西 方。	
	ジュラ紀	鳥の巣層群(統)	主として上川町より北 方。	

表 2-2 市内河川の現状

(昭和34年12月31日現在)

番号	河川名	区 間	水源地	流路延長 km	流域面積 km <sup>2</sup>	勾 配		備 考
						最低	最高	
1	多摩川	菟留山、戸吹町より石川町栗巣地先まで	奥多摩湖	4.35	4.92	1 / 500	1 / 350	適用河川
2	秋 川	右岸は高月町切欠より高月町多摩川合流点まで	御前山	3.40	0.95	1 / 300	1 / 250	"
3	浅 川	元本郷町北浅川、南浅川合流点より、西長沼地先市域境先まで	高尾山・刈寄山景信山	12.98	9.30	1 / 300	1 / 250	"
4	南浅川	高尾山、景信山を水源として、小仏町・並木町、元本郷町北浅川合流点まで	高尾山景信山	5.27	9.00	1 / 200	1 / 160	準用河川
5	北浅川	案下川・醍醐川合流点より、西寺方町・二方分町・川口町、四ツ谷町を経て、元本郷町南浅川合流点まで	刈寄山	14.17	17.35	1 / 200	1 / 150	"
6	谷地川	菟留山を分水嶺として、戸吹町・宮下町・加住町、宇津木町・石川町地先多摩川合流点まで	戸吹町	12.90	15.27	1 / 180	1 / 160	"
7	川口川	刈寄山を分水嶺として上川町・川口町、中野町地先浅川合流点まで	刈寄山	14.09	17.65	1 / 180	1 / 160	"
8	湯殿川	館町上館・大巻町・小比企町・打越町・西長沼先浅川合流点まで	館 町	8.90	15.10	1 / 180	1 / 160	"
9	山田川	散田町・山田町・万町・子安町・明神町地先浅川合流点まで	散田町	4.80	5.21	1 / 200	1 / 200	"
10	兵衛川	宇津貫町・片倉町地先湯殿川合流点まで	宇津貫町	2.80	5.50	1 / 130	1 / 120	"
11	案内川	高尾山を水源として上案内、小名路地先の南浅川合流点まで	高尾山	8.00	10.20	1 / 100	1 / 100	"
12	小仏川	小仏峠を水源として、小仏先南浅川合流点まで	景信山	2.84	11.58	1 / 500	1 / 100	"
13	城山川	城山を水源として、元八王子町2丁目・元八王子町1丁目・横川町先浅川合流点	城 山	6.90	8.77	1 / 160	1 / 160	"
14	御霊谷川	城山を水源として、元八王子町2丁目、城川山合流点まで	"	0.70	1.20	1 / 100	1 / 100	"
15	案下川	和田峠を水源として、上恩方町高留先北浅川合流点まで	陣馬山	3.00	7.26	1 / 150	1 / 150	"
16	醍醐川	刈寄山を水源として、上恩方町醍醐・森久保・高留合流点まで	"	3.80	7.37	1 / 100	1 / 100	"
17	小津川	刈寄山を水源として、小津町・下恩方町総切・西寺方町地先合流点まで	刈寄山	4.00	7.30	1 / 100	1 / 100	"
18	山入川	今熊山を水源として山入町・下恩方町・西寺方町北浅川合流点まで	"	5.00	8.61	1 / 100	1 / 100	"
		計		117.90	162.54			

資料 八王子市役所管理課

市内河川一覧表 表 2-3

川谷北南浅秋多 口地浅浅 摩 川川川川川川	河川名	流 路 延 長
一四・一〇〇 一五・〇六〇 一七・五九〇 一五・二七〇 一二・九八〇 三・四〇〇 四・三五〇		キ ロ メ ー ト
御城小山山湯 靈山津入田殿 谷川川川川川	河川名	流 路 延 長
〇七・七五〇 〇七・一〇〇 〇六・七〇〇 〇六・〇〇〇 〇六・三〇〇 九・〇七〇		キ ロ メ ー ト

市内河川一覧表

(昭和三十七年三月三十一日現在)

資料 南多摩地方事務所

### 3章 現地調査によって得られ情報と資料

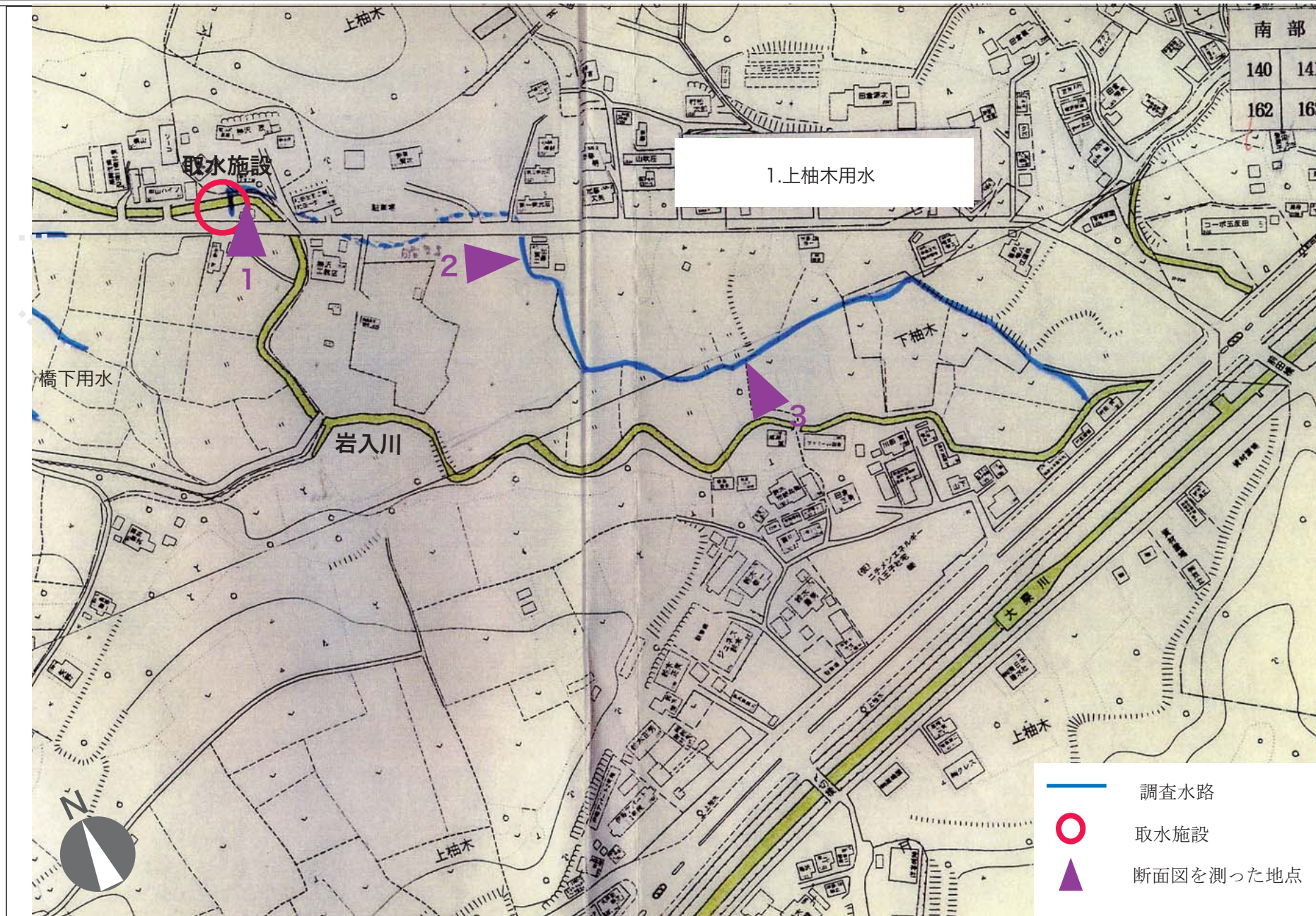
1. 調査水路配置図（26 水路）
  
2. 現地調査によって得られた記録と成果
  - 1) 取水堰および水路断面図および写真
  - 2) 水路周辺の景観（写真）
  - 3) 調査者による調査所感

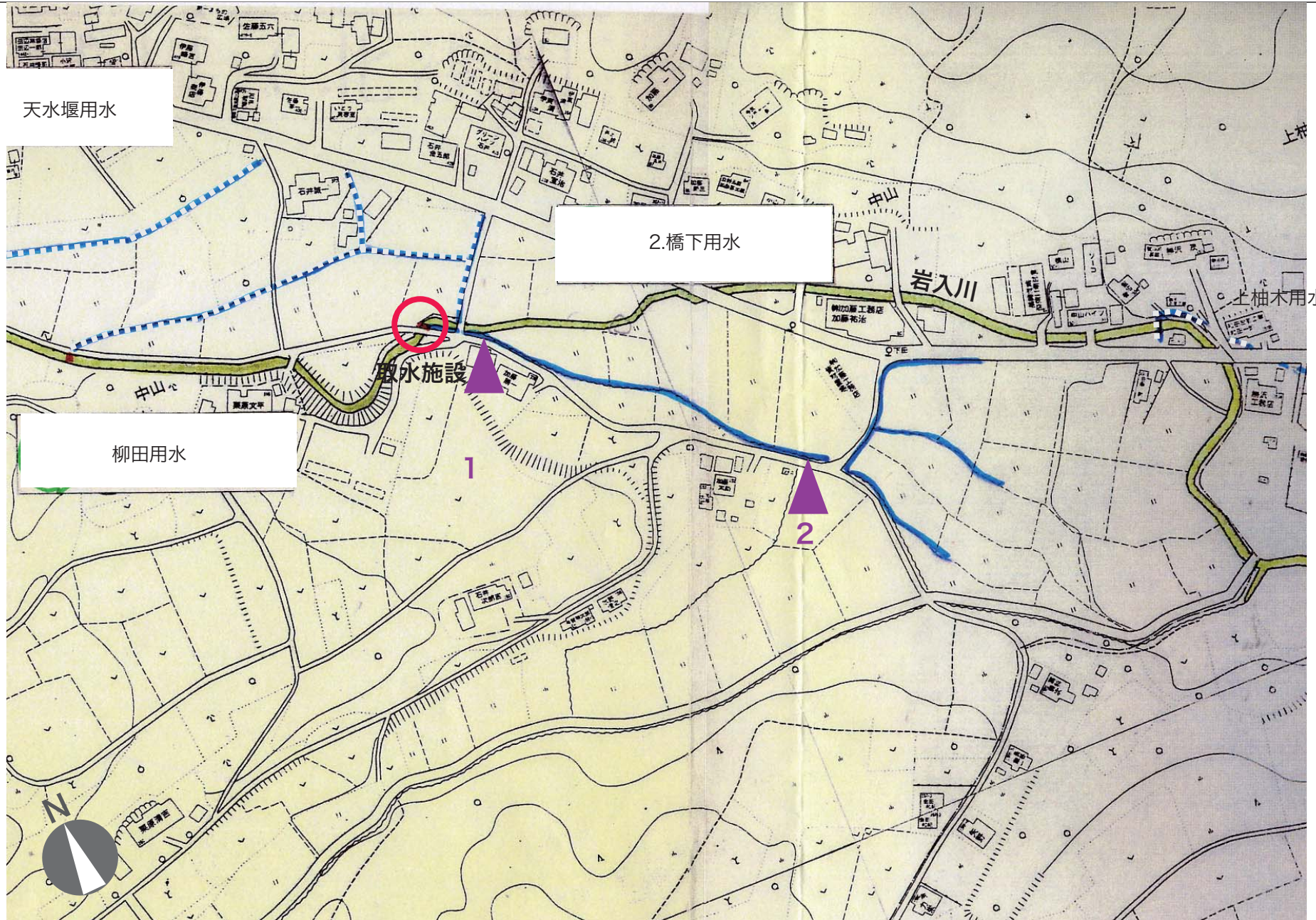
以上の調査項目は、それぞれ調査票を用意して必要な現地調査で得られた情報を記入する方法をとった。

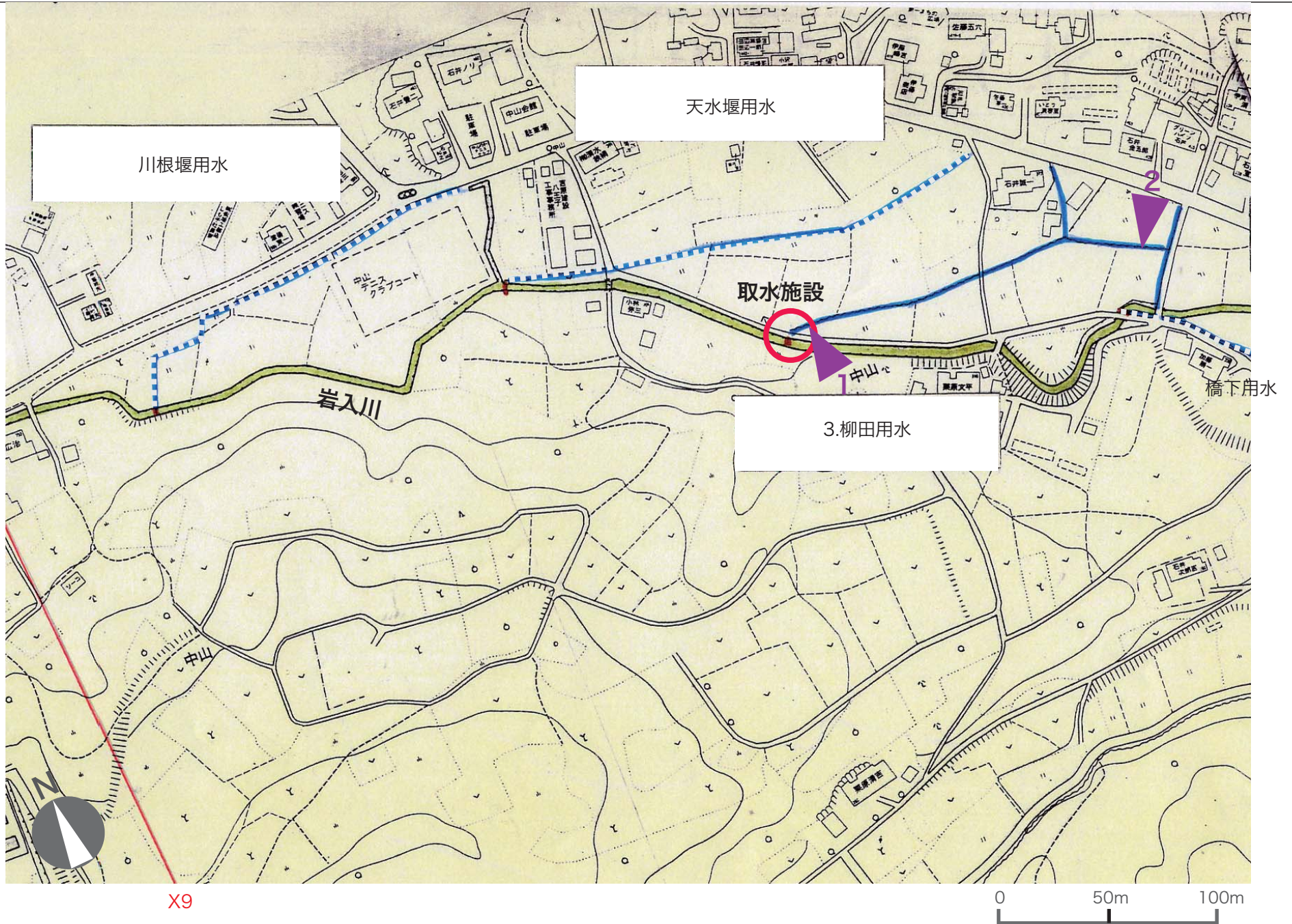
尚、水量測定値については4章で述べることにする。

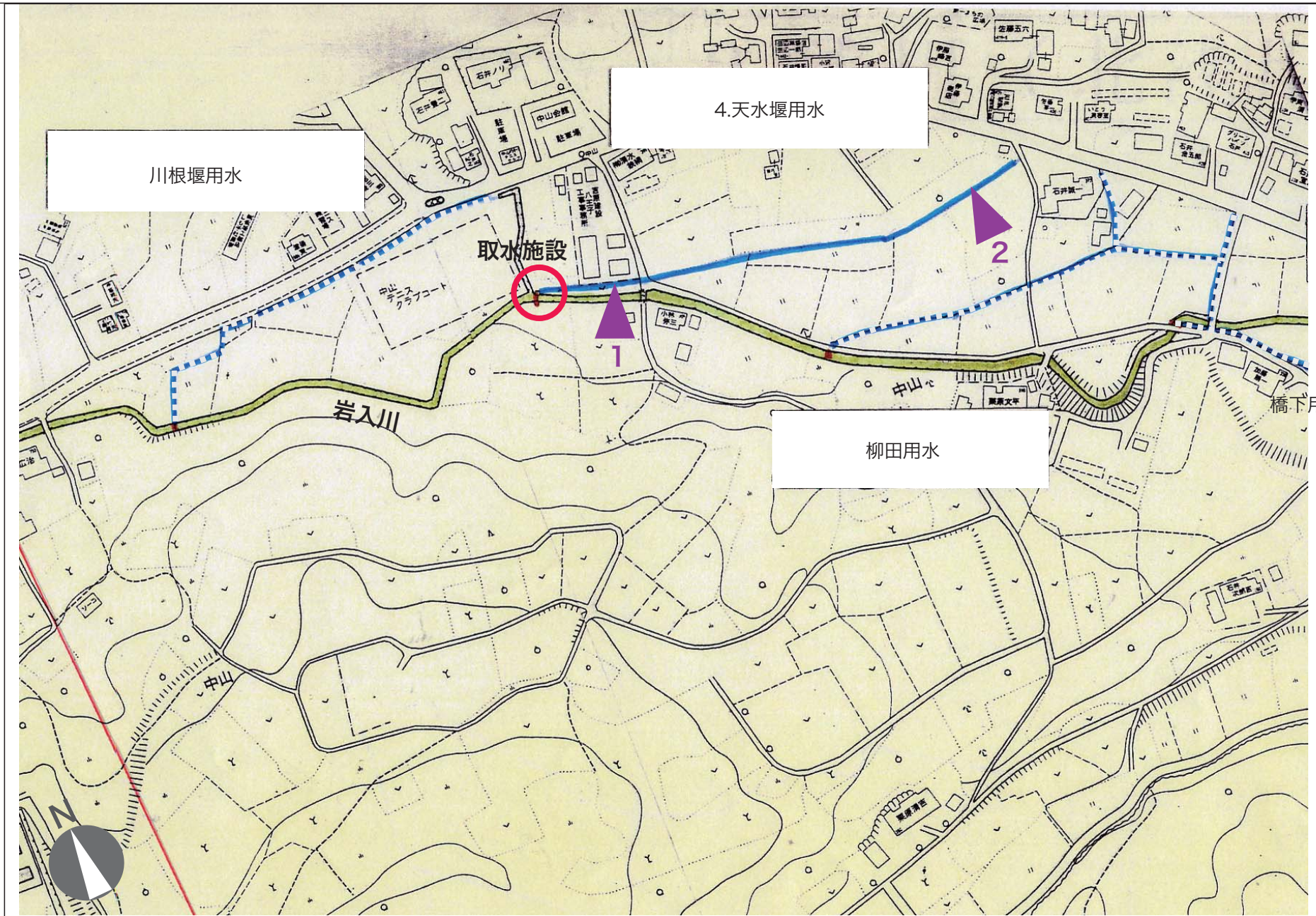
1. 調査水路位置図 (26水路)

1. 上柚木用水





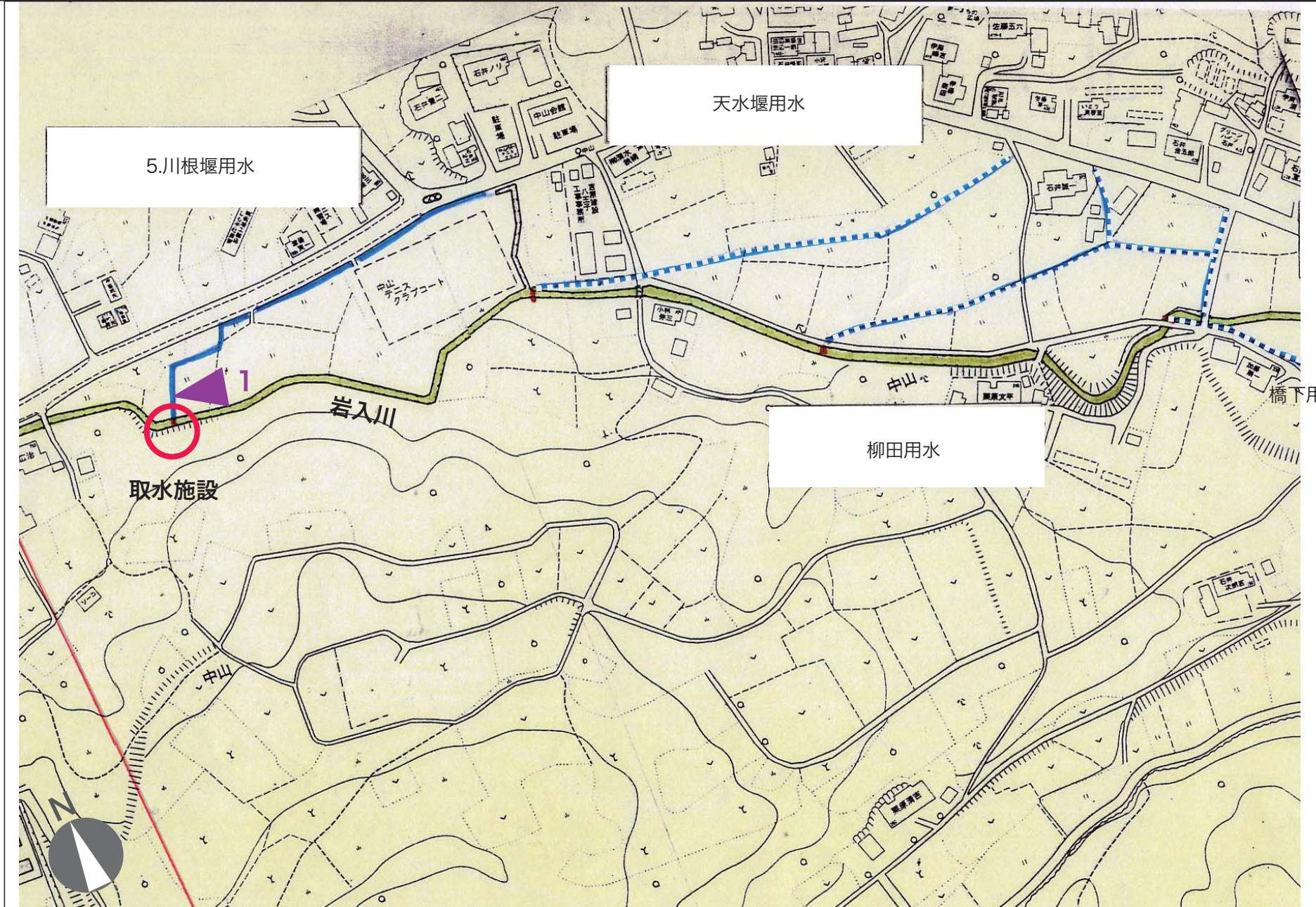




X9







5.川根堰用水

天水堰用水

柳田用水

取水施設

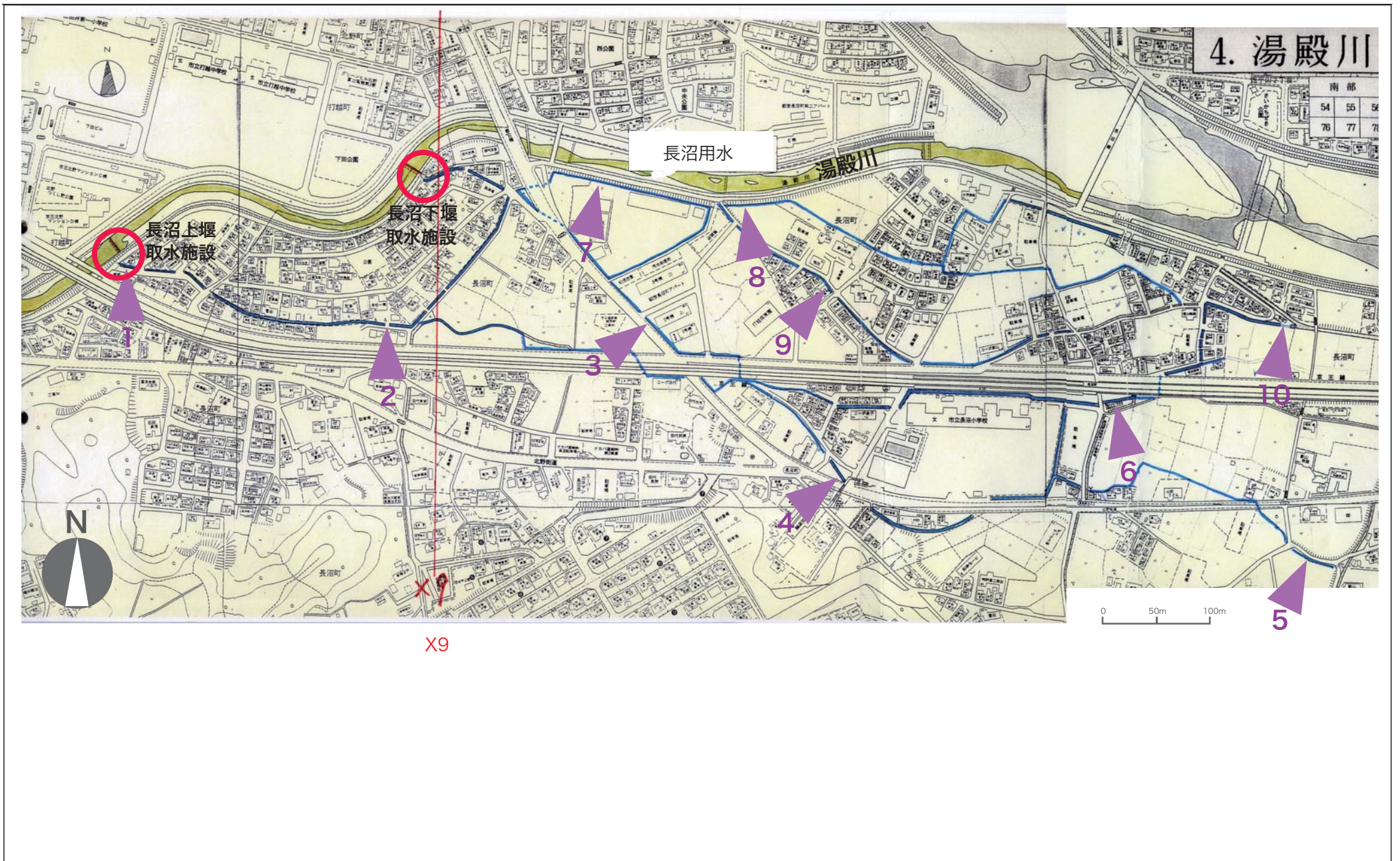
岩入川

中山

橋下用水

X9

0 50m 100m

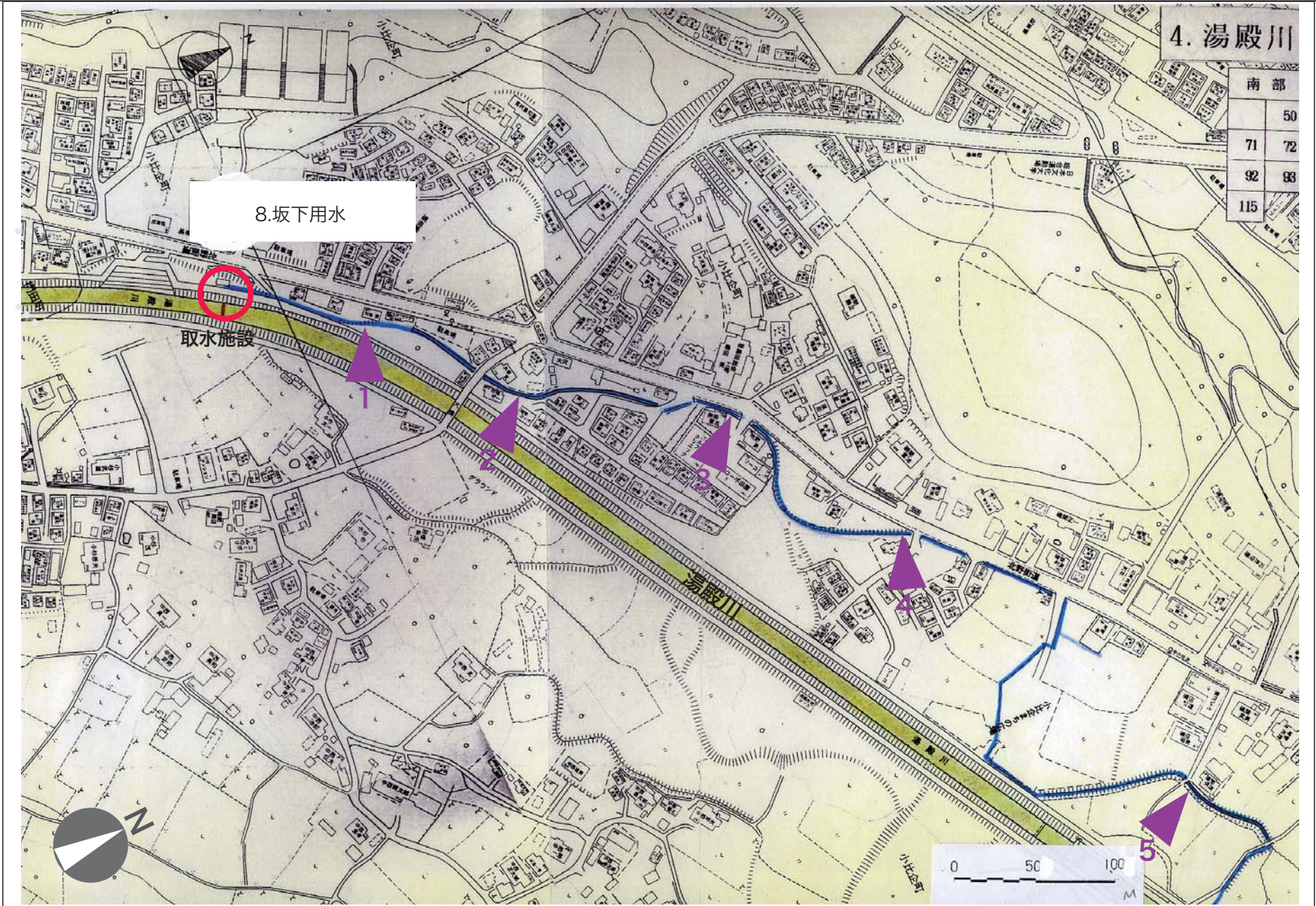


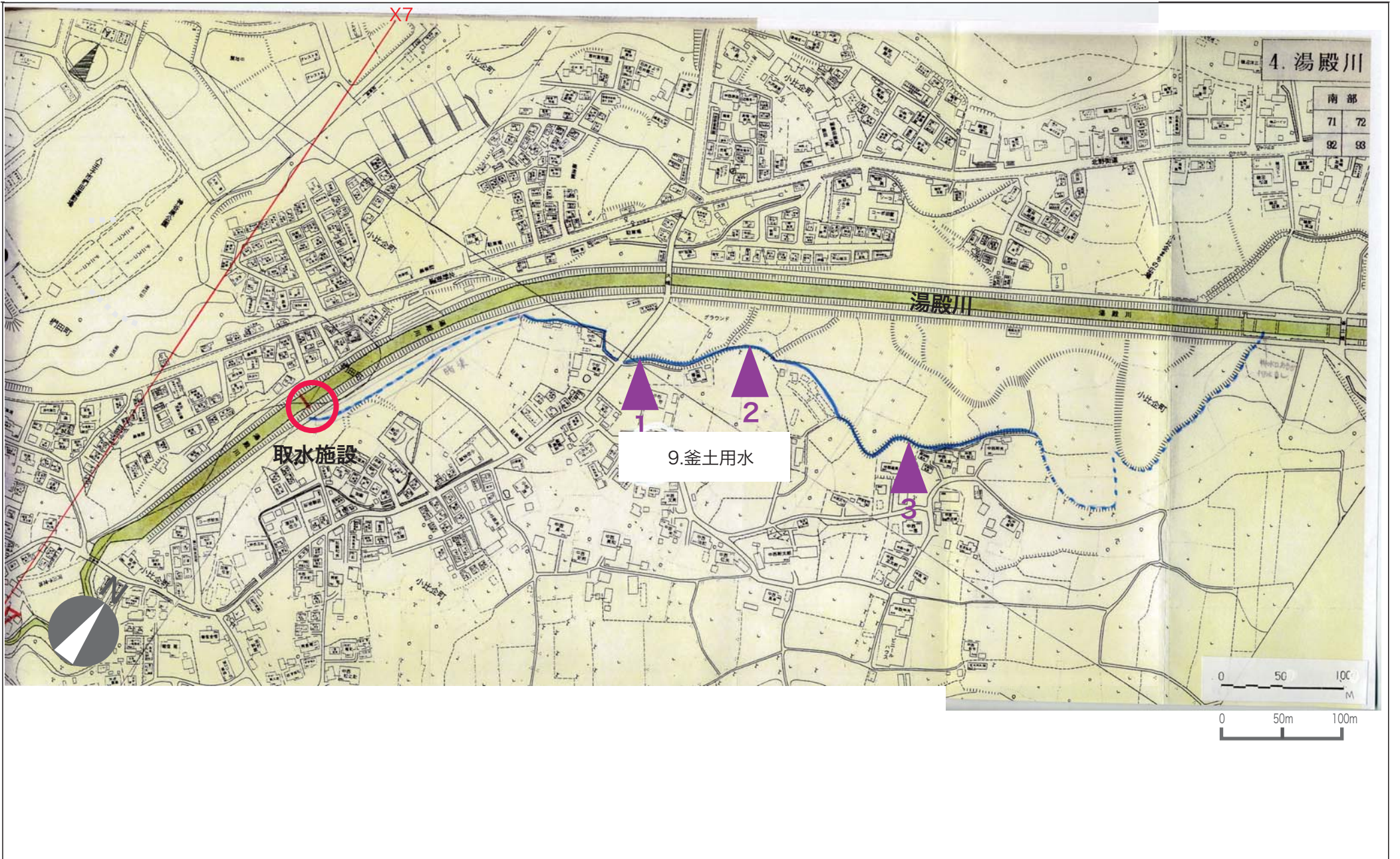


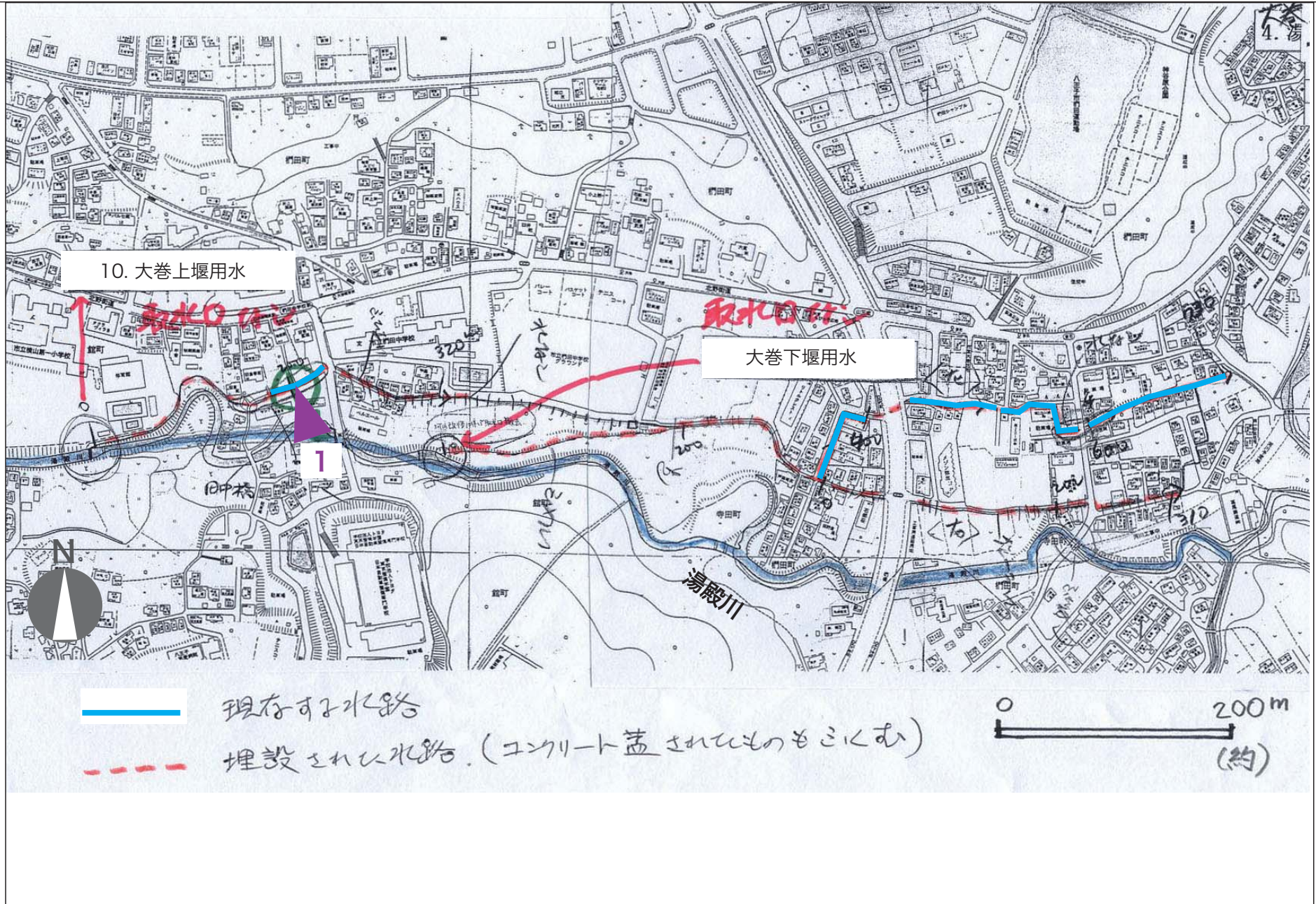
7. 小比木用水

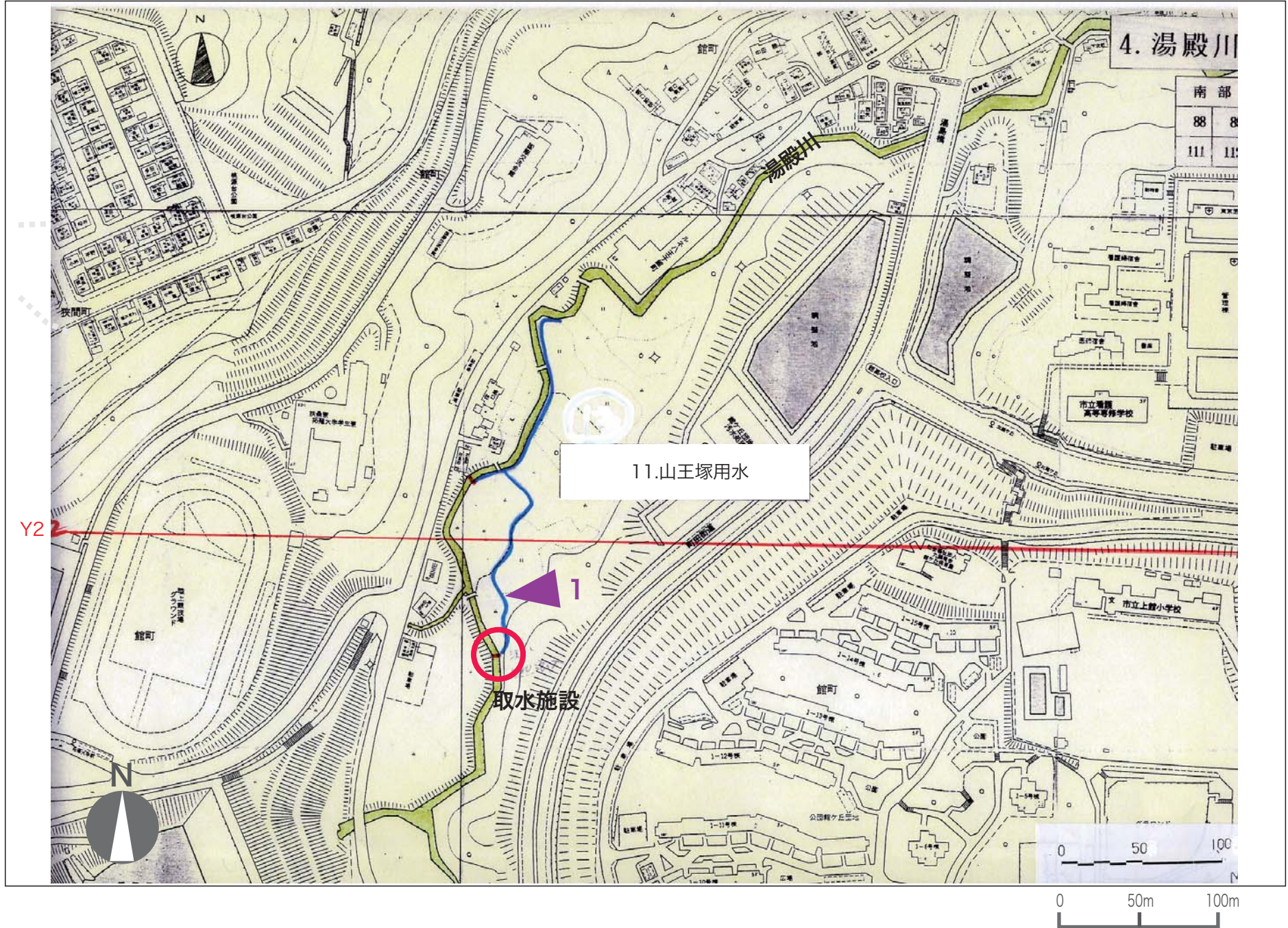
取水施設なし。水路の形状は不明確。

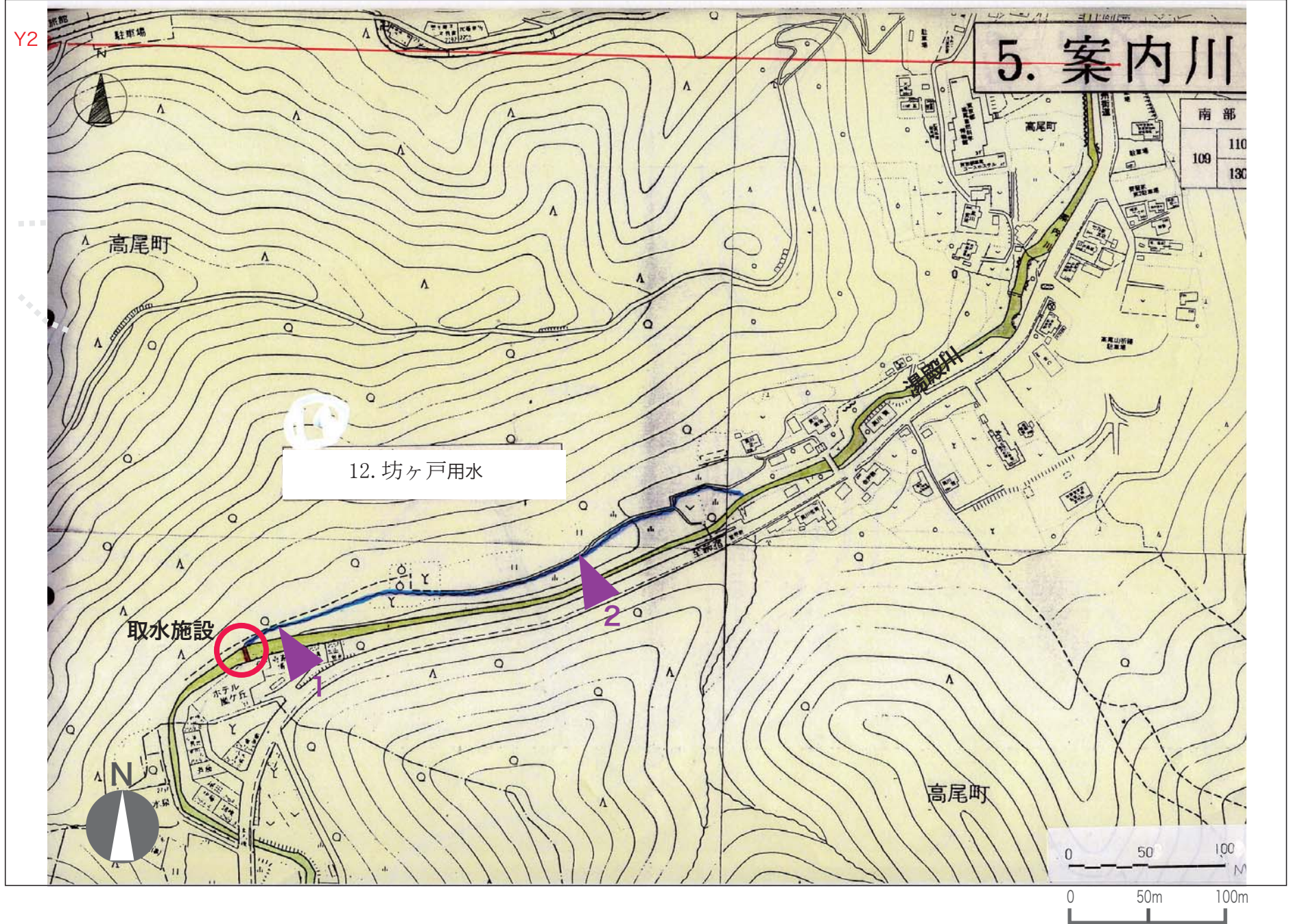
0 50m 100m



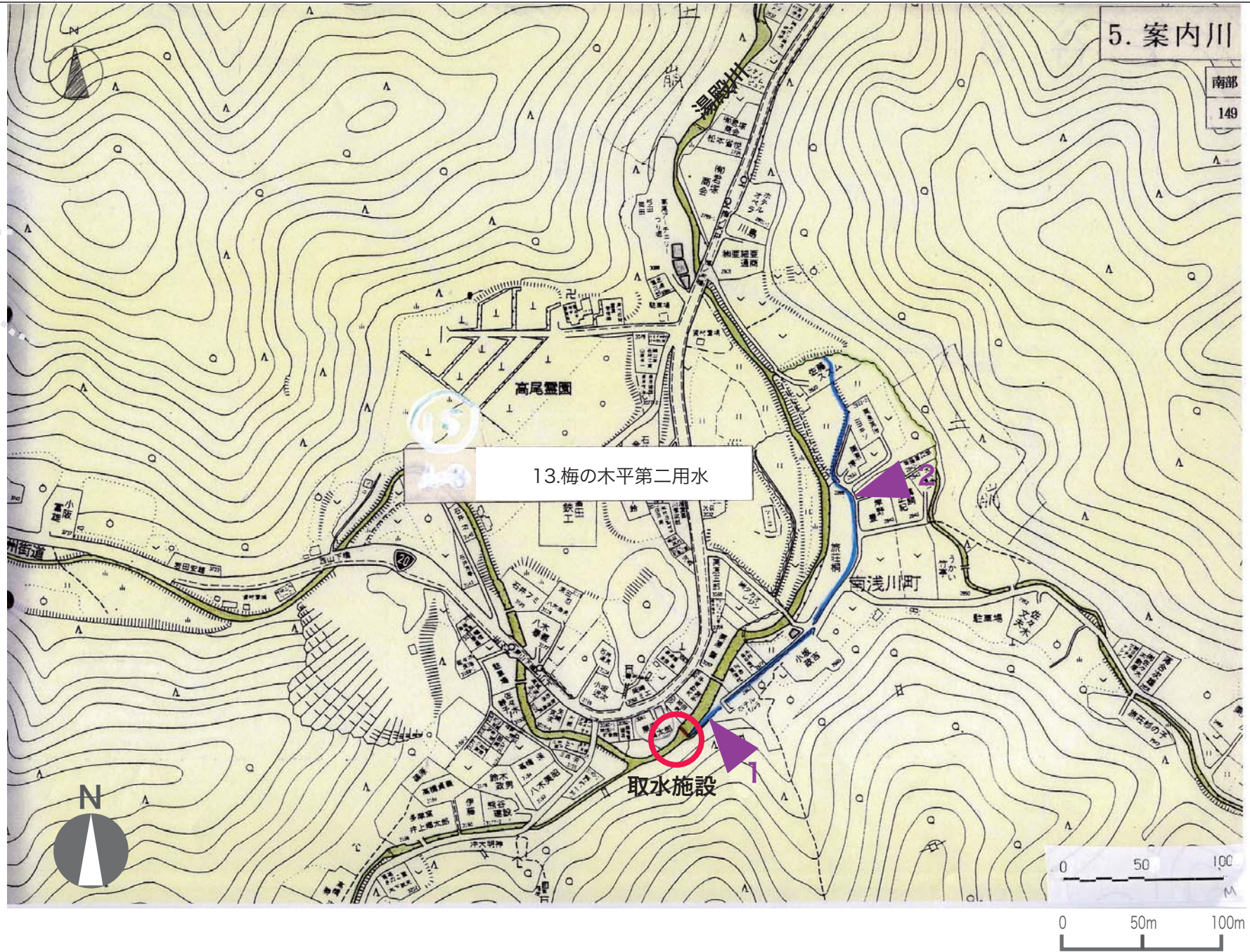


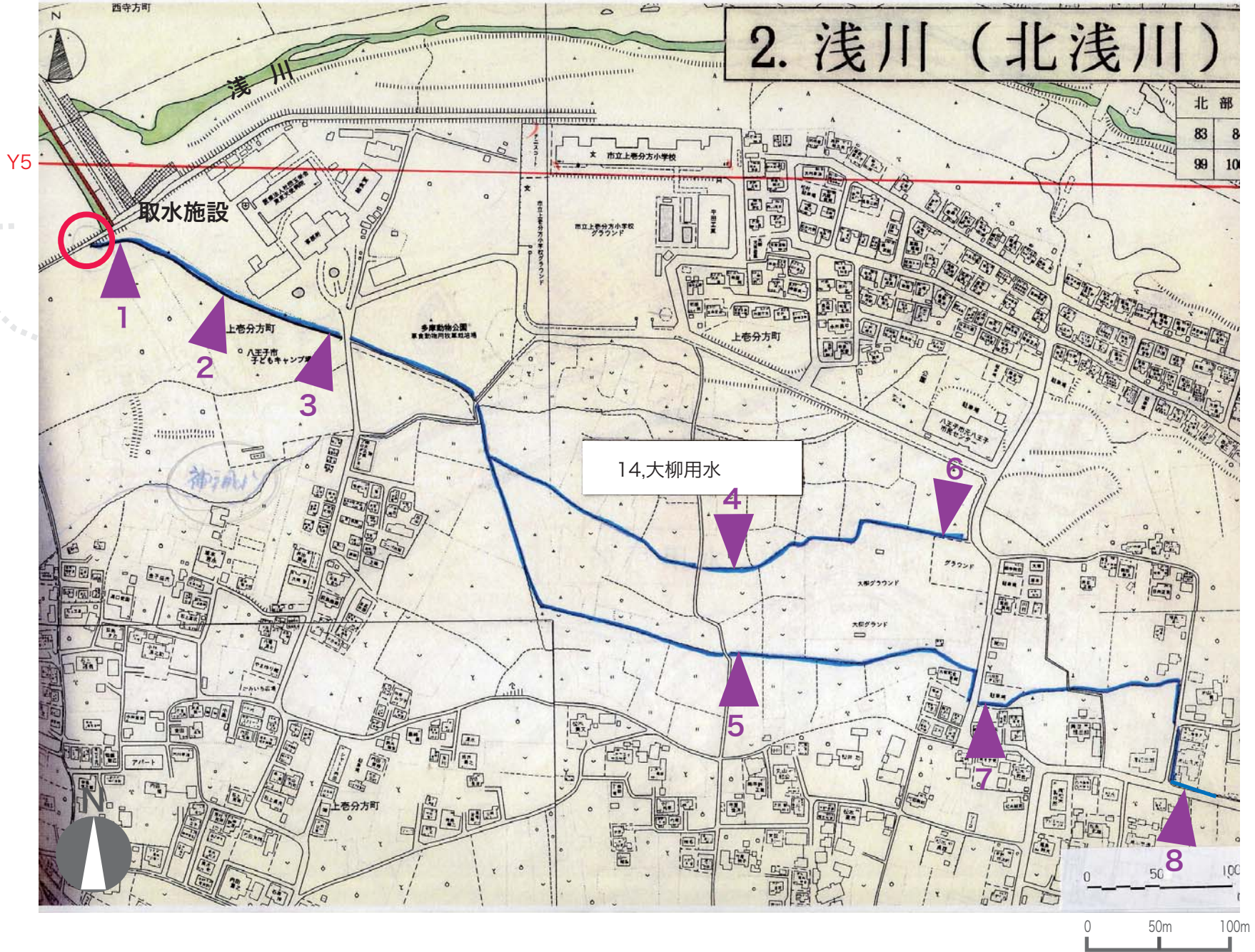


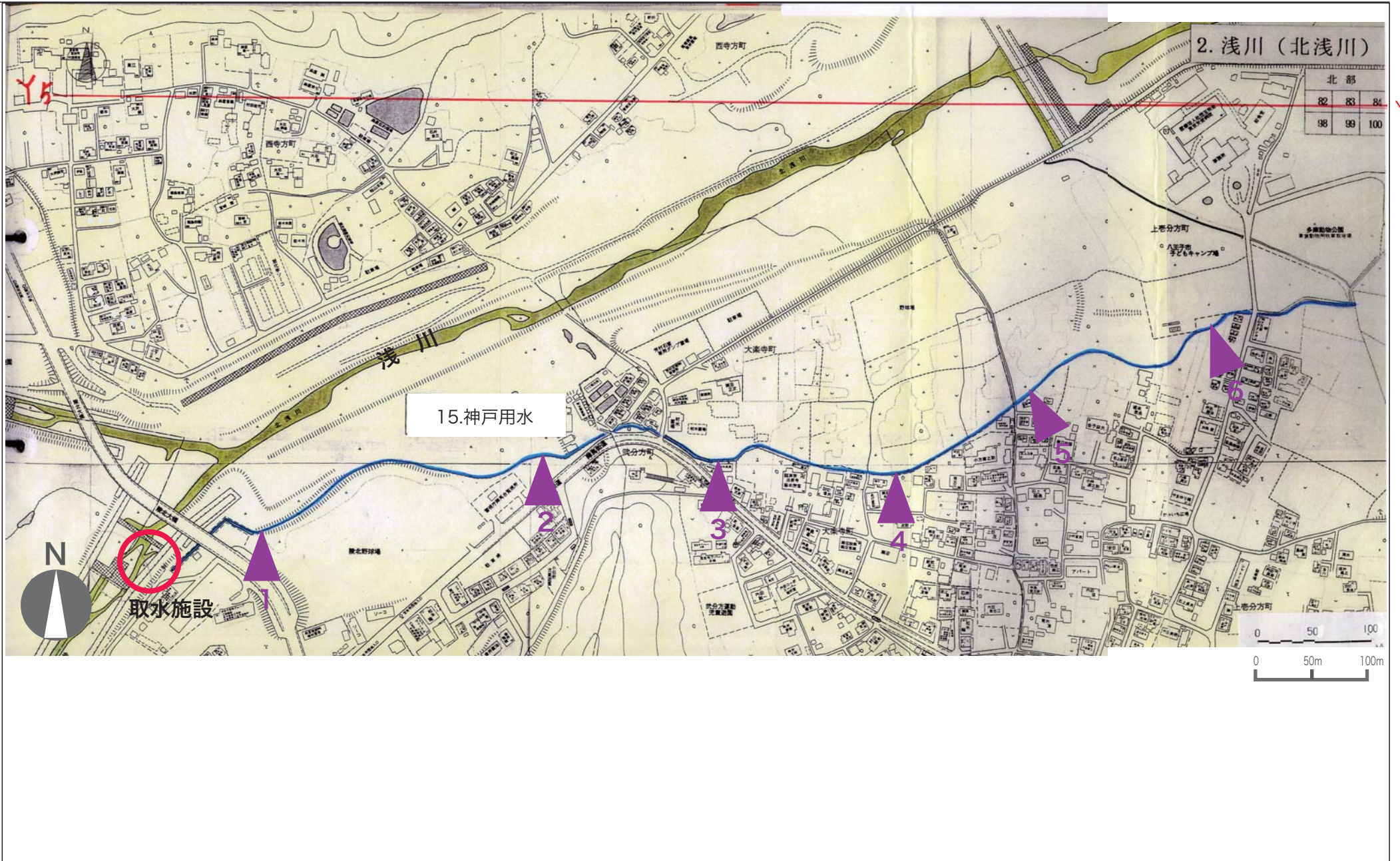


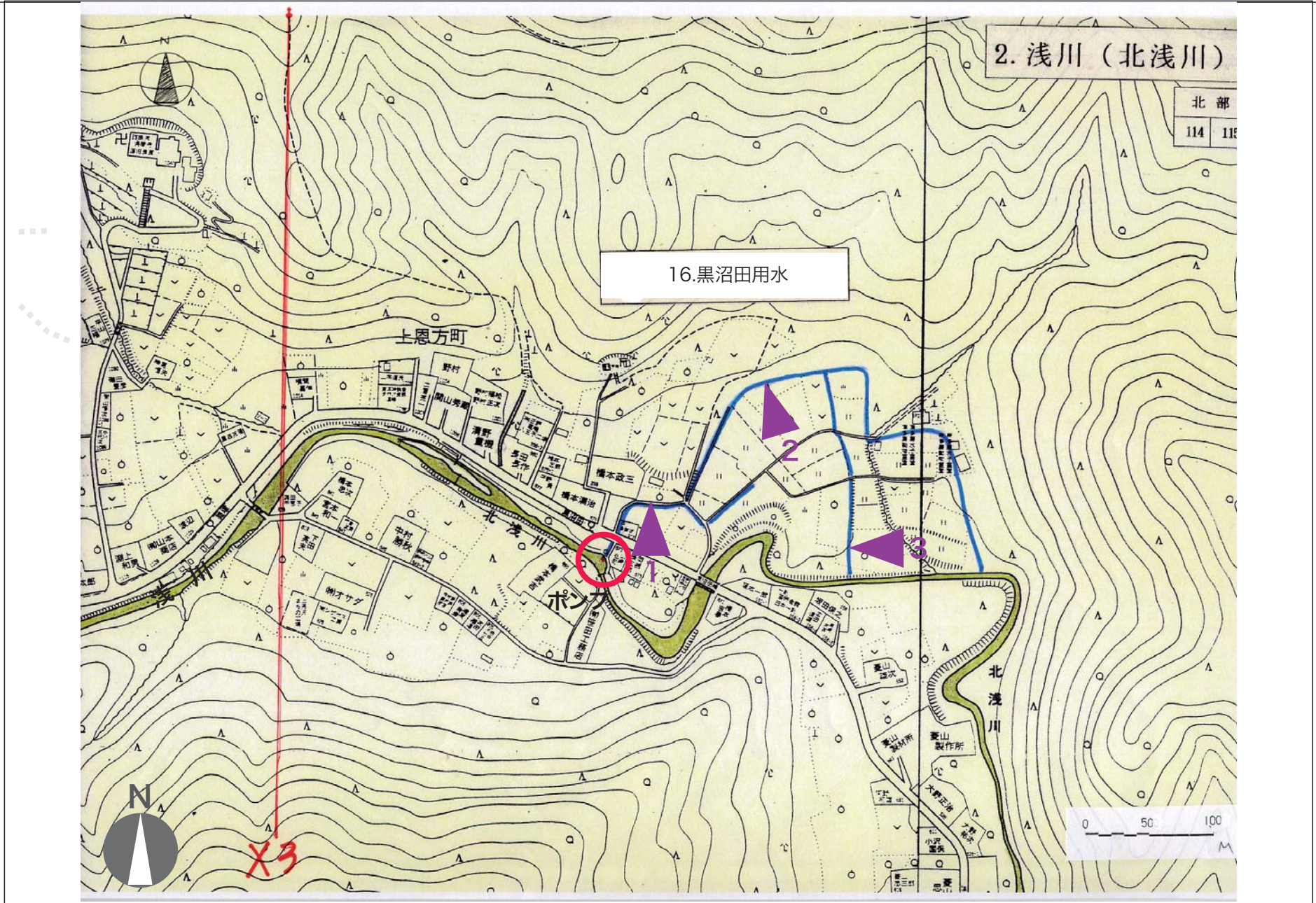






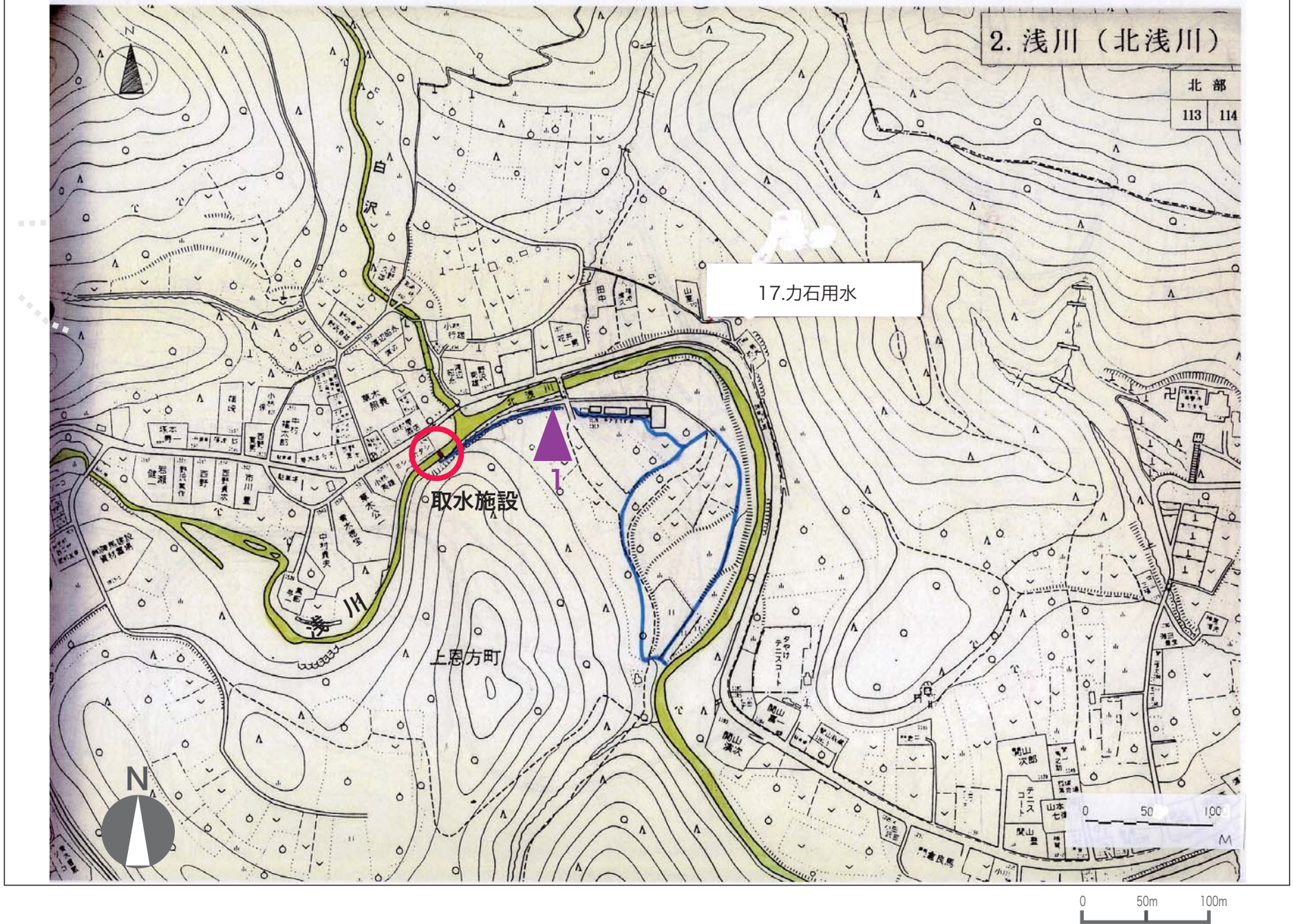


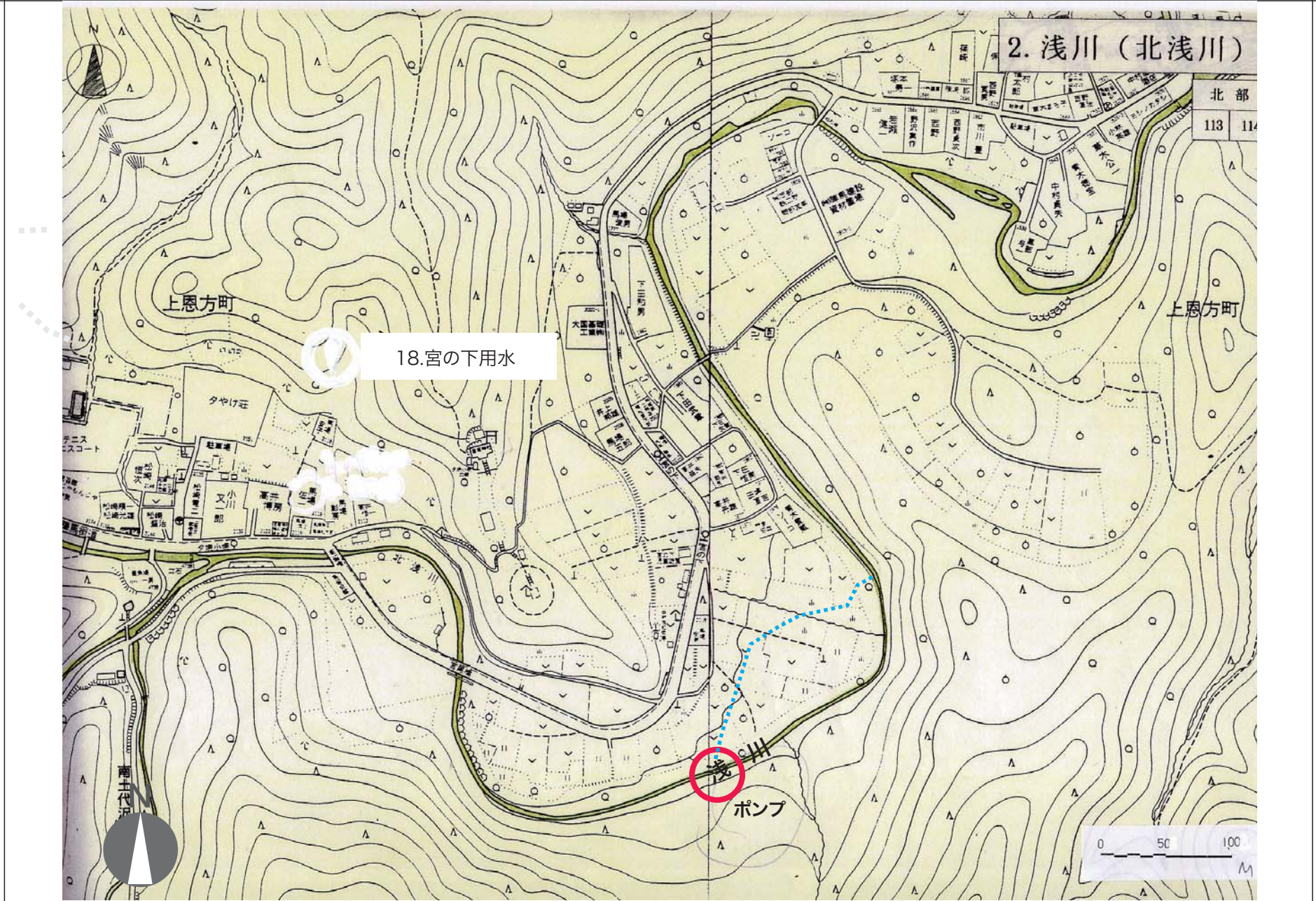




X3



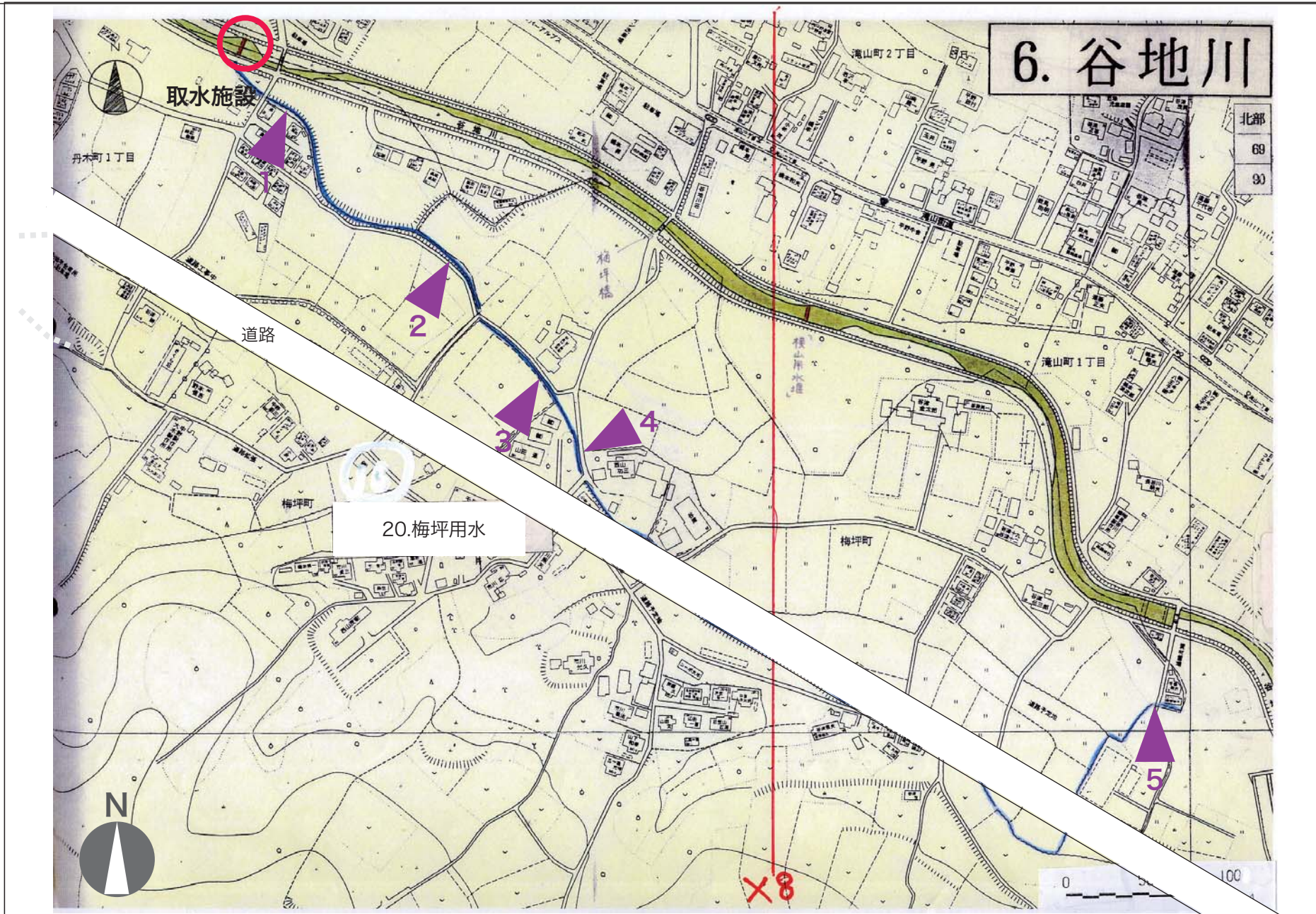




取水施設は廃止されており、用水路および水田は「ふれあいの里」として利用されている。



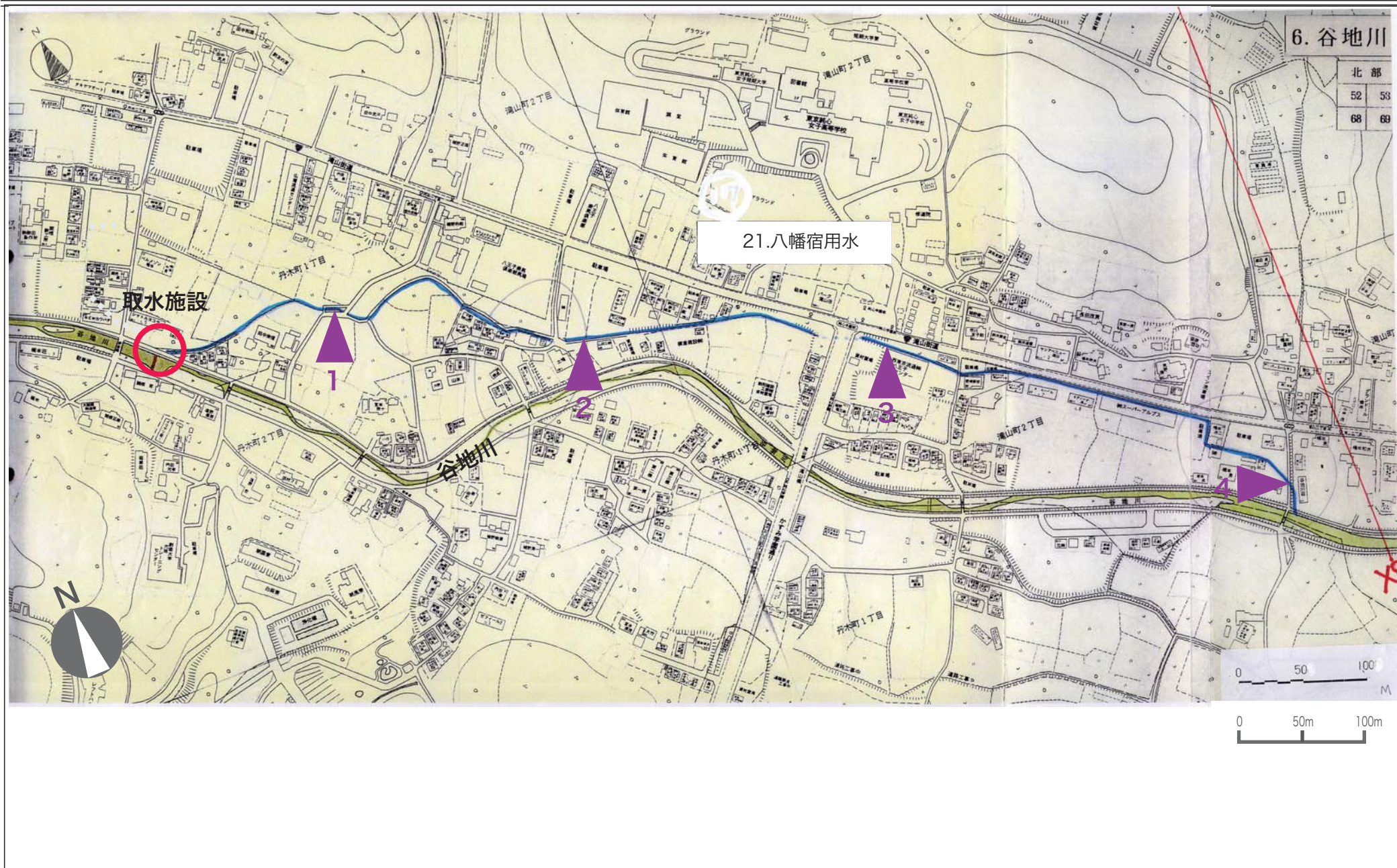


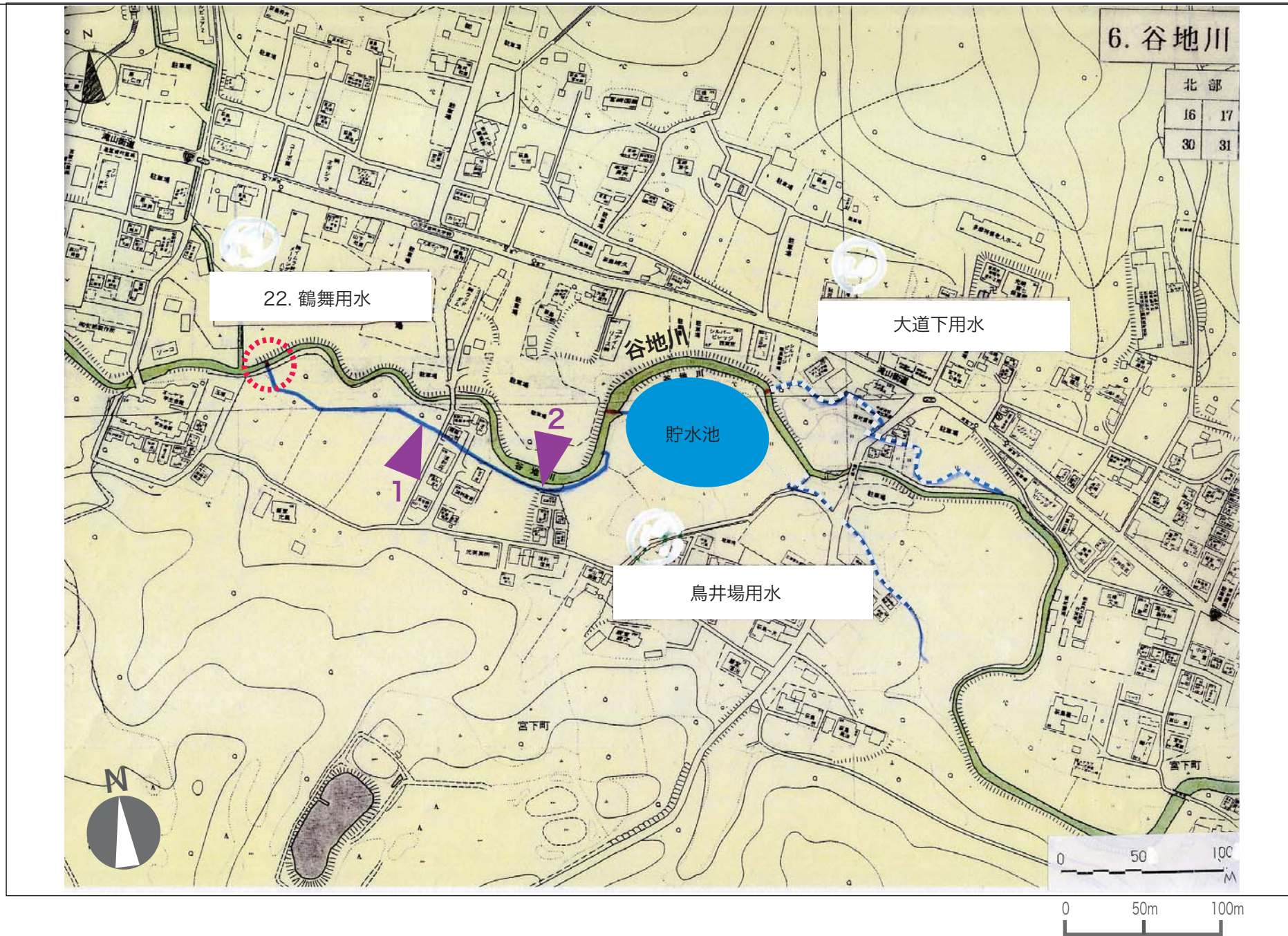


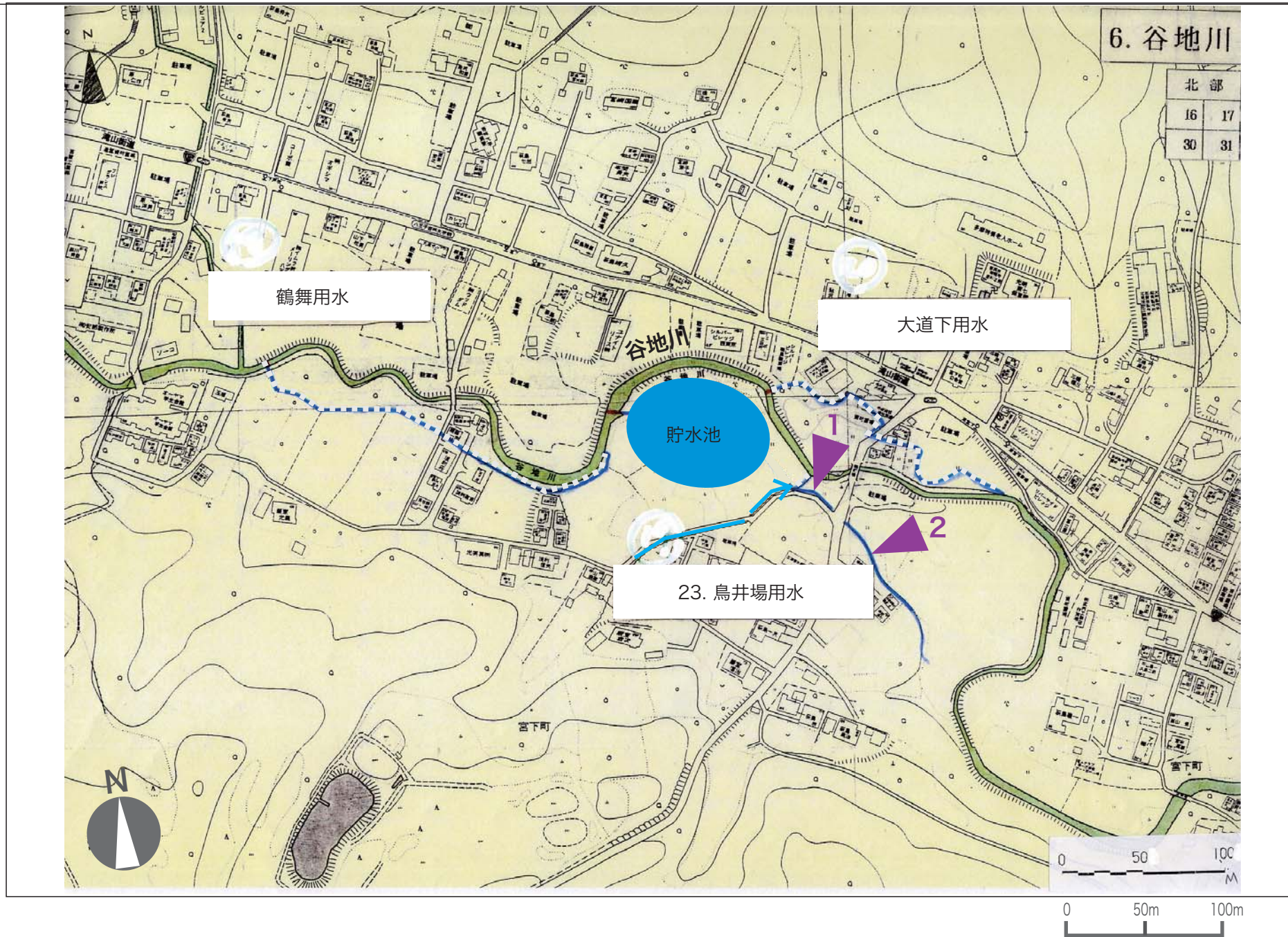
X8

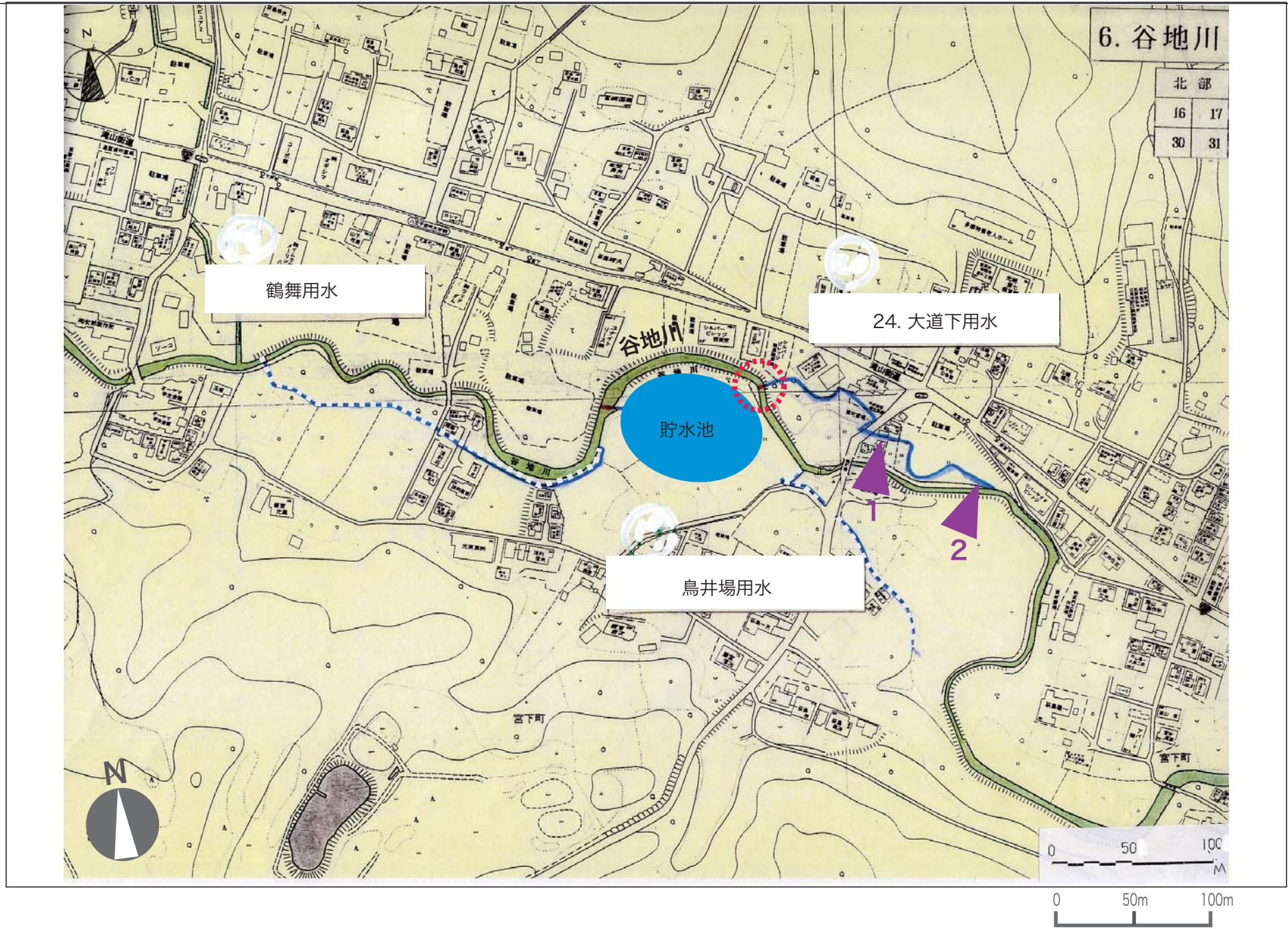


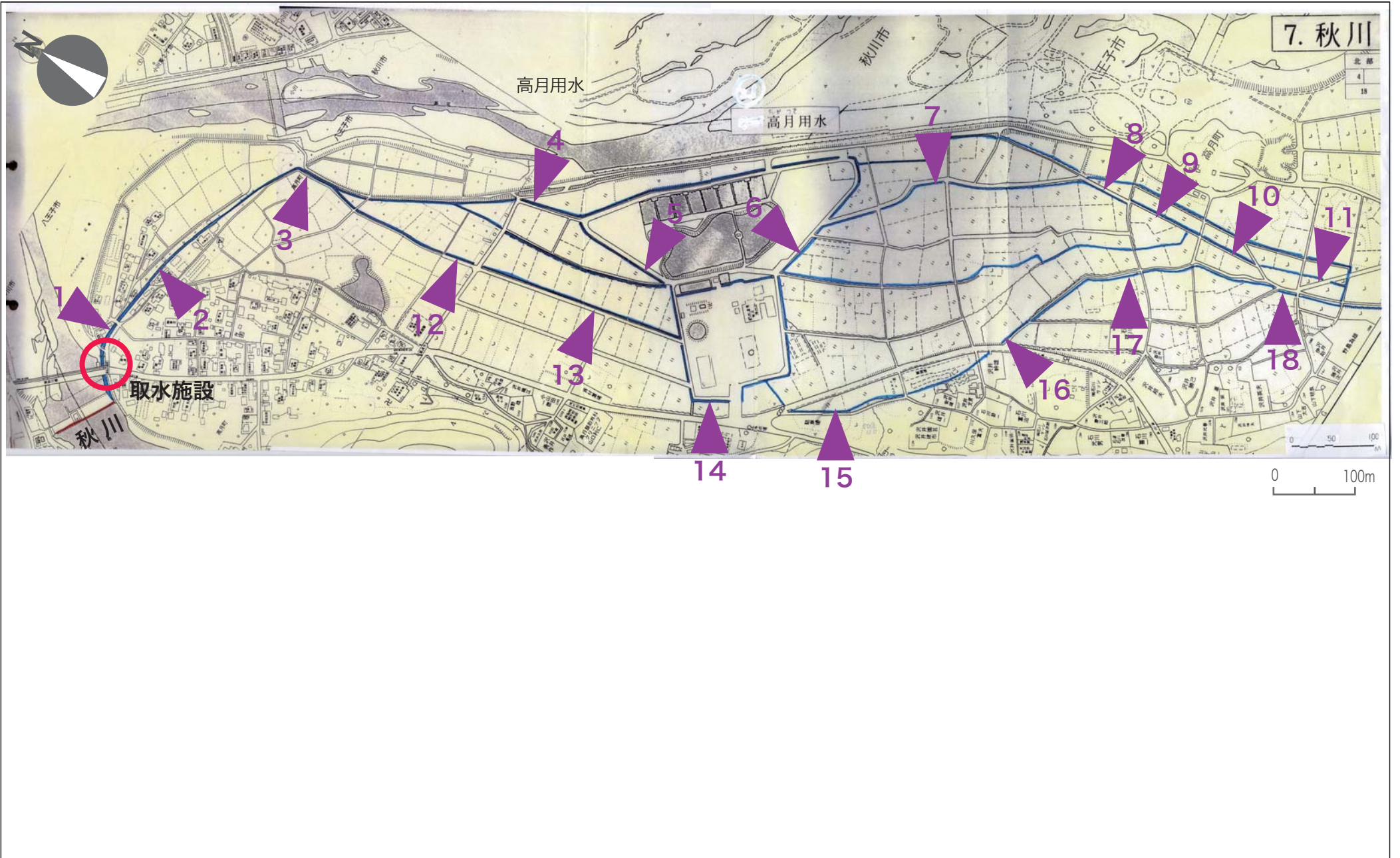


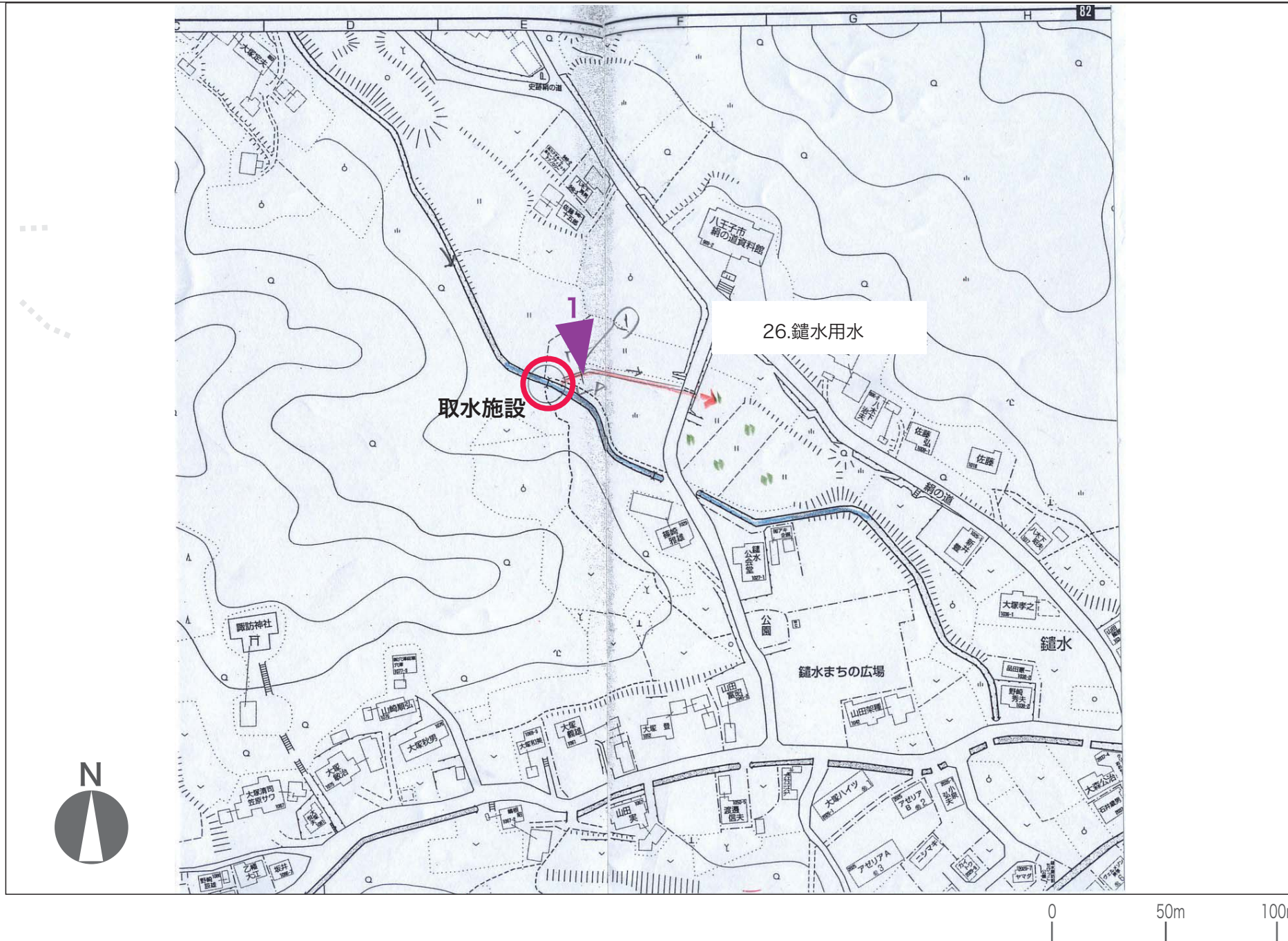








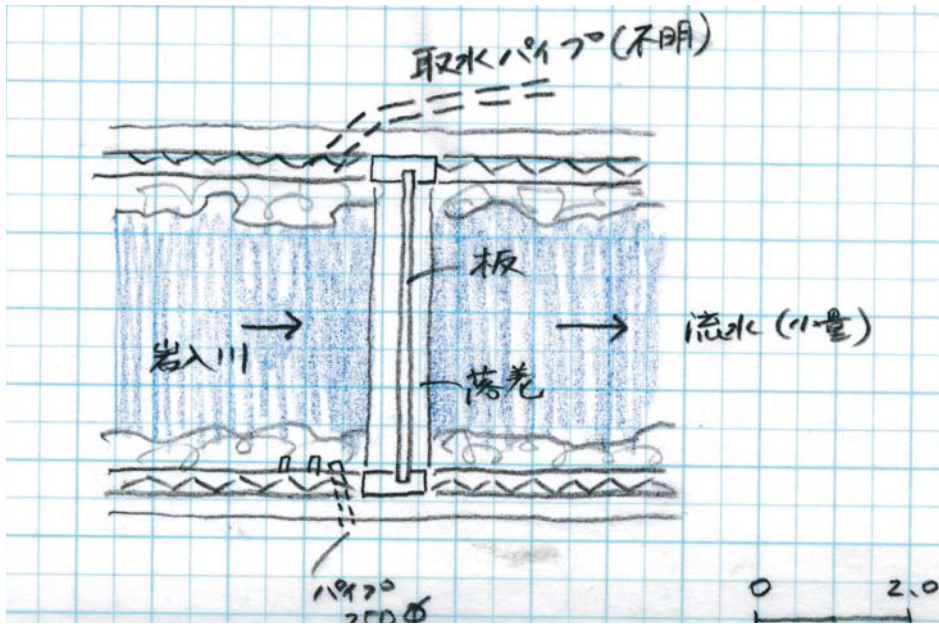




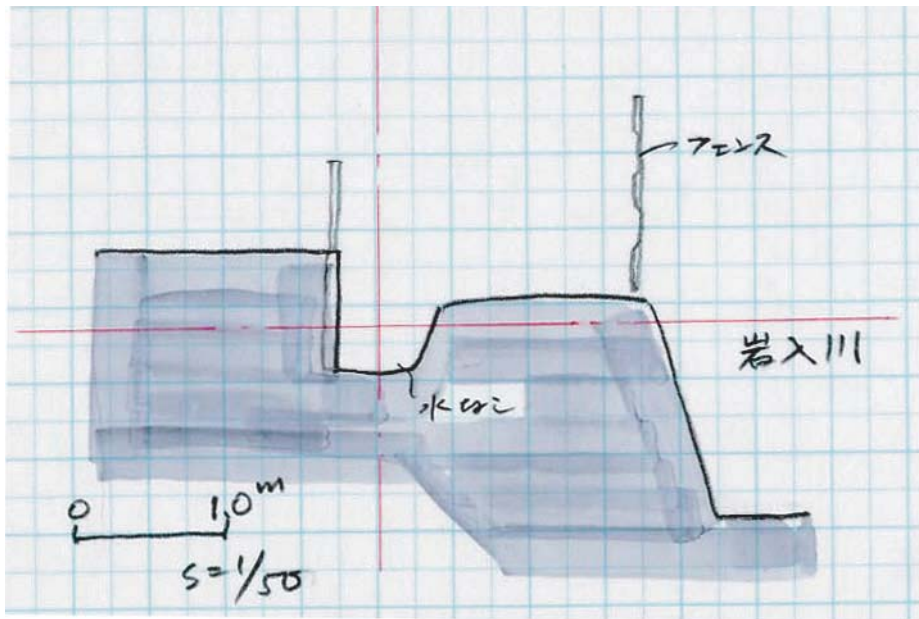
2. 現地調査によって得られた記録と成果の概要 (26水路)

1) 取水堰および水路断面図および写真

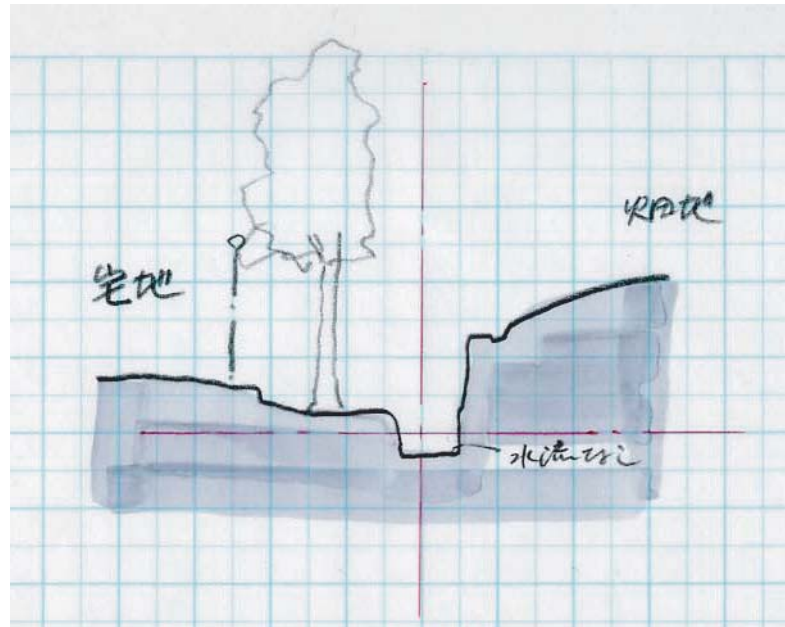
1. 上柚木用水



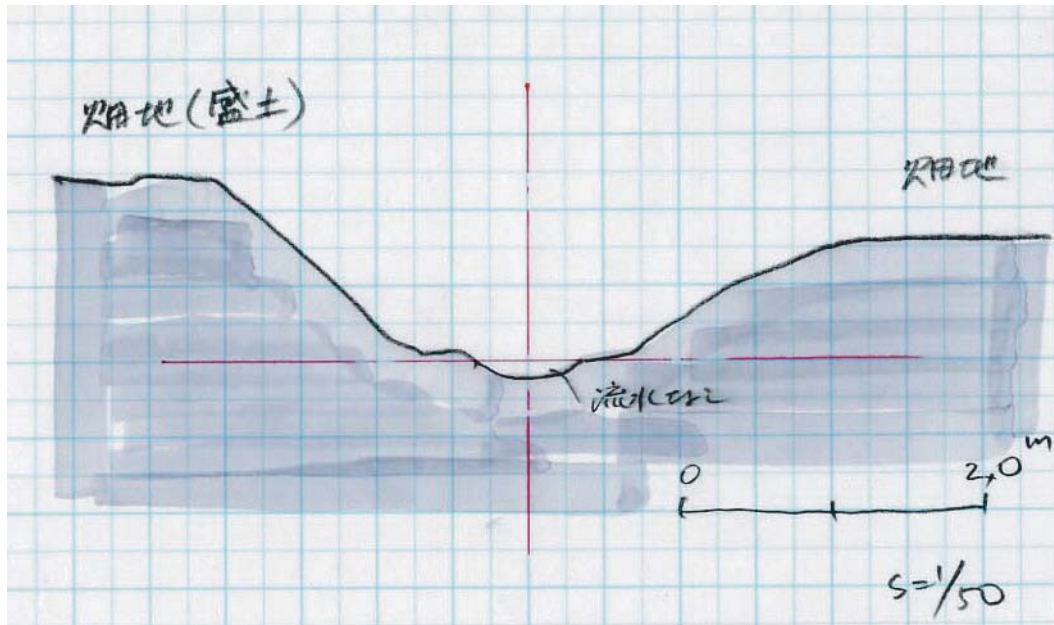
取水口上流より見る



1

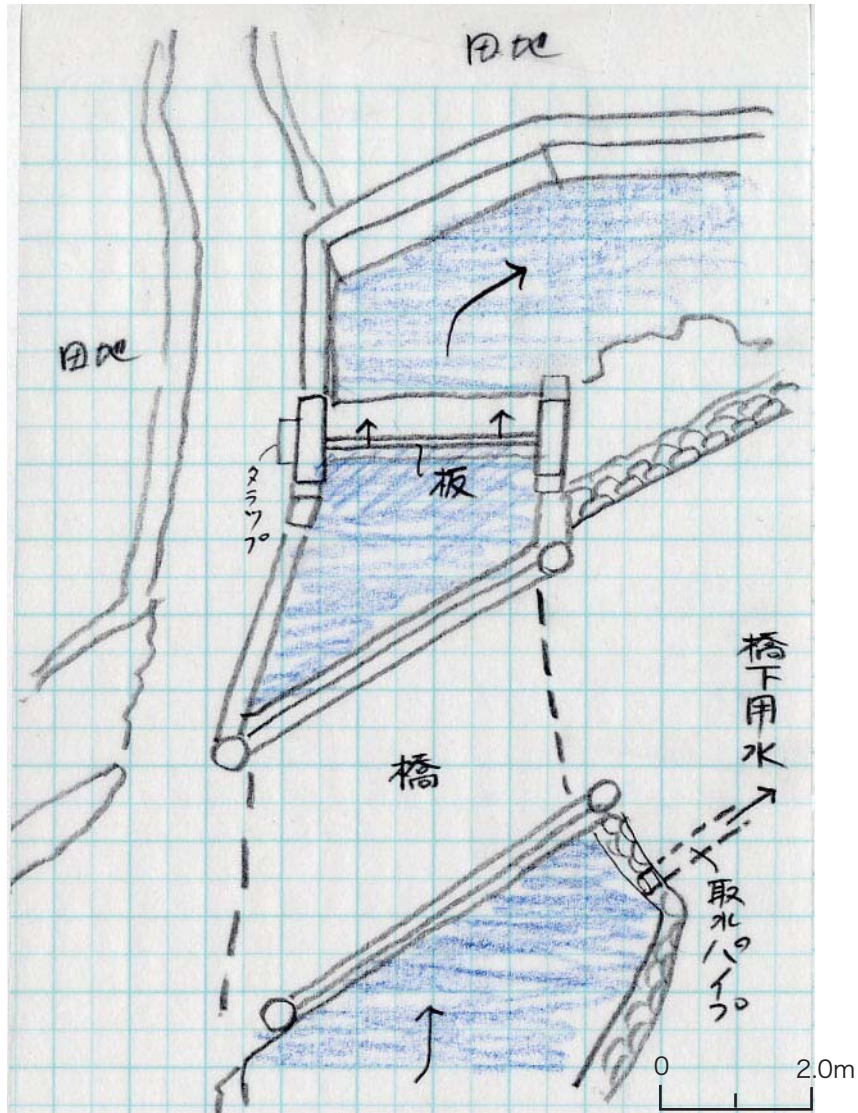


2



3



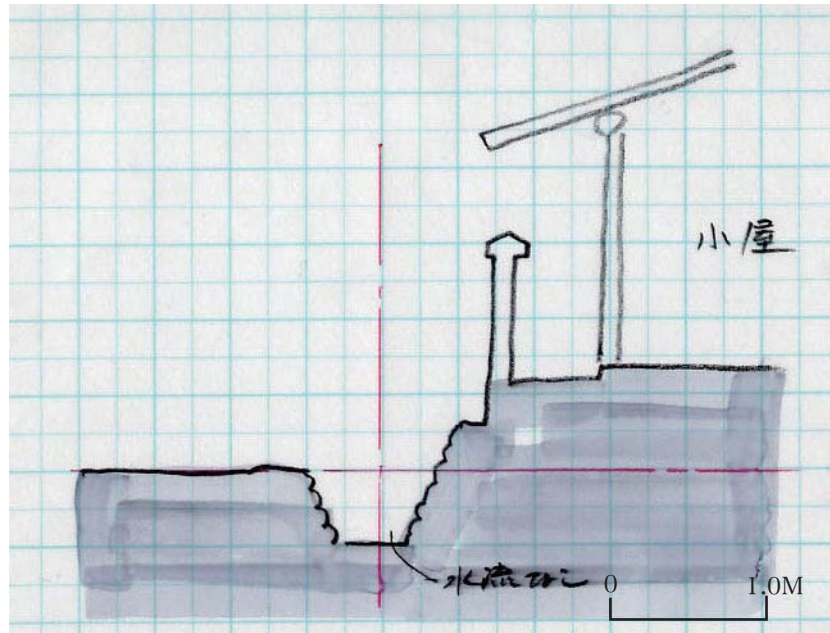


水門上流より見たところ

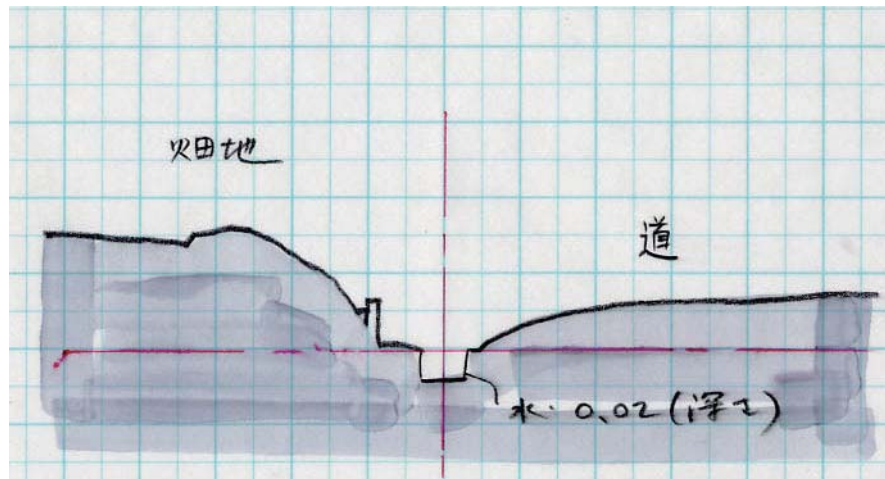


1

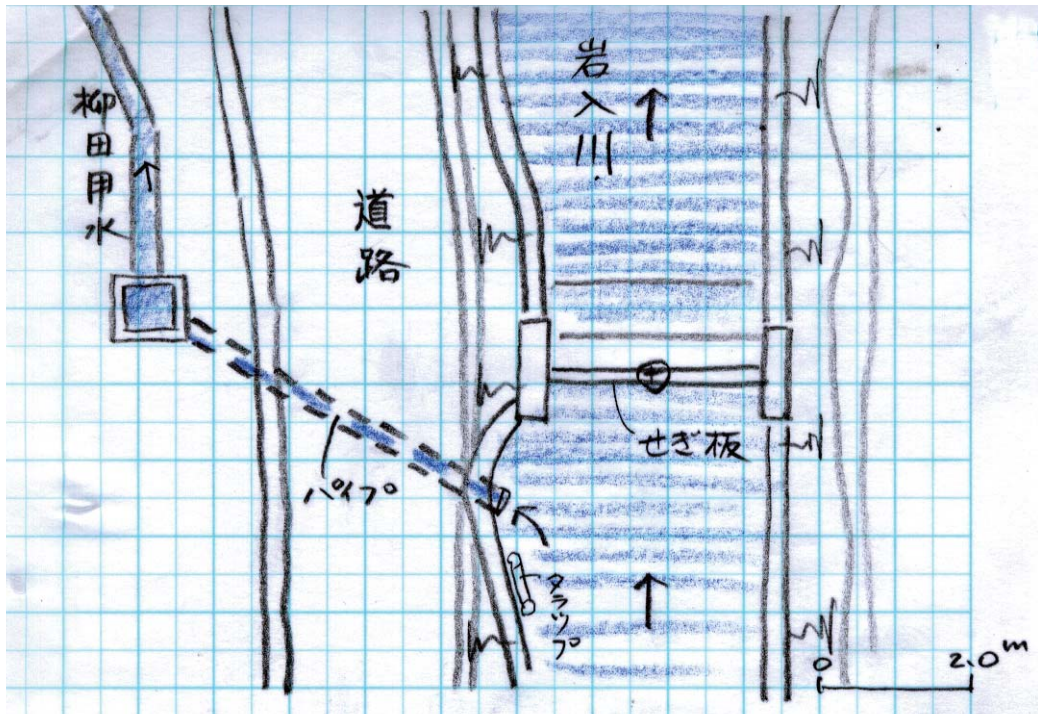
水門の下流部をみたところ  
流れ少量あり

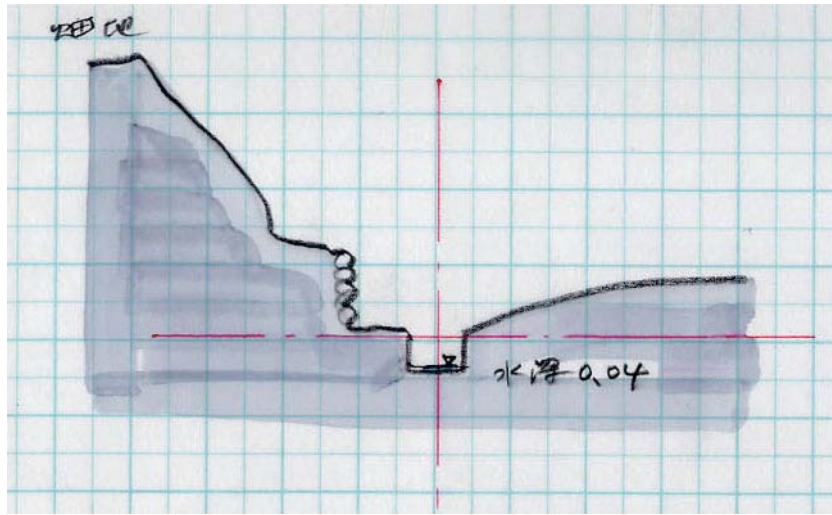


2

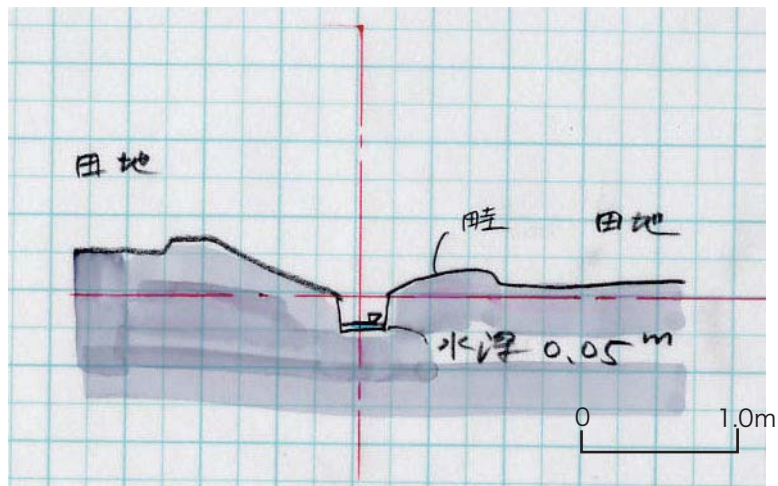


3

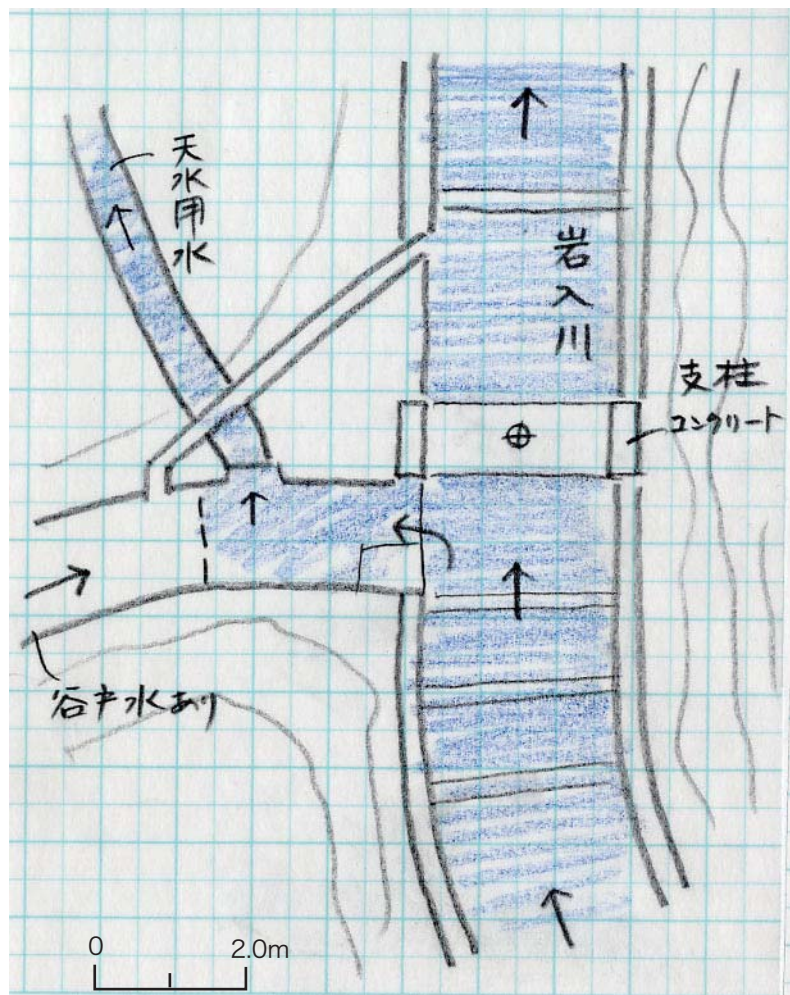




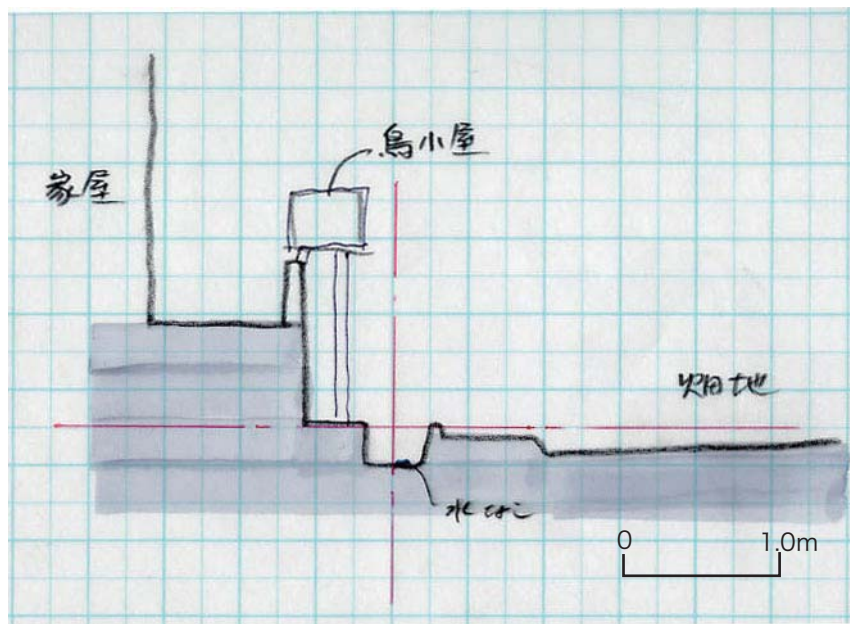
1



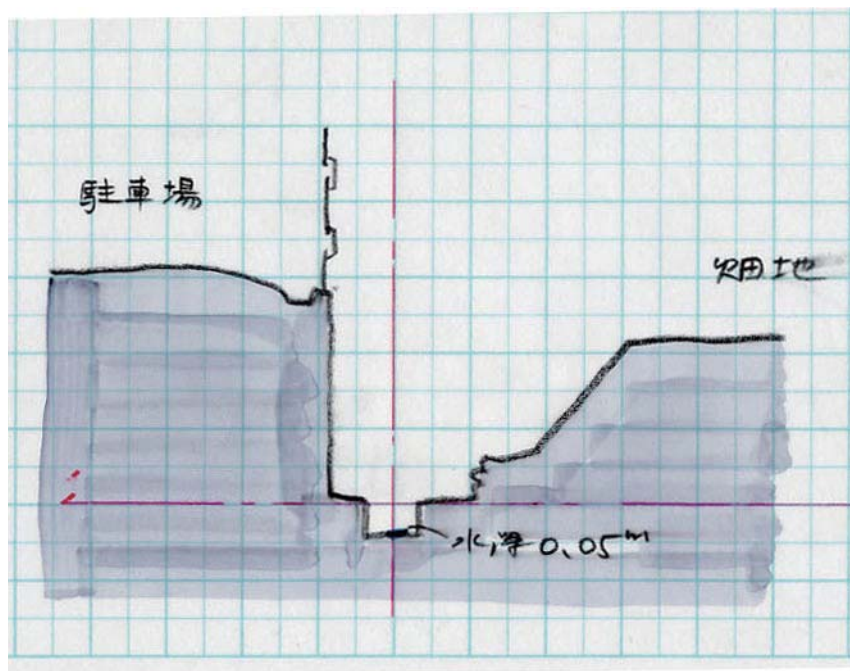
2



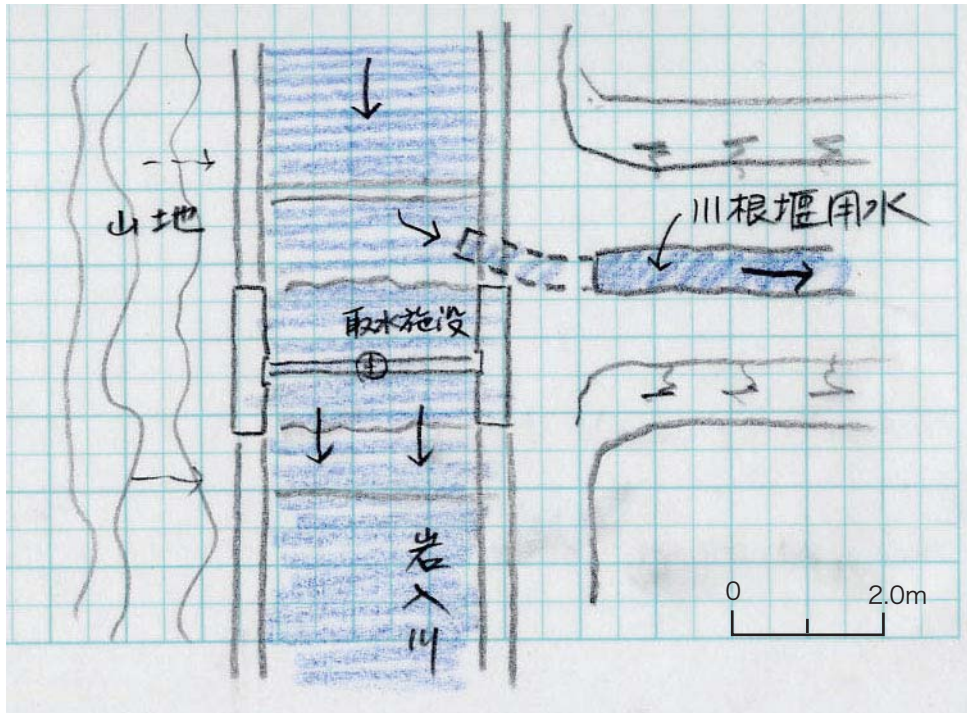
水門上流部より見る



1

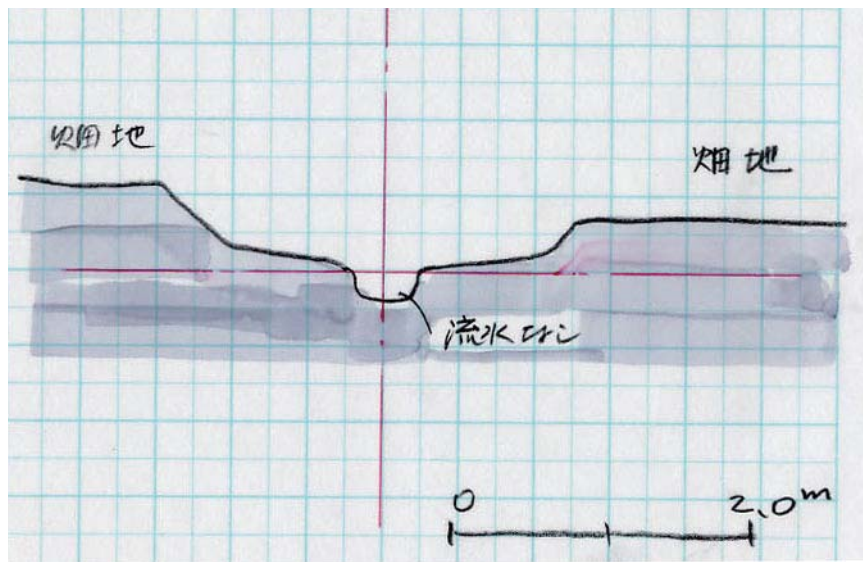


2



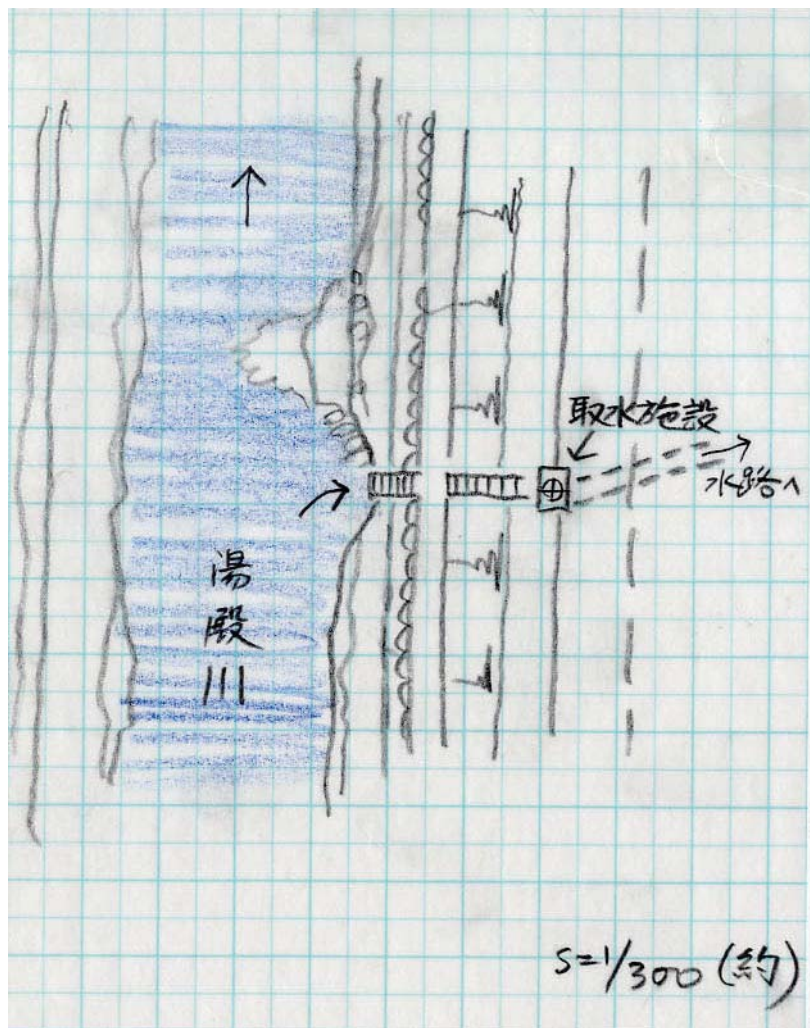
水路 ←

水門上流部より見る



1

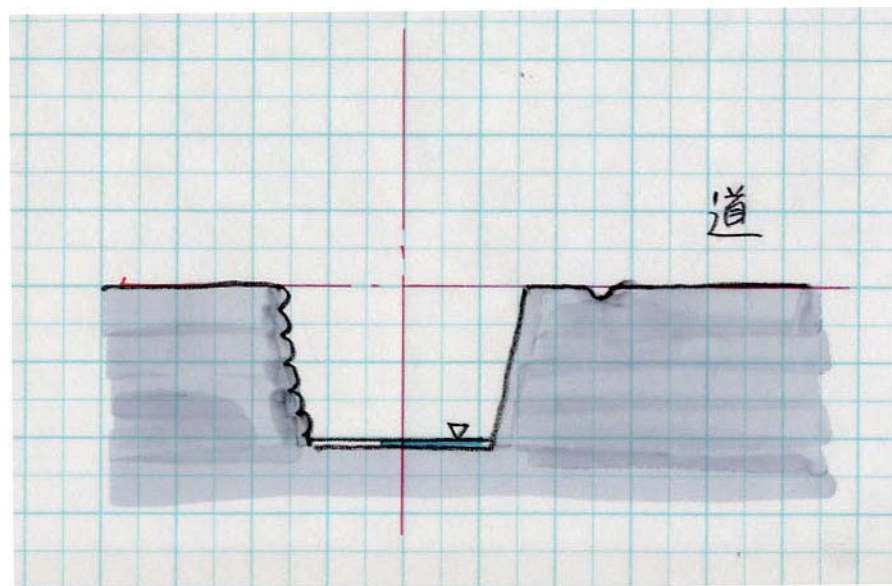
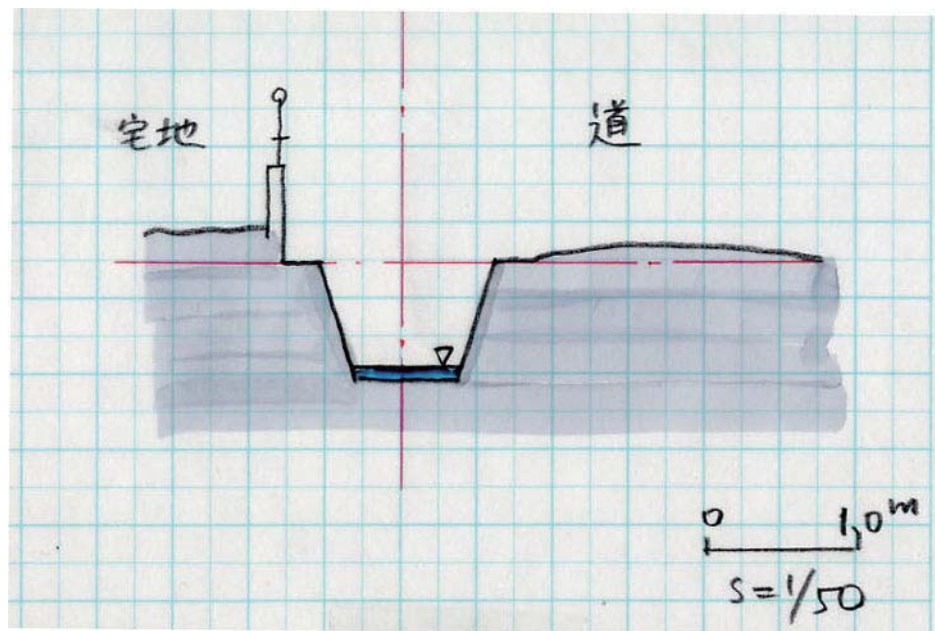


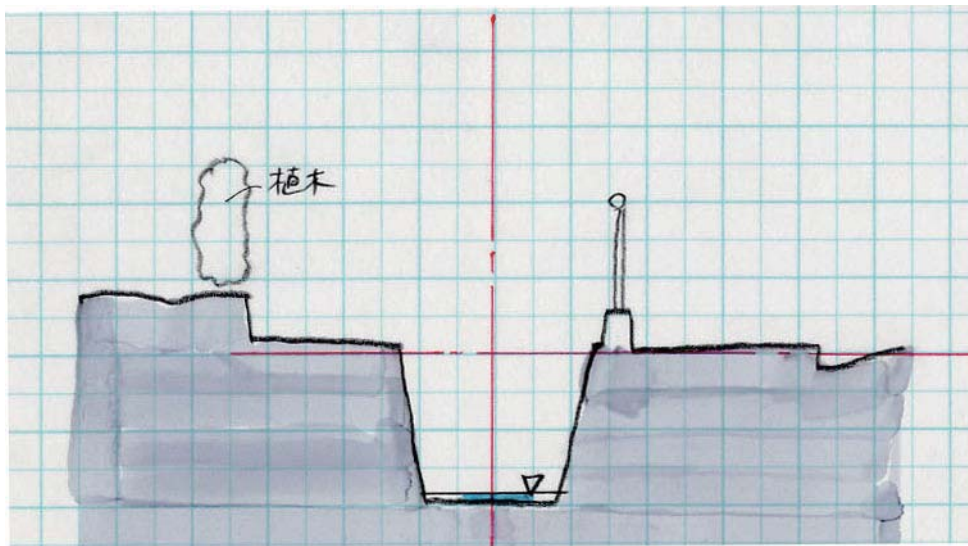


水門-下流より見たところ

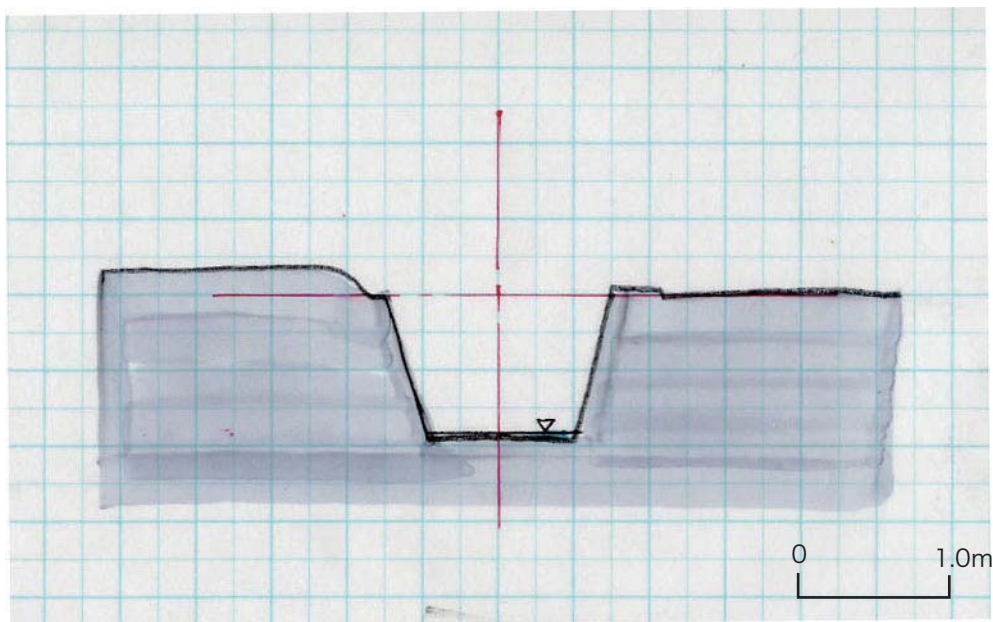


水門-上流より見たところ

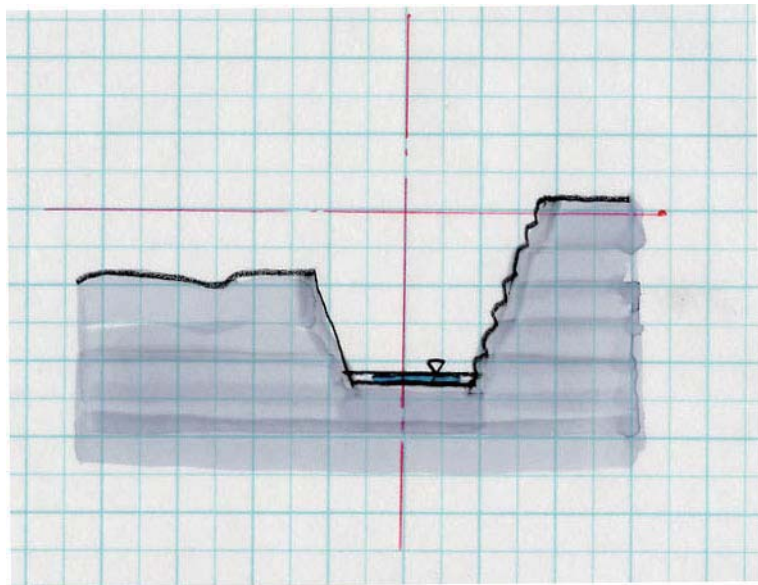




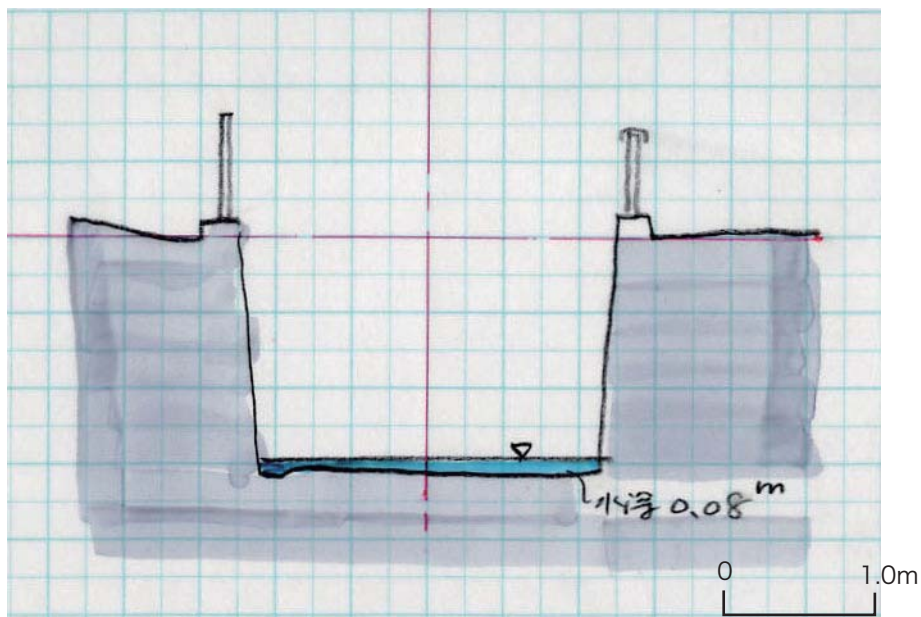
3



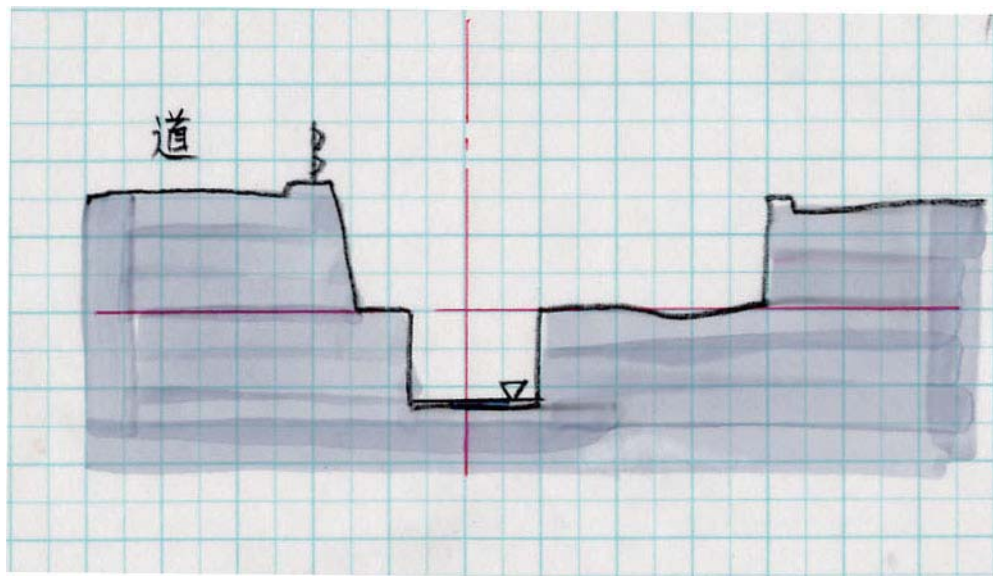
4



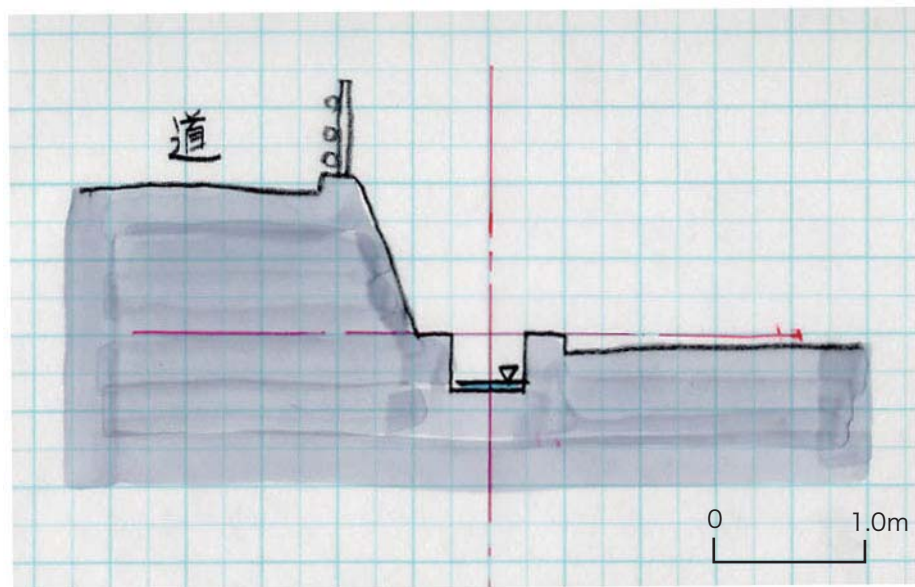
5



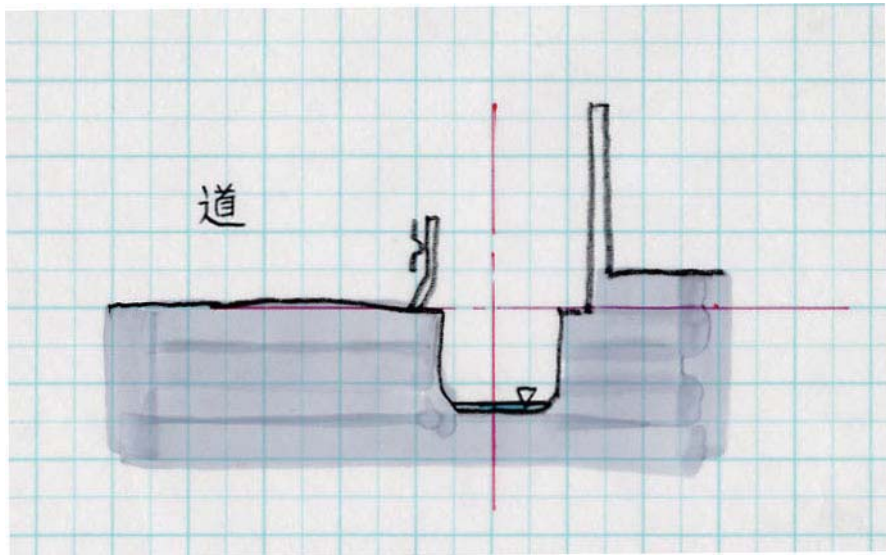
6



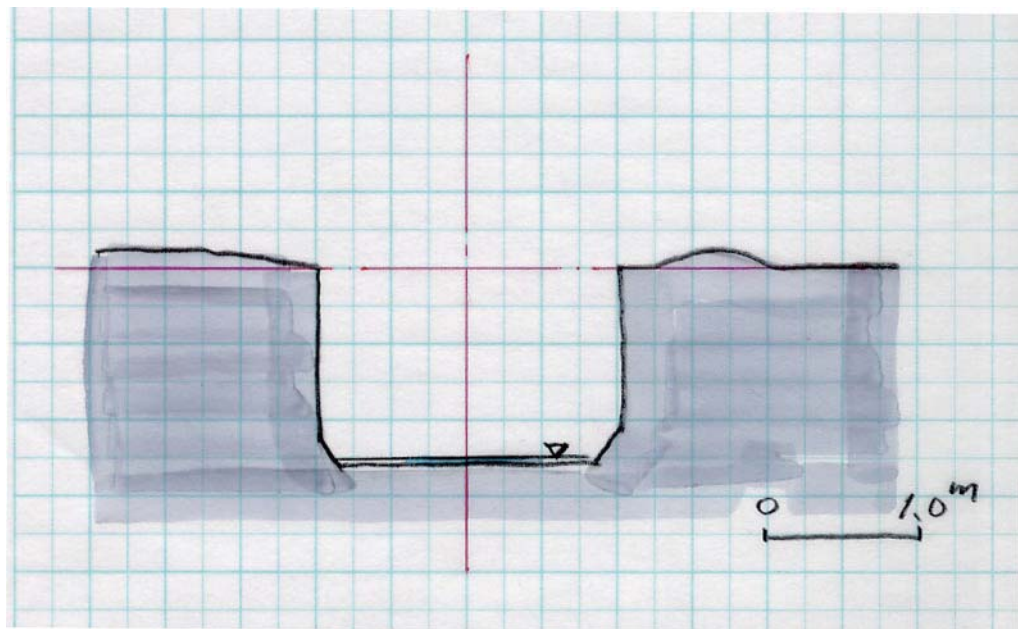
7



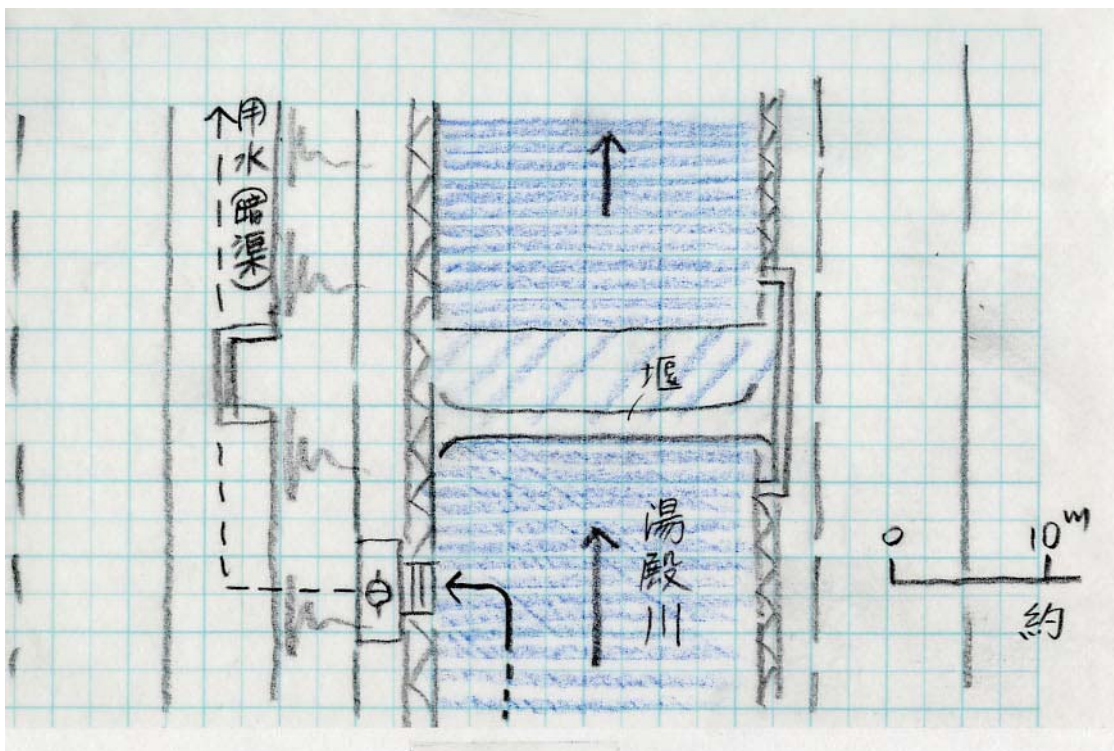
8



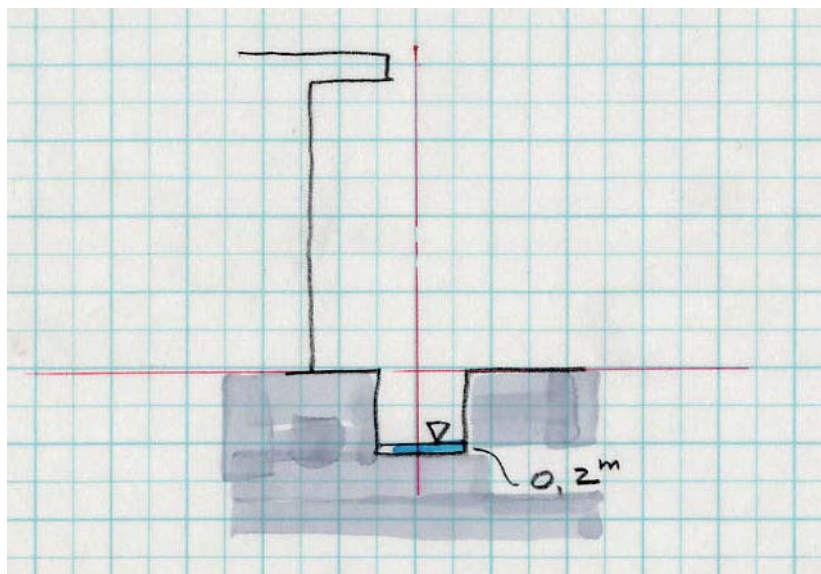
9



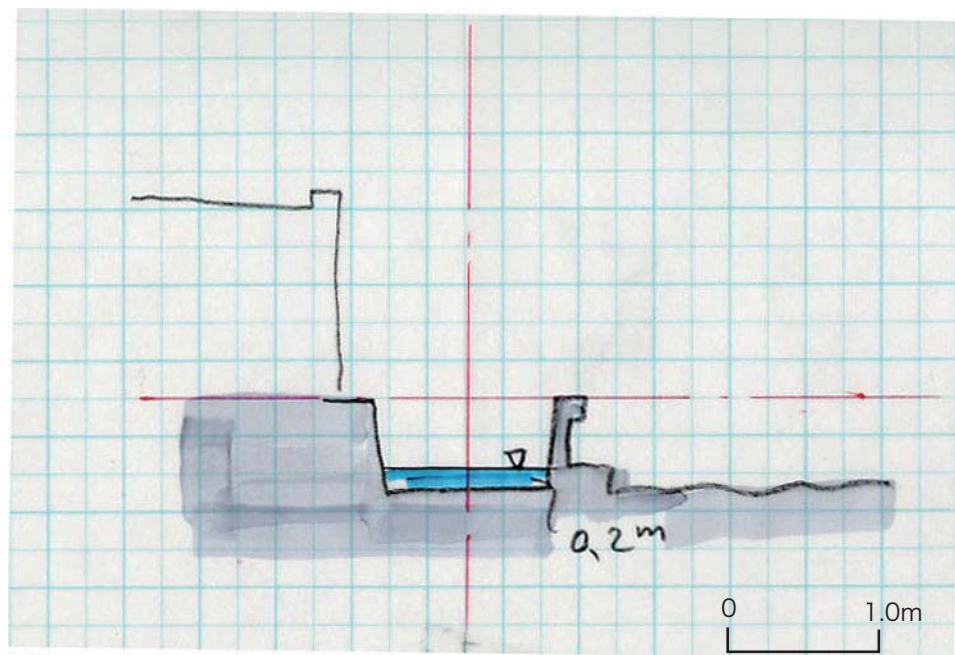
10



水門-下流より見たところ

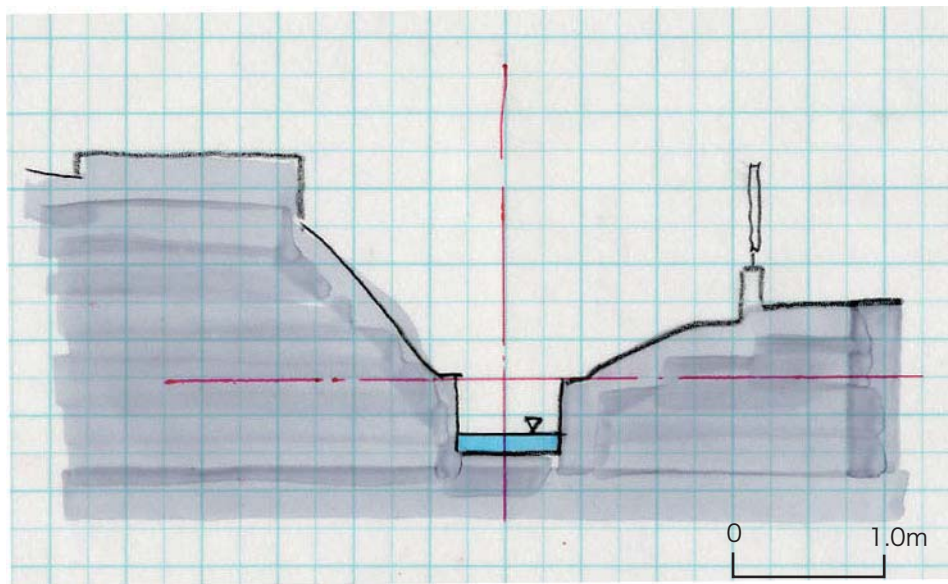


1

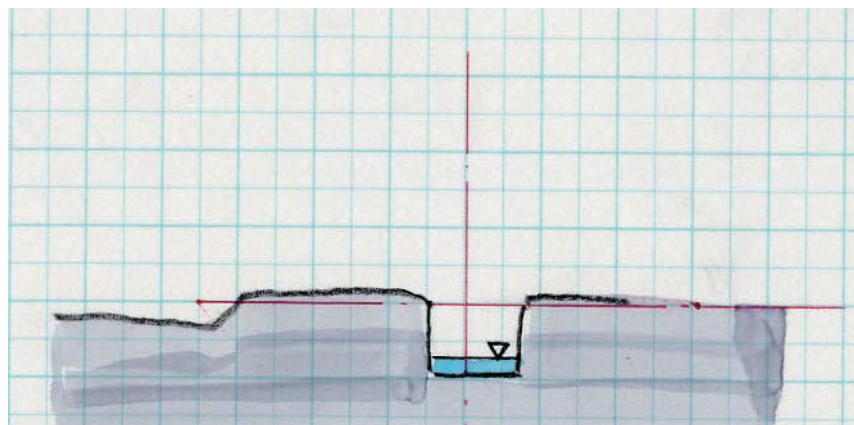


2

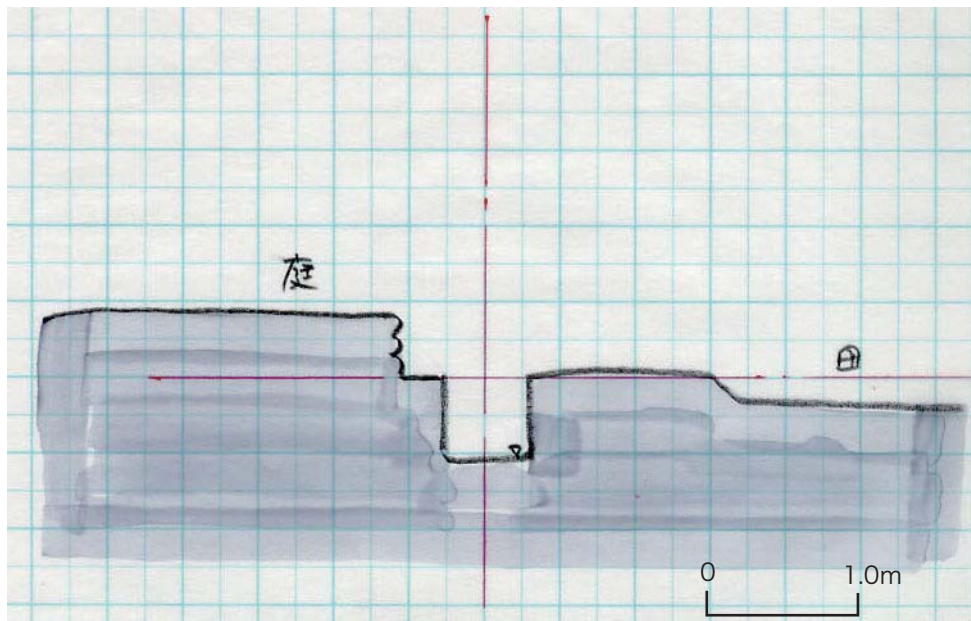




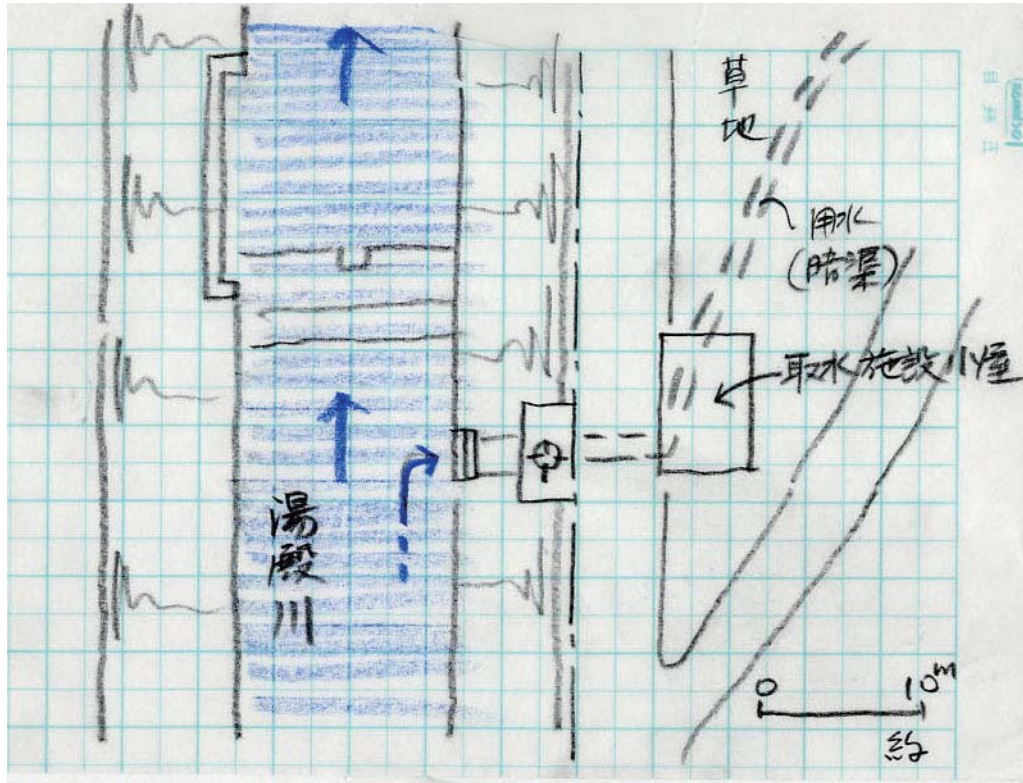
3



4



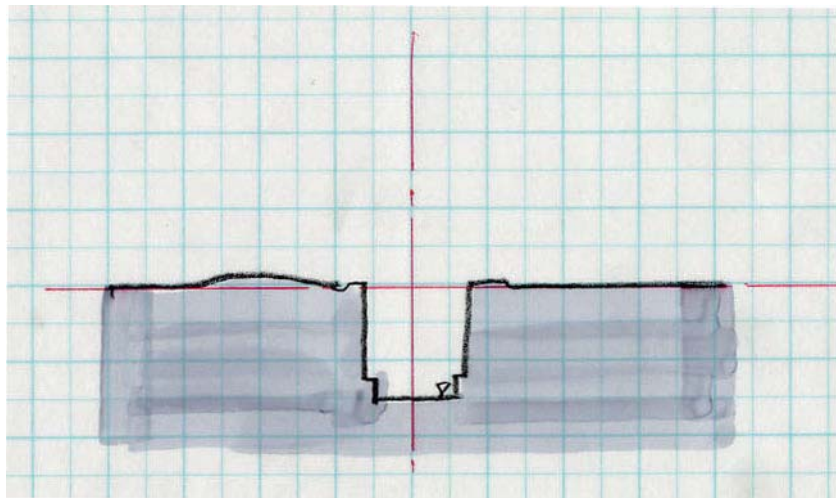
5



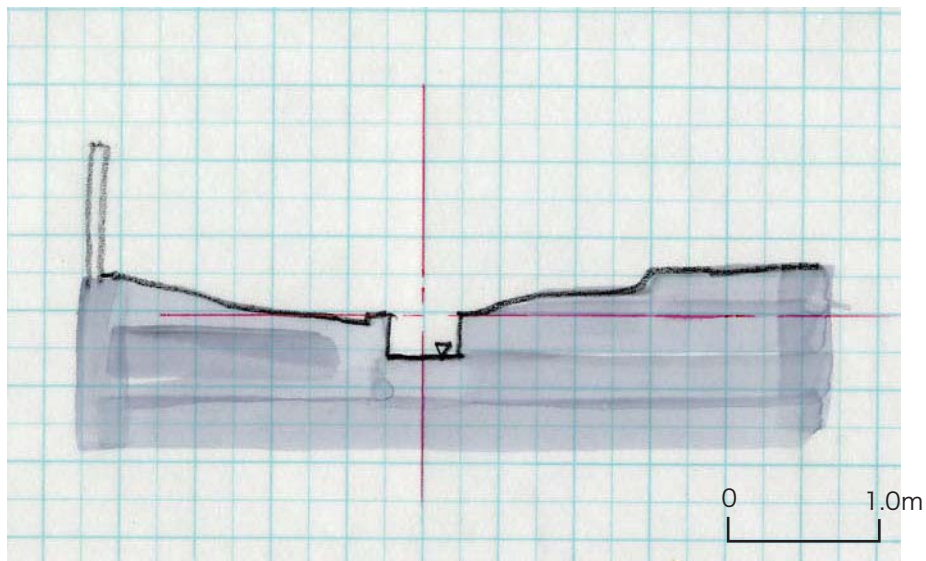
湯殿川 右岸にある水門



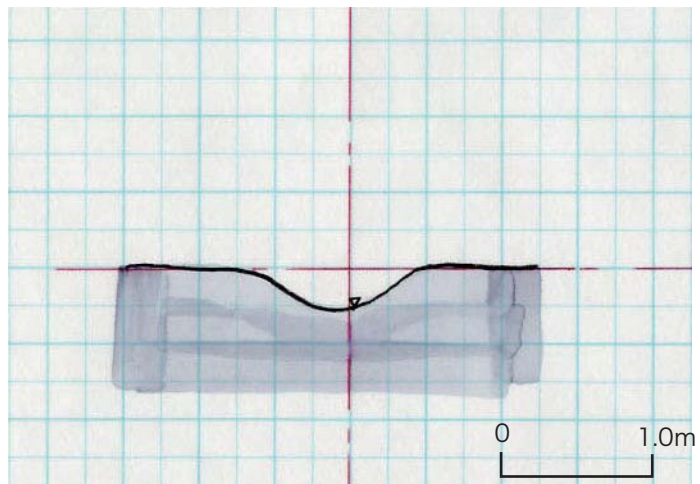
水門と機械室 (取水施設小屋)



1



2



3

取水口なし



湯殿川の取水堰があったところの現状

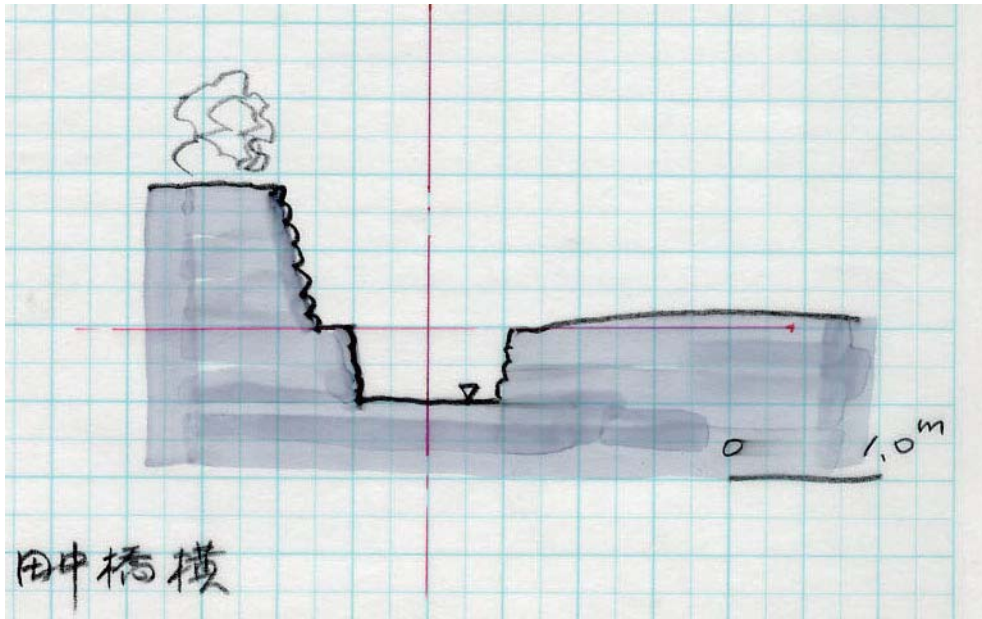


取水堰がなくなったところの湯殿川の現状  
(下流より上流をみる)

取水口なし

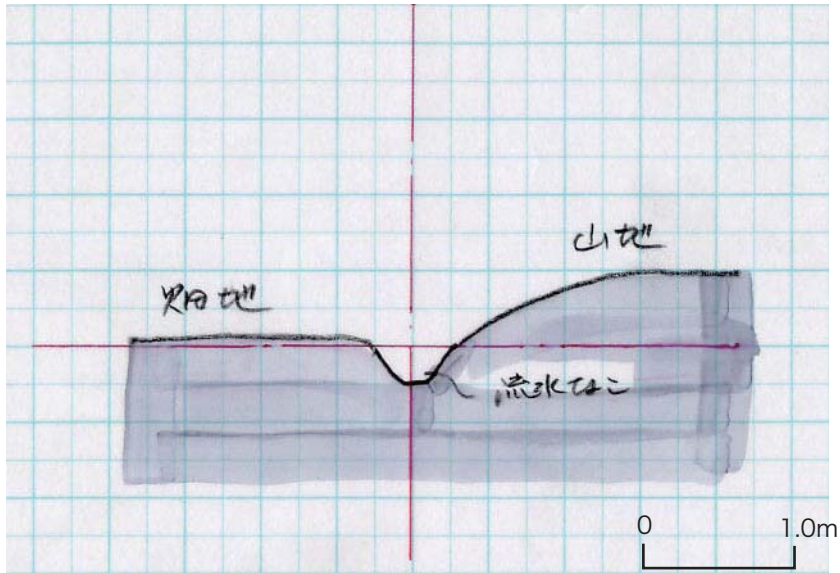
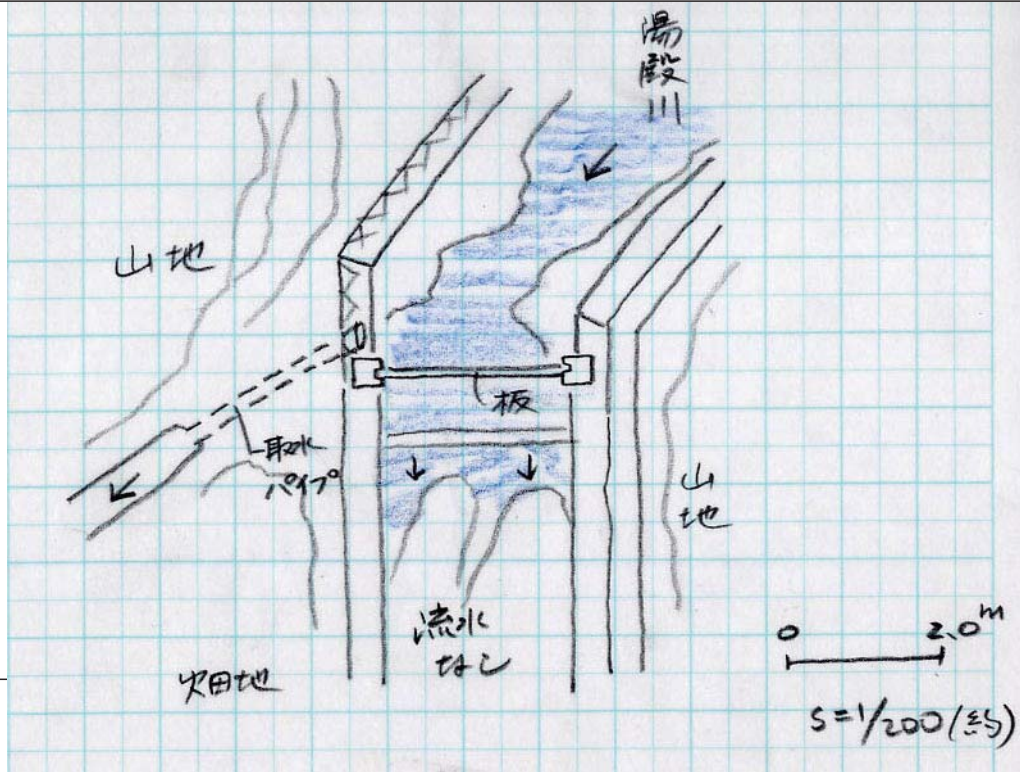


以前、堰があったところの周辺部

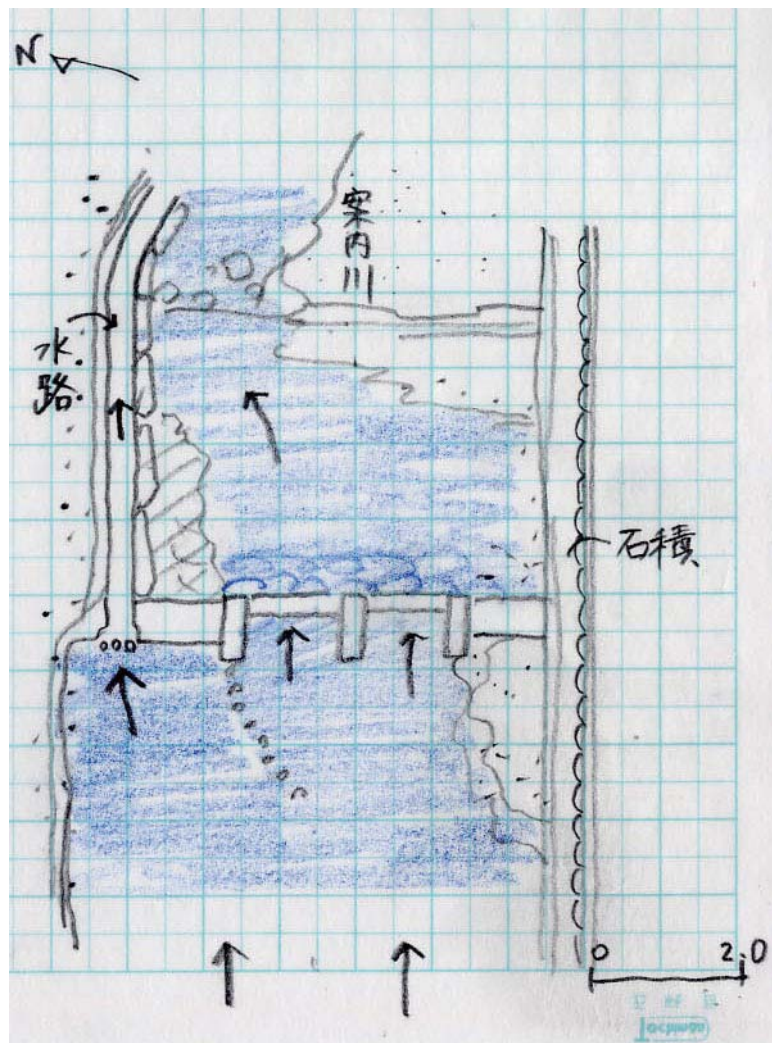


1





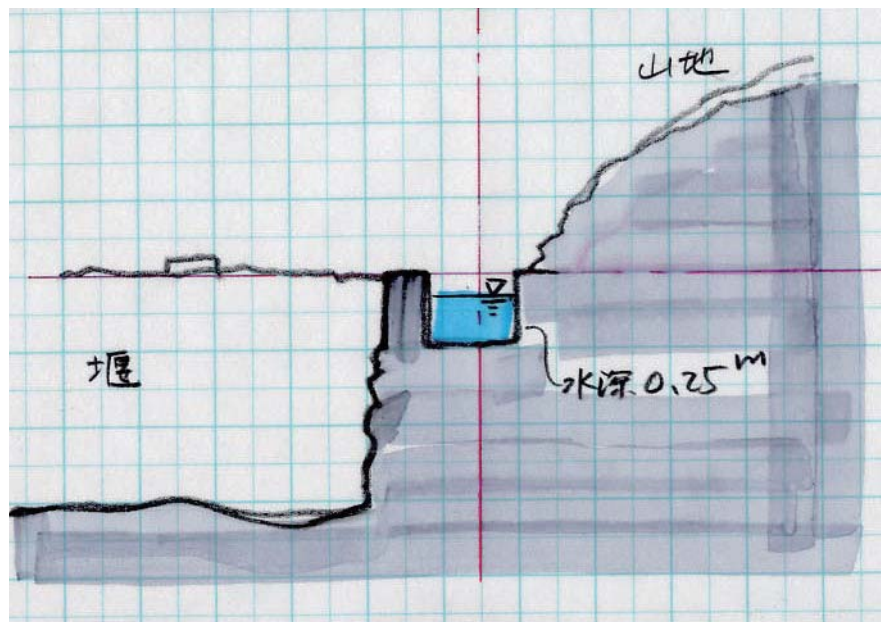
1



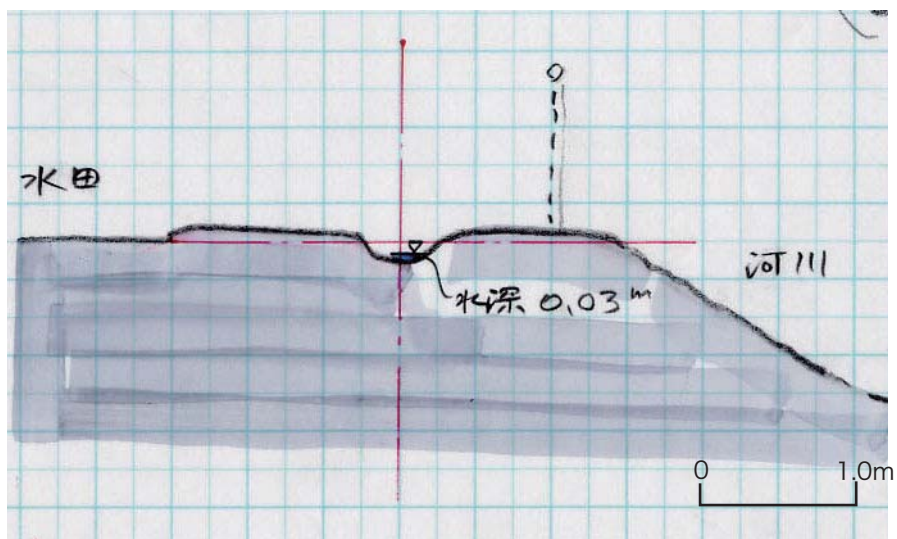
河川から取水される場所



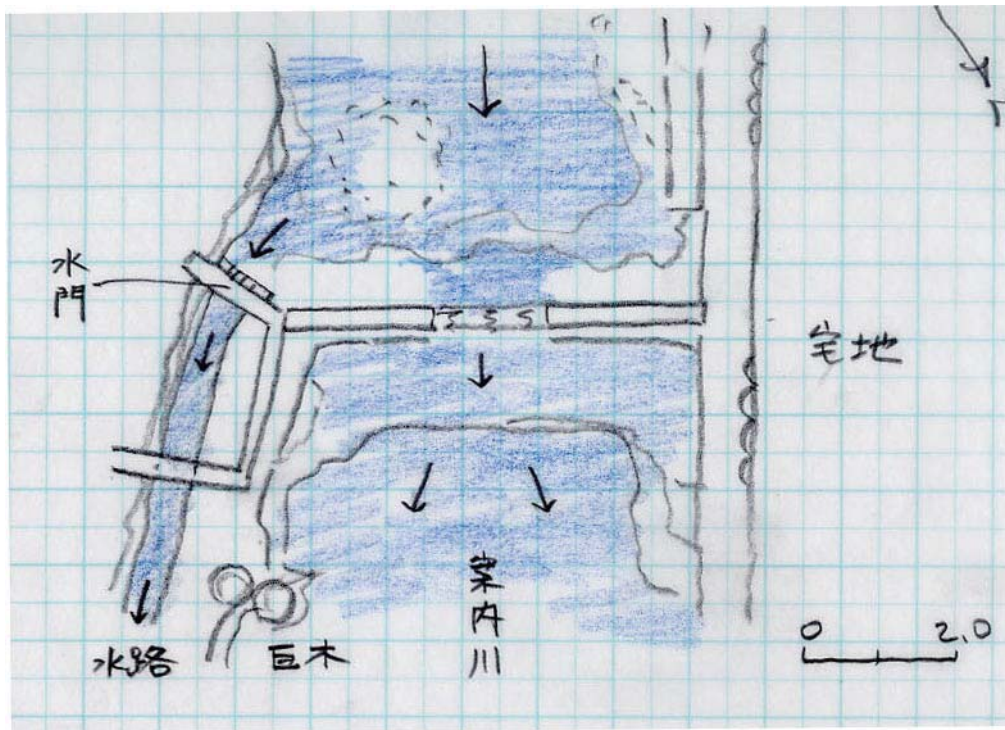
堰の下流から見る取水は右手前方

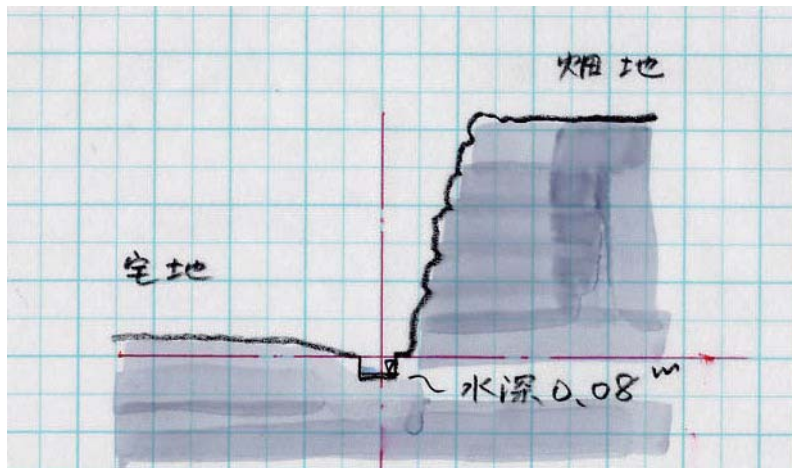
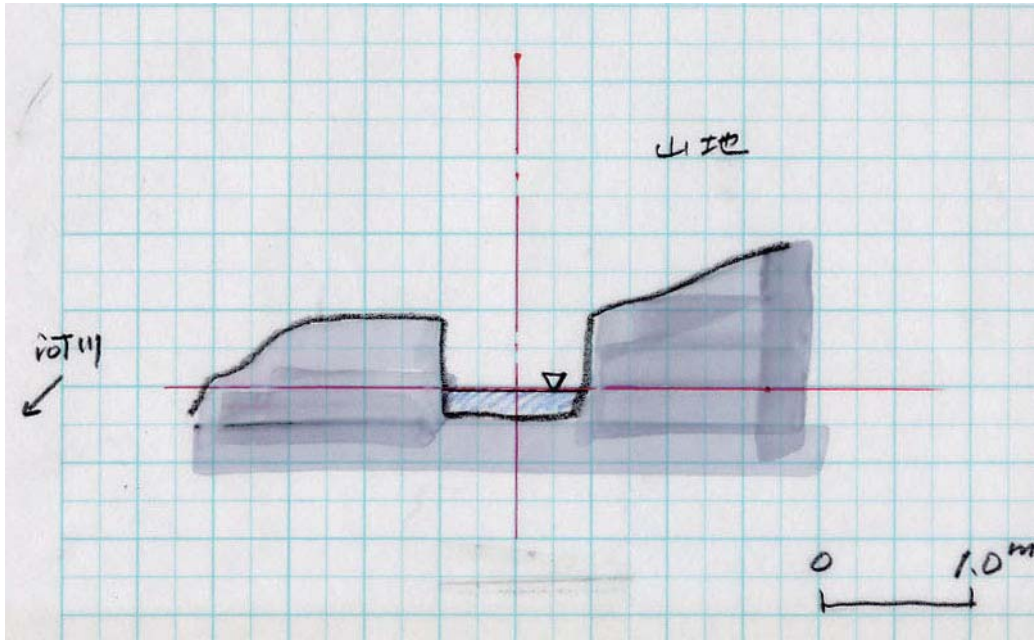


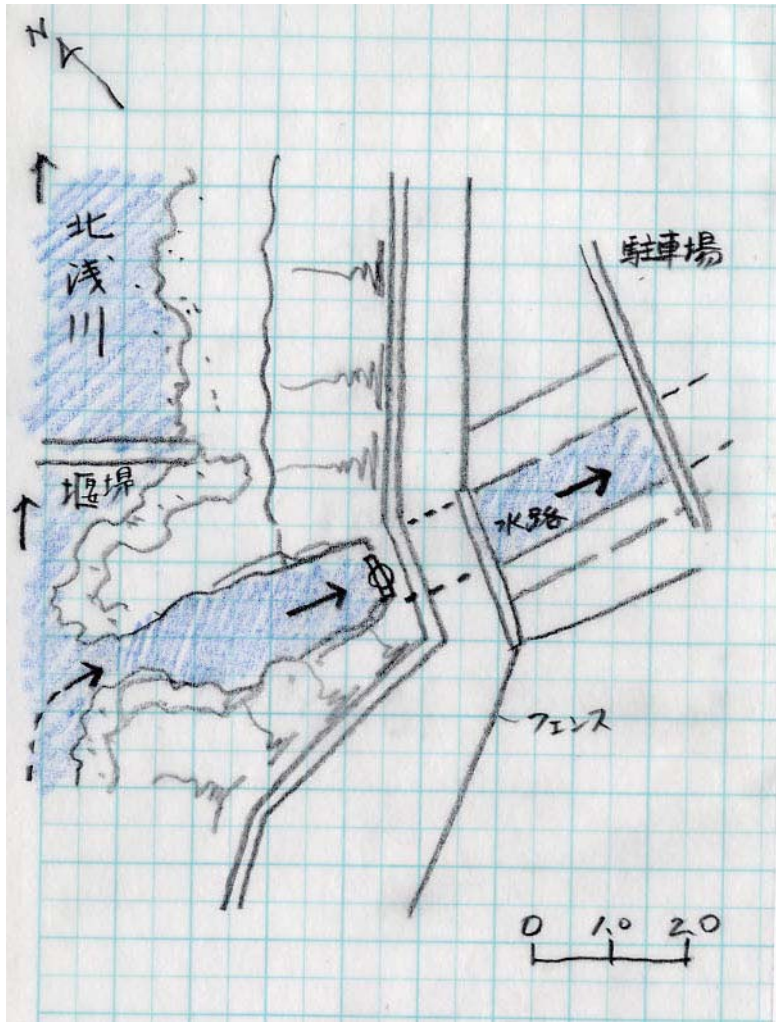
1



2



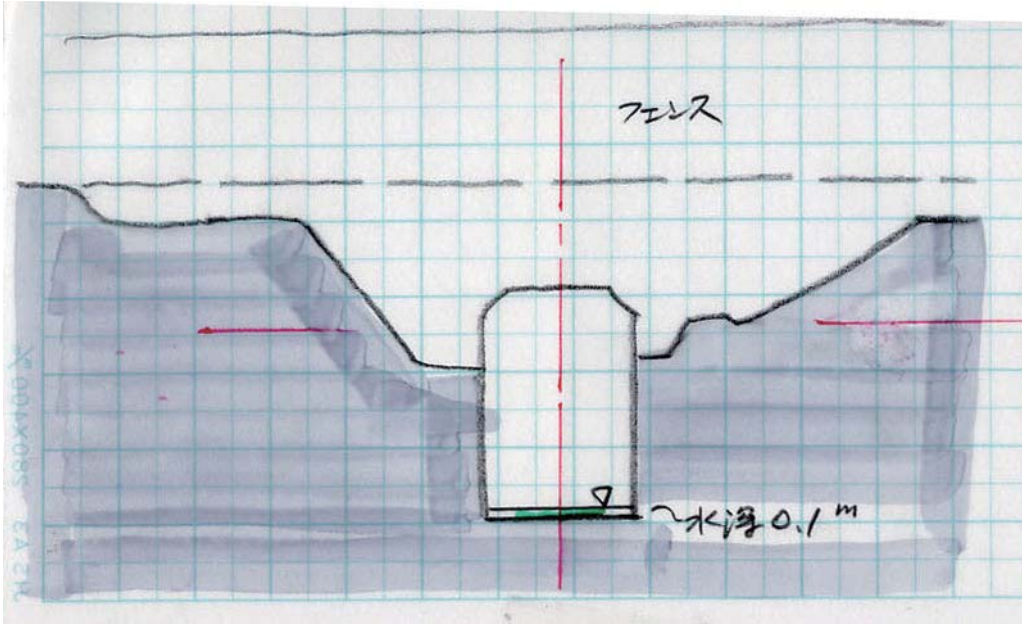




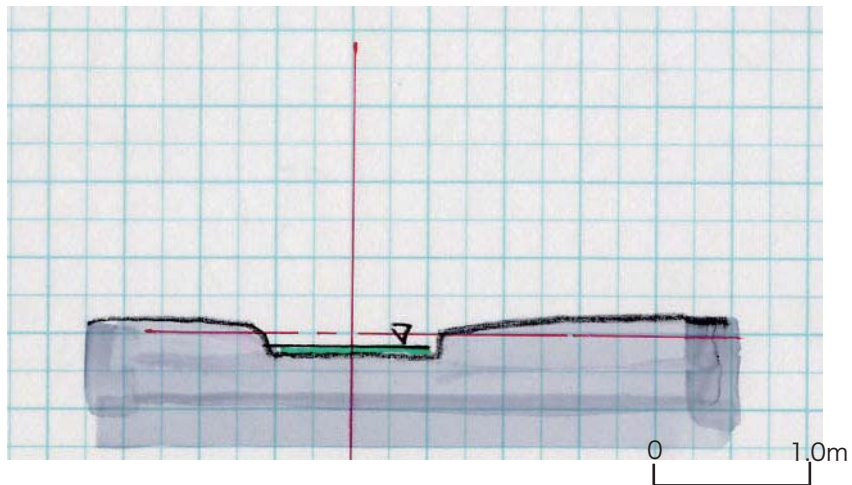
取水口上流より見る、水門は中央下



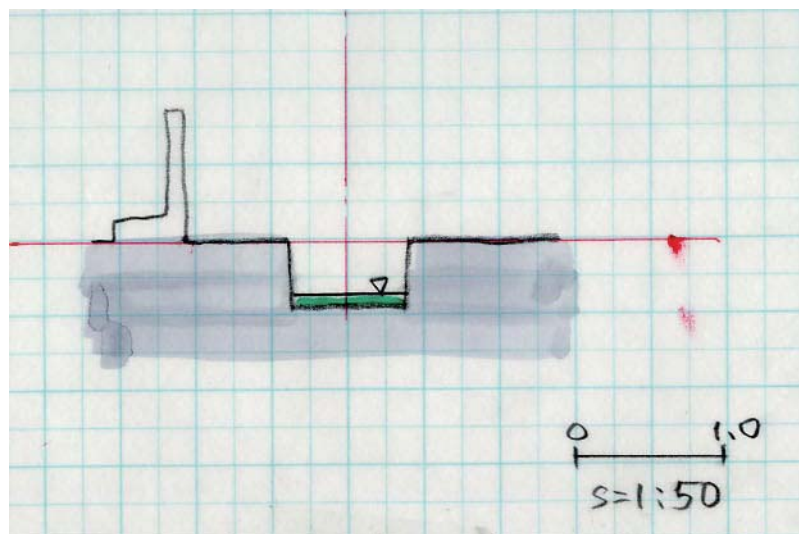
水門の様子



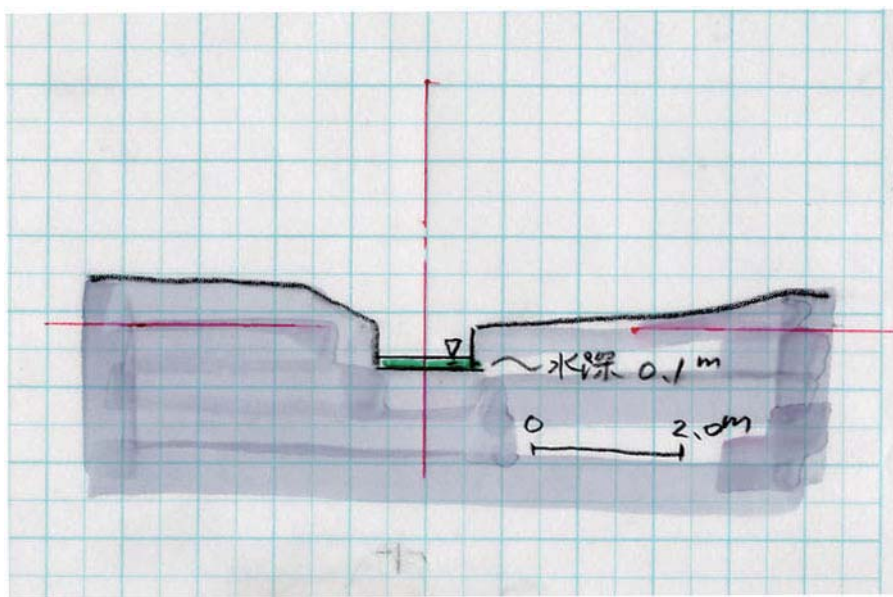
1



2

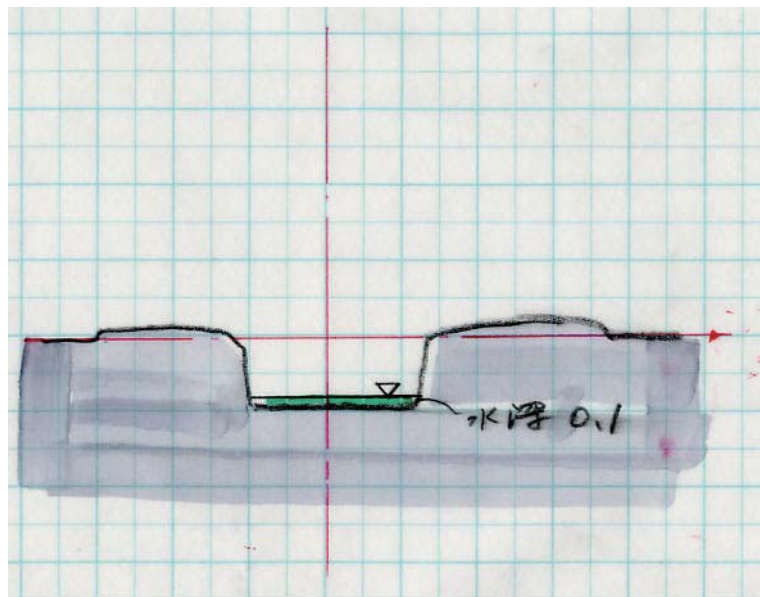


3

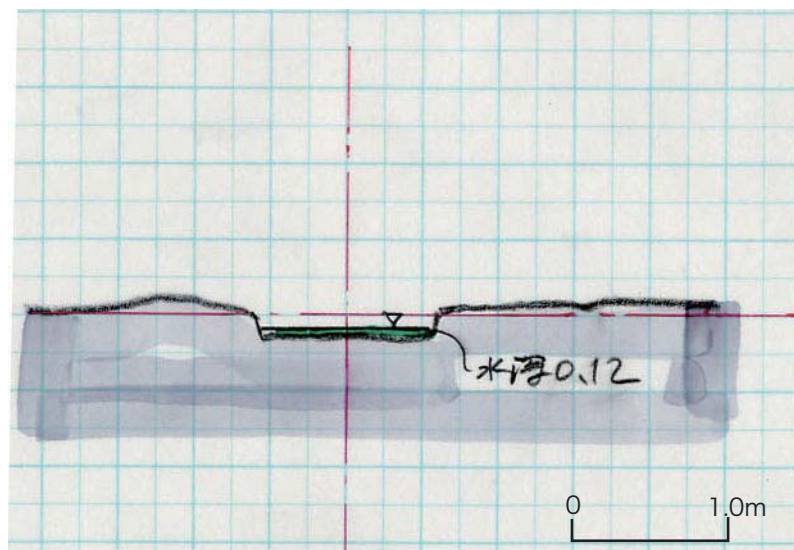


4

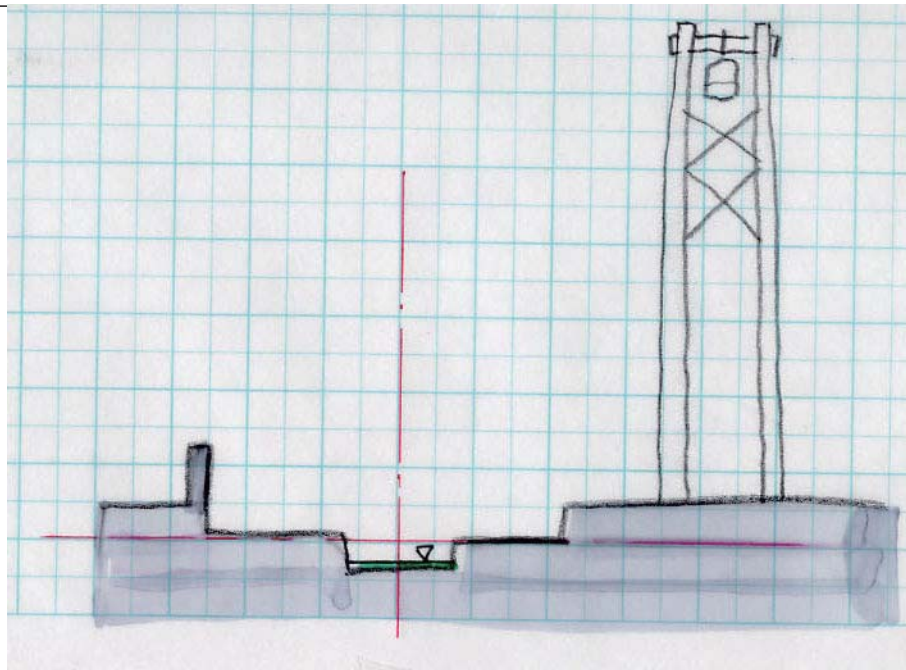




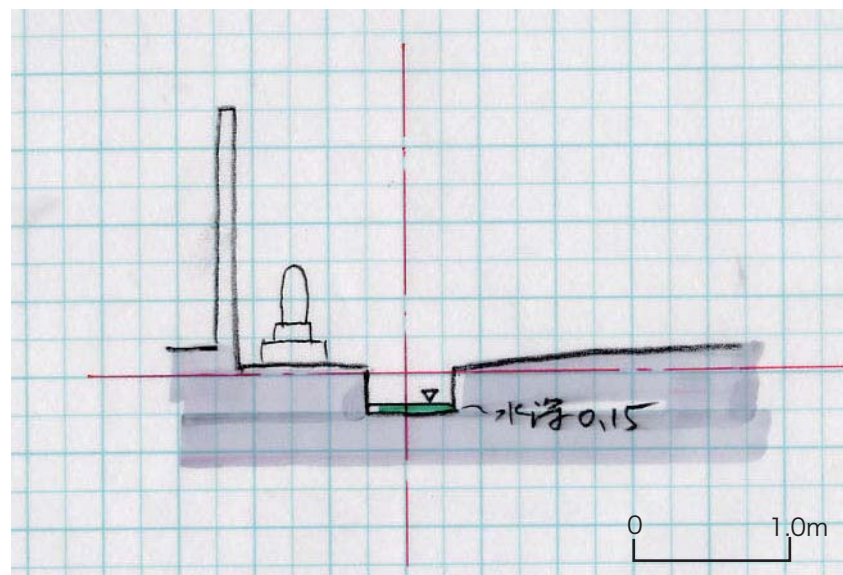
5



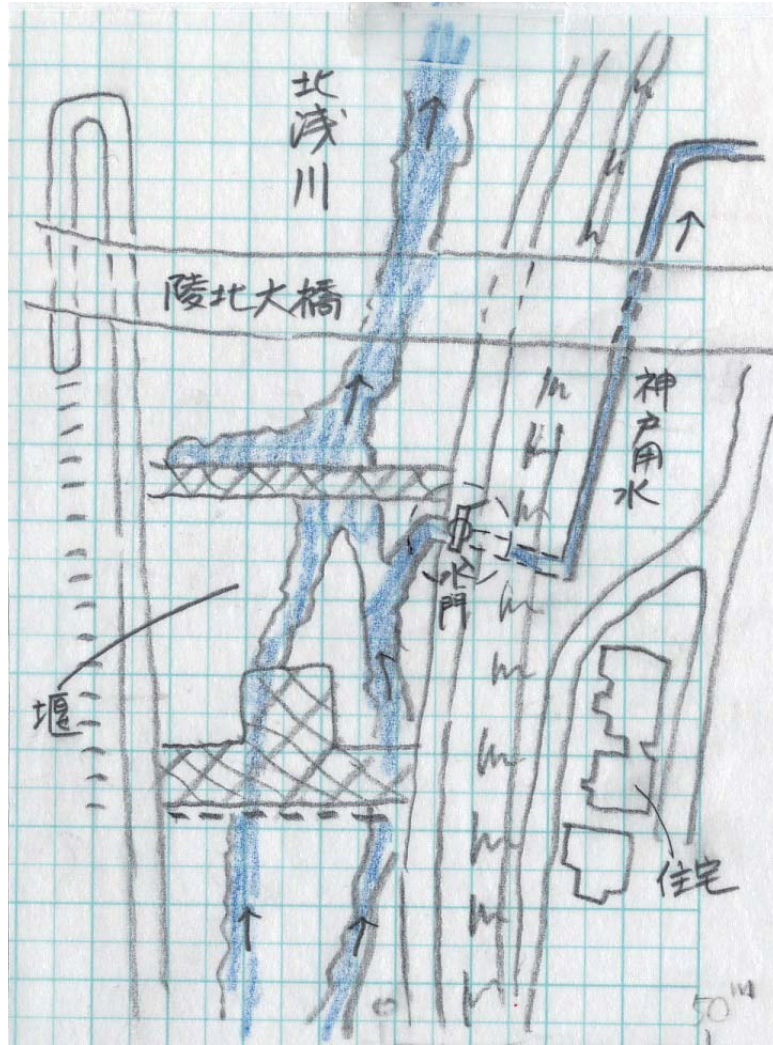
6



1



8



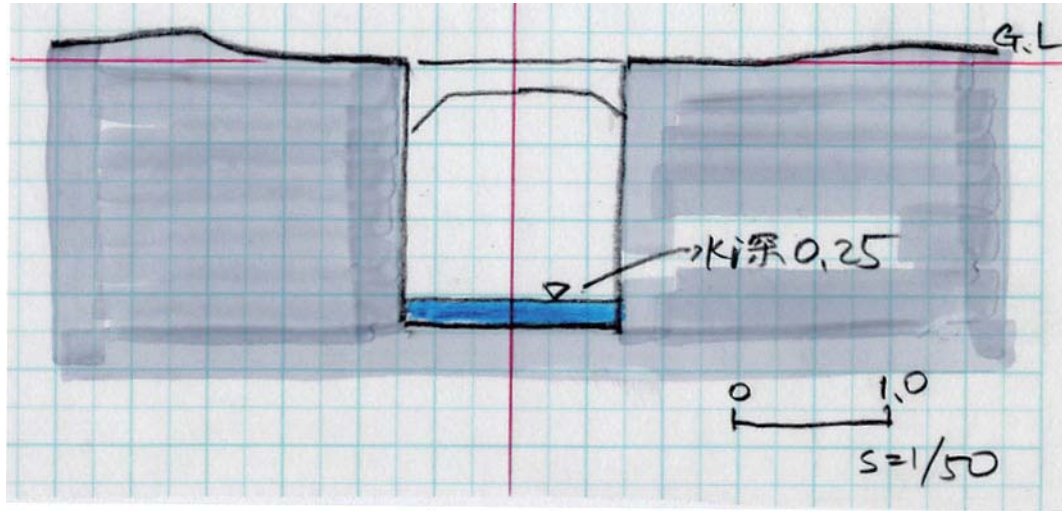
0 50m



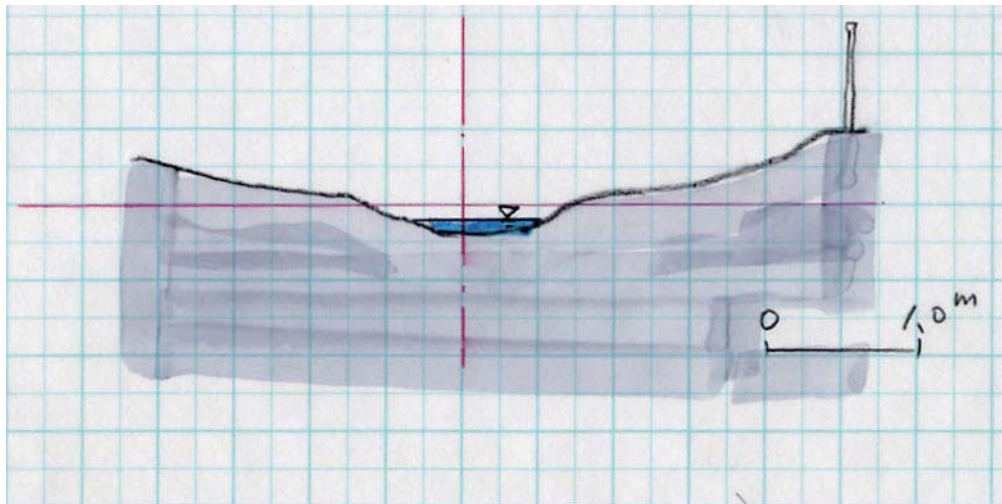
水門の利用が続けられているように見える。



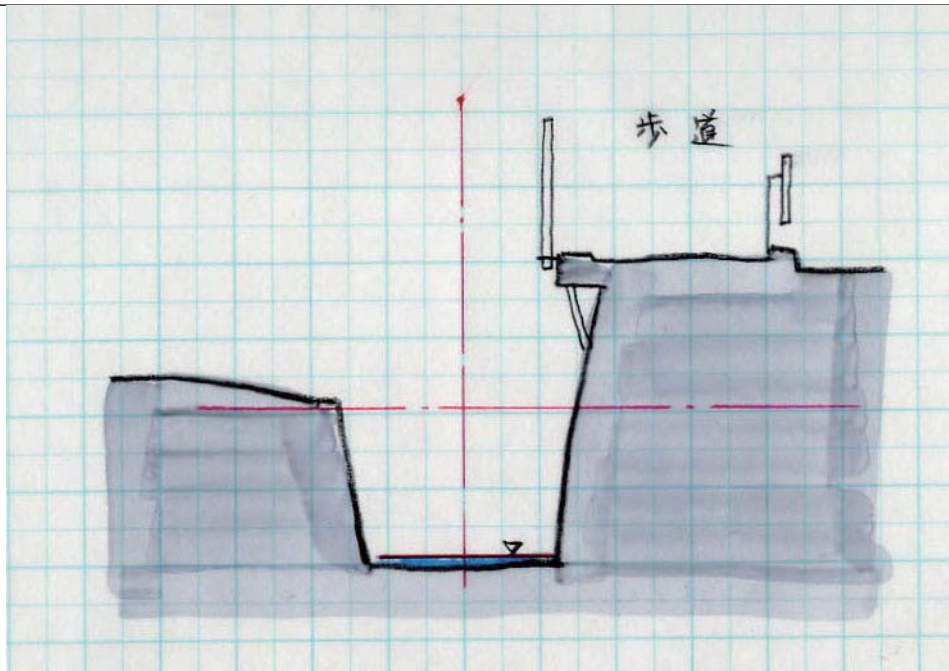
陵北大橋より眺める。



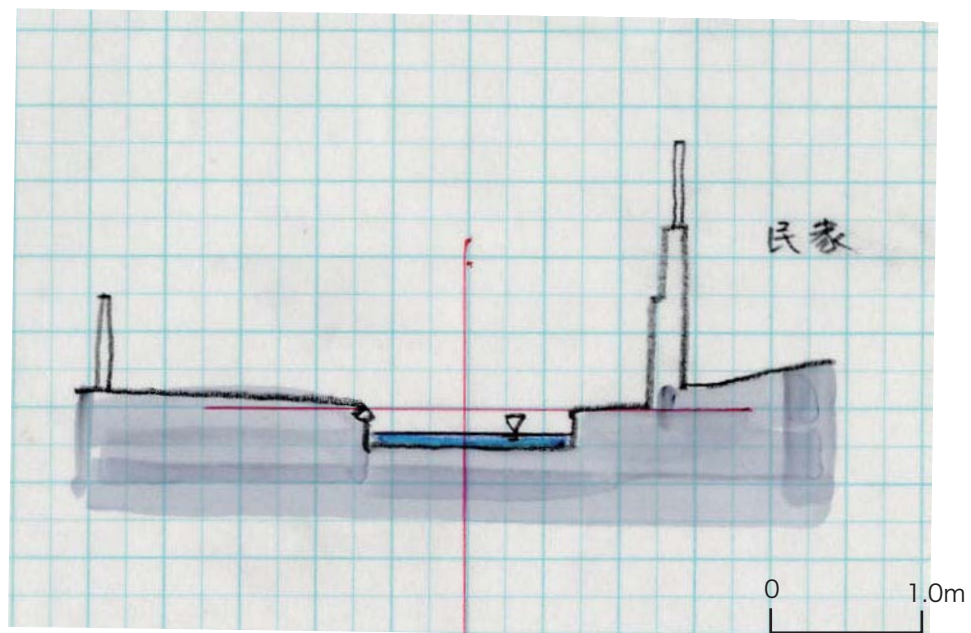
1



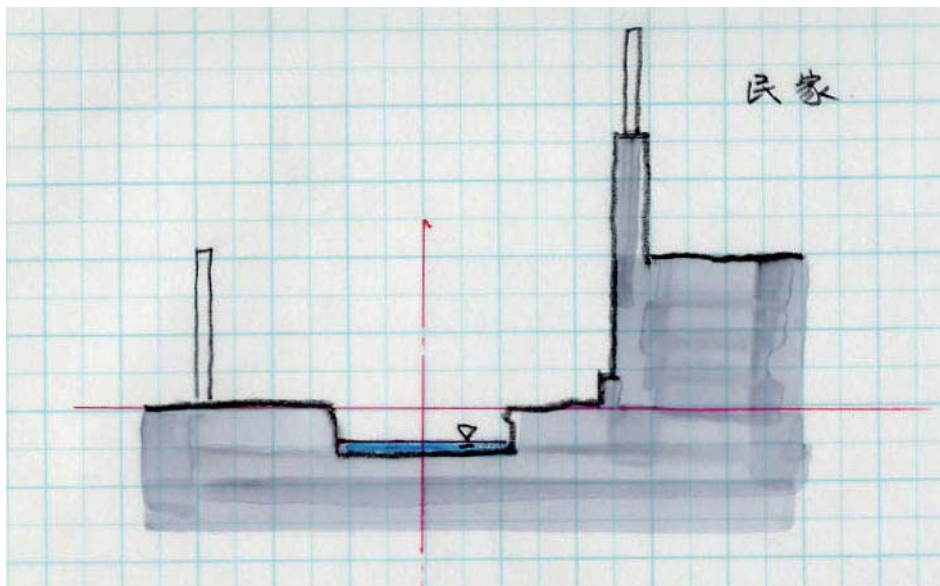
2



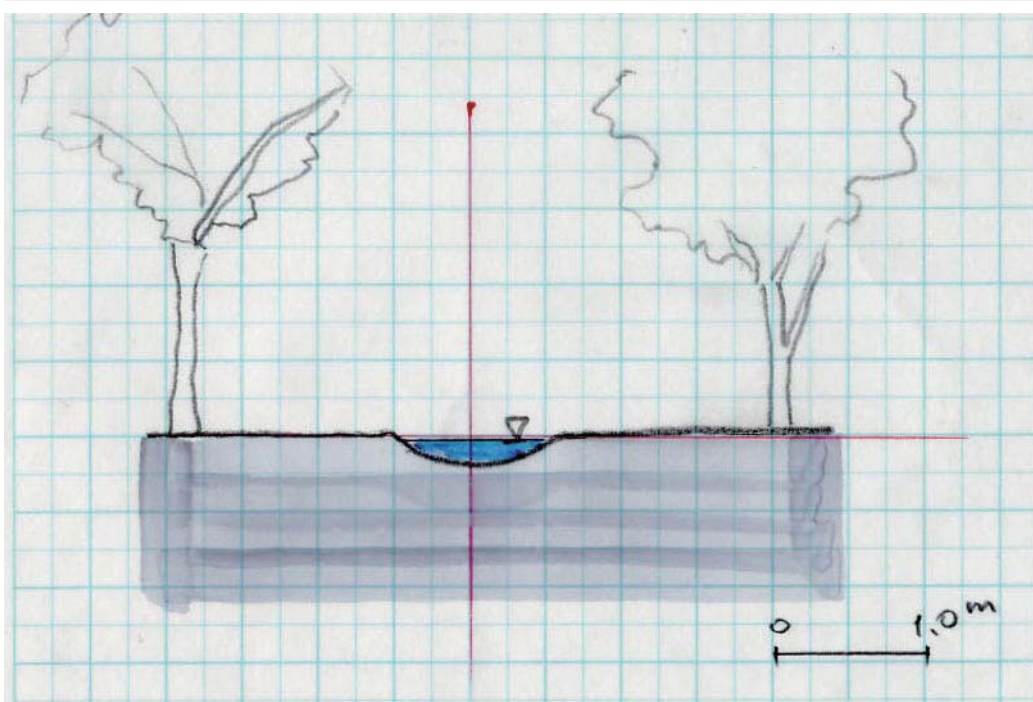
3



4



5



6



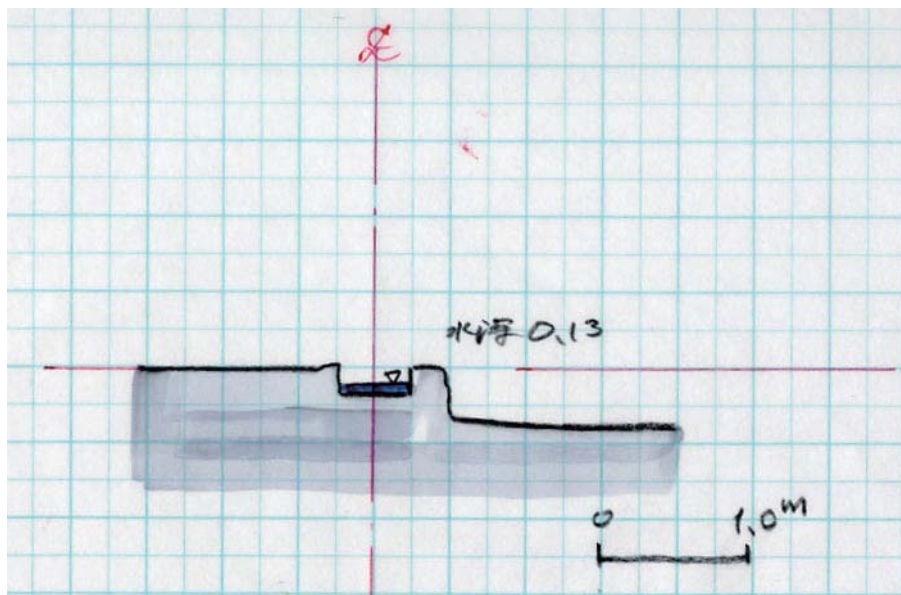
下流から上流を見たところ。  
画面右手にポンプ施設がある。



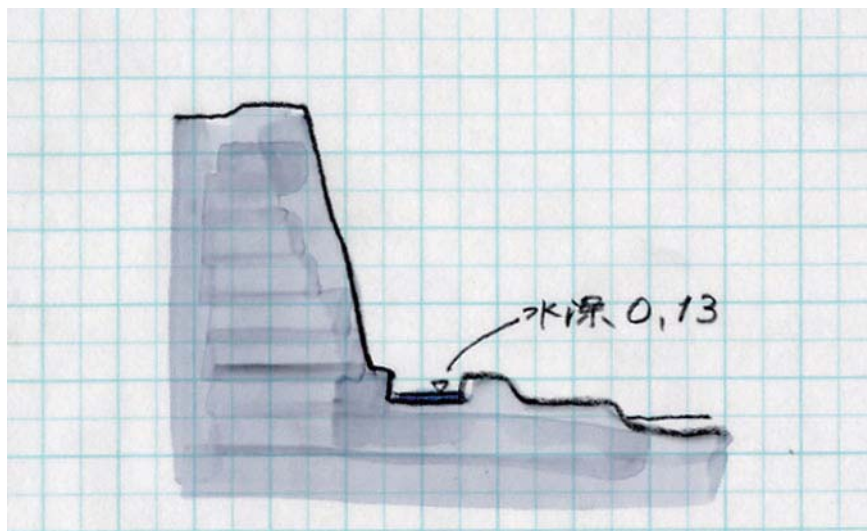
ポンプ施設を河川側から見たところ

取水施設は河川水をポンプアップしているため図面なし

1

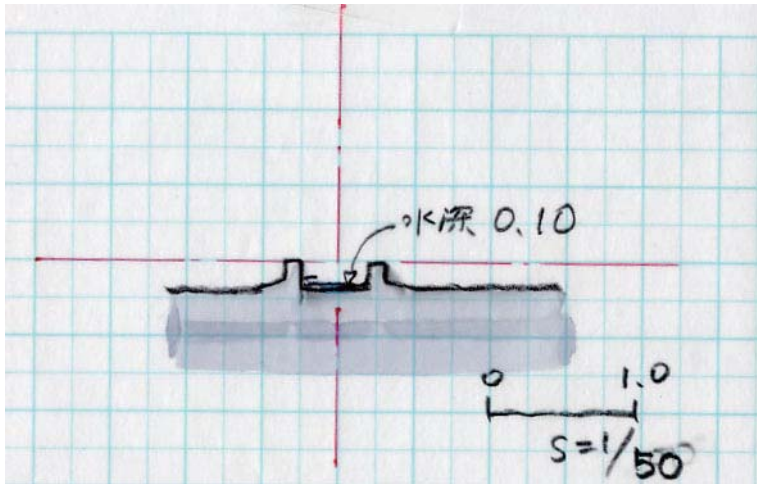


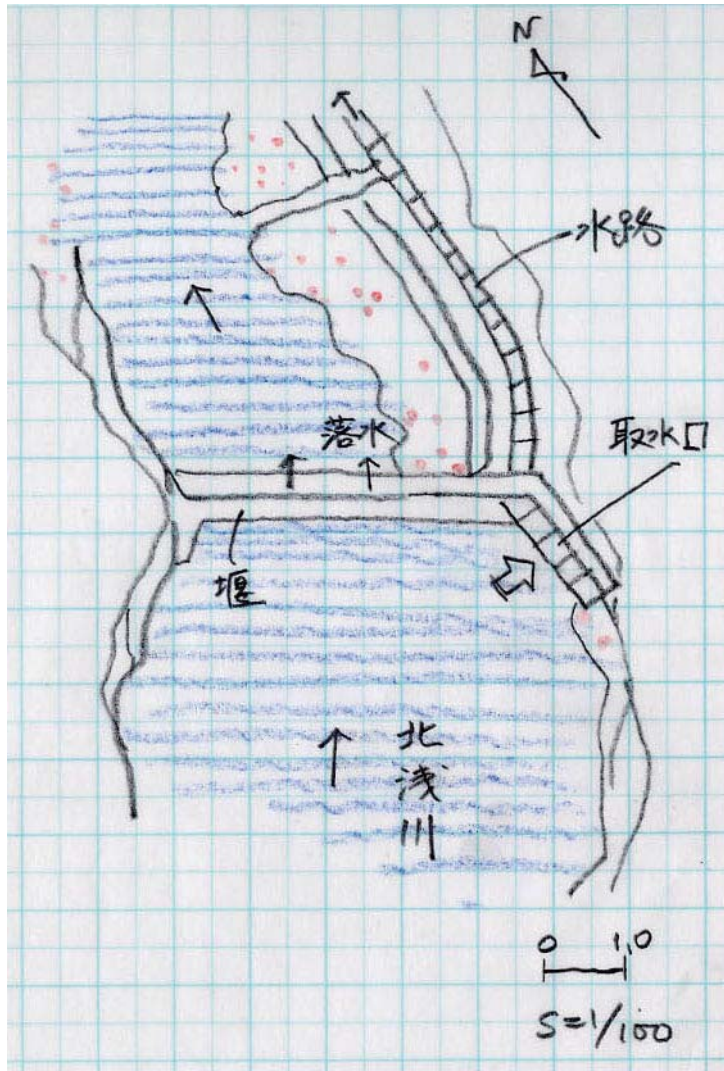
2



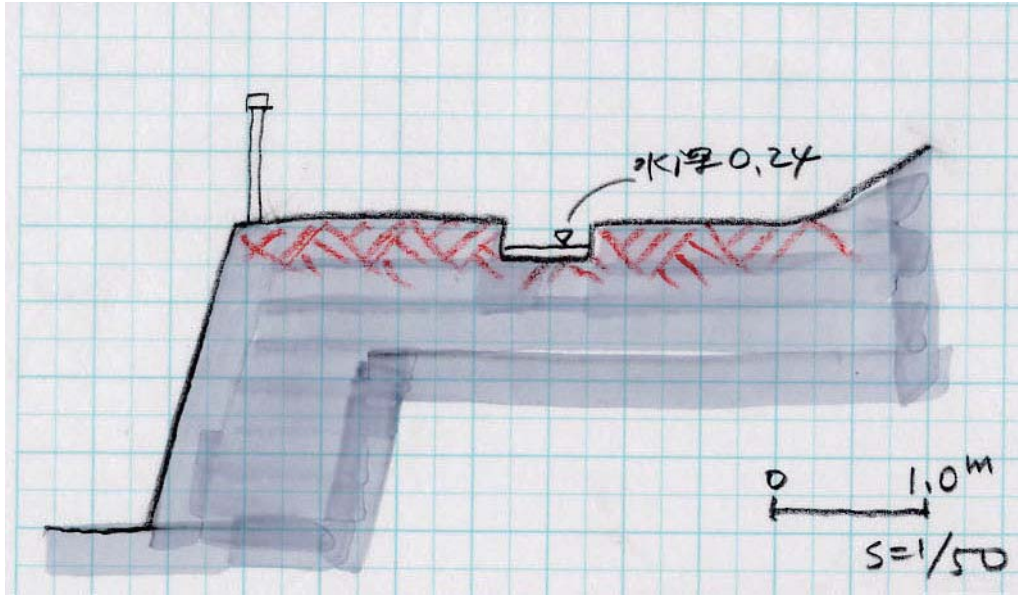


3





取水口を上流より見たところ



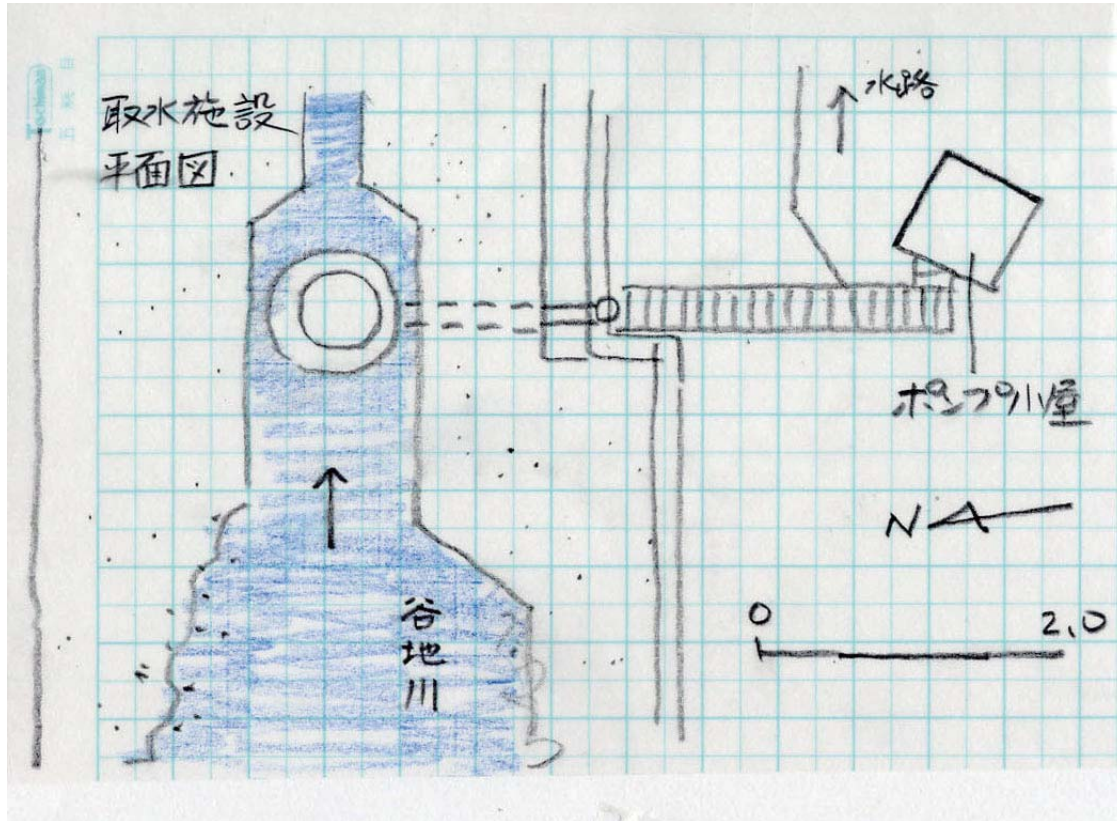
取水口なし



取水口の跡（右側）



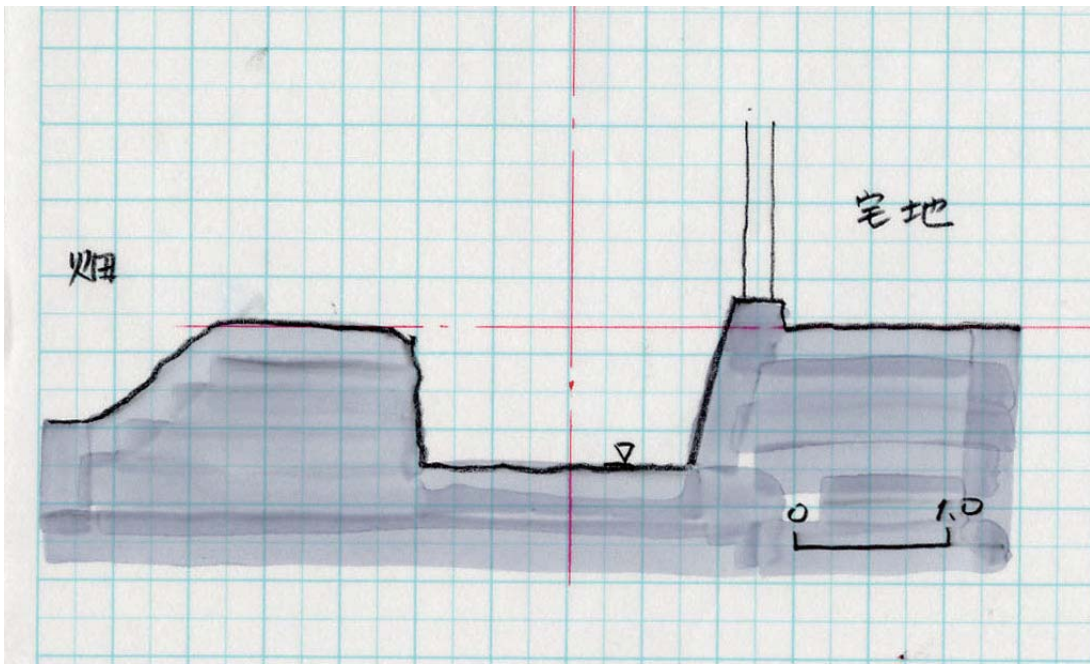
取水口の跡（中央下）



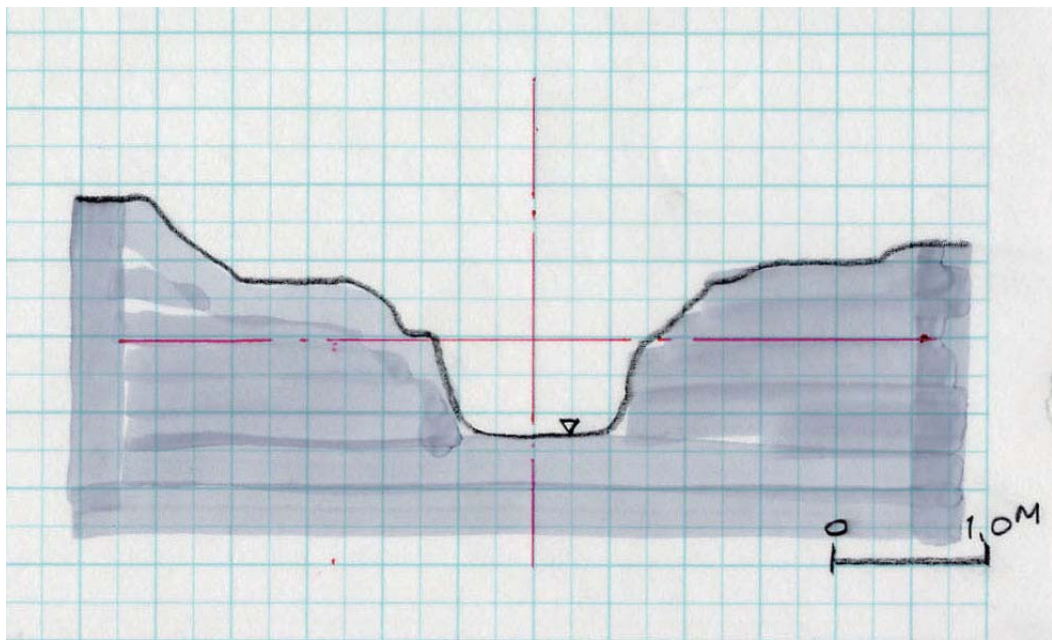
取水施設 下流より見る。



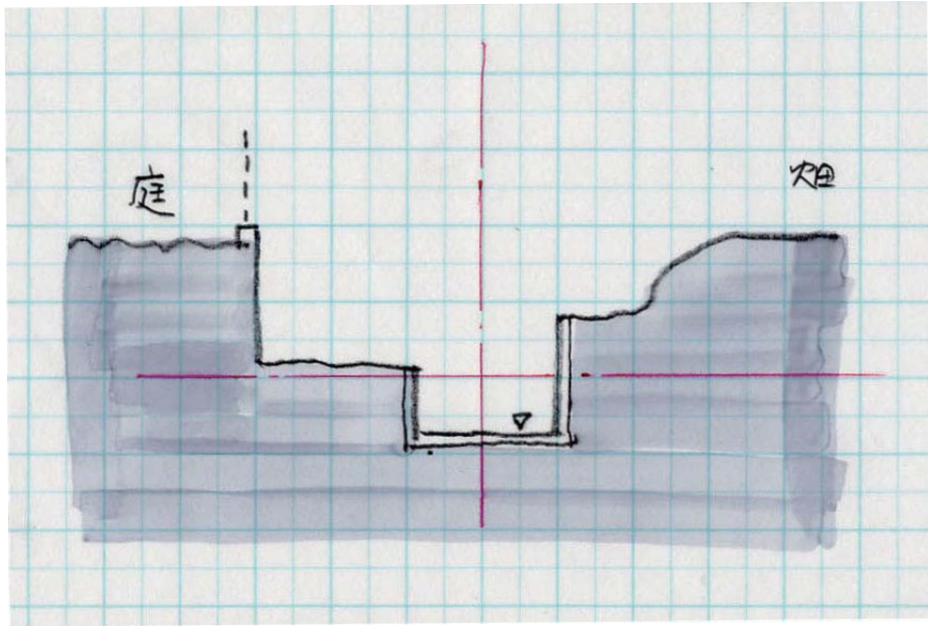
取水施設 上流より見る (右端がポンプ小屋)



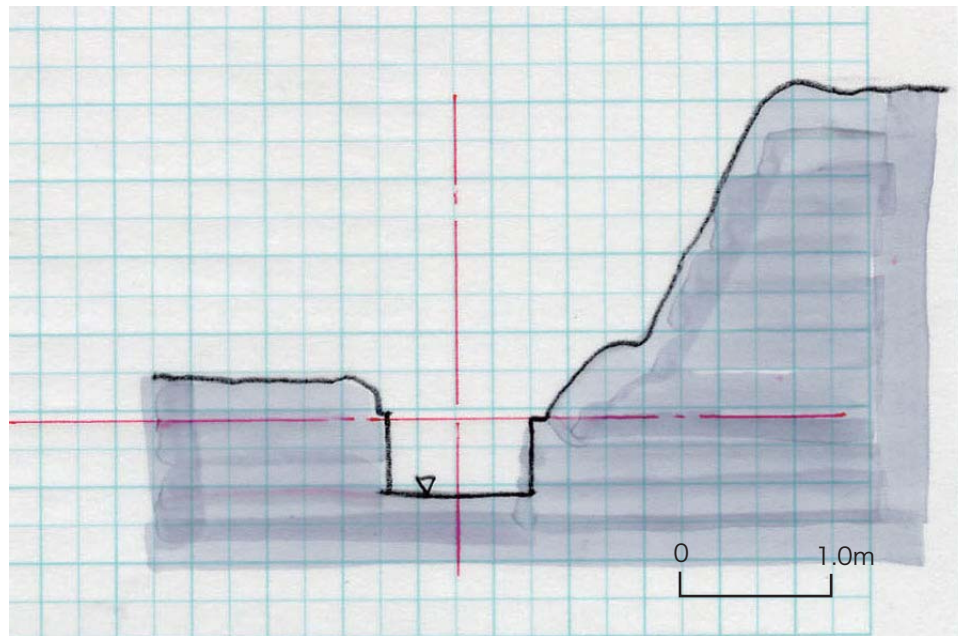
1



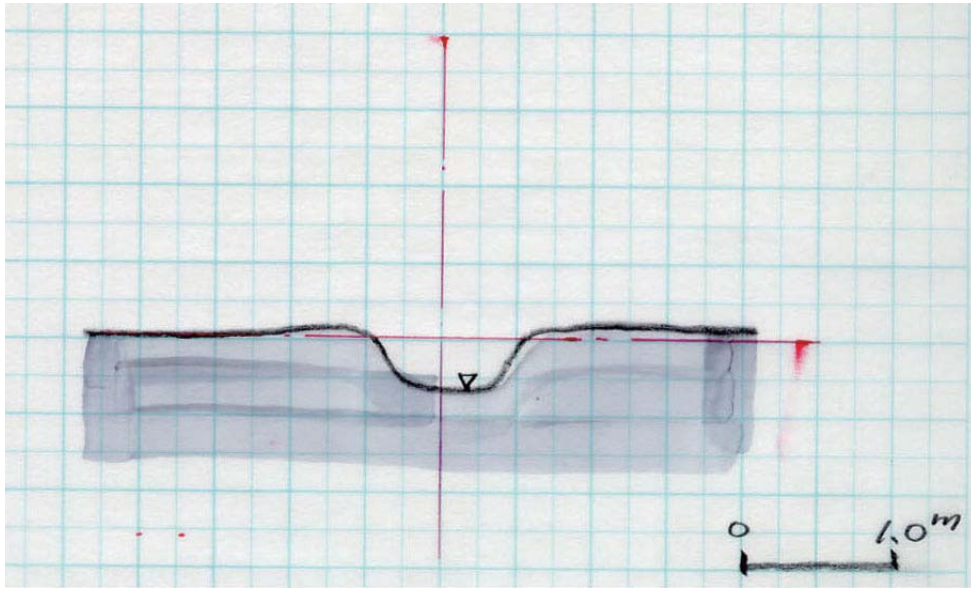
2



3

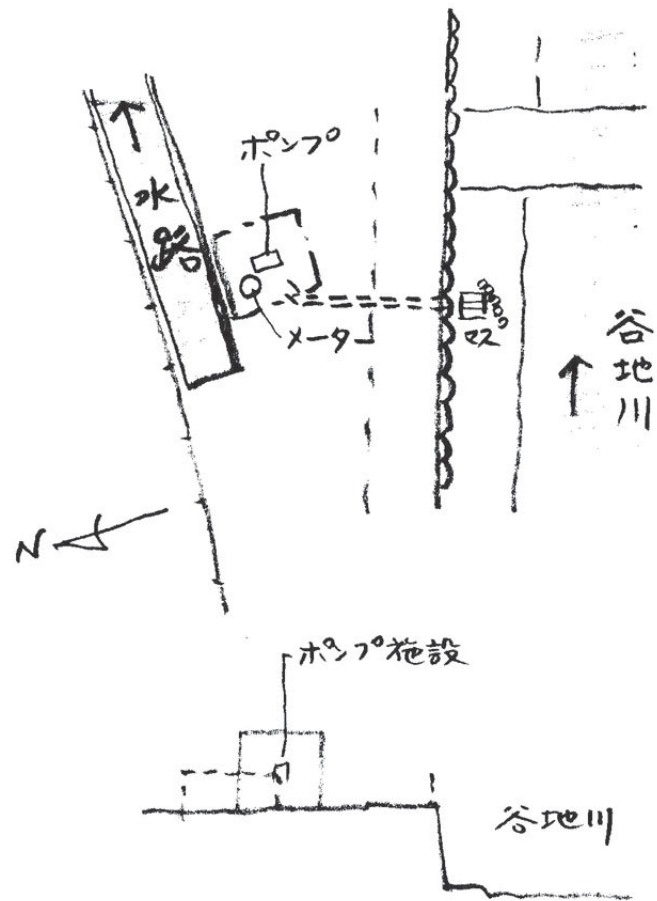


4



5

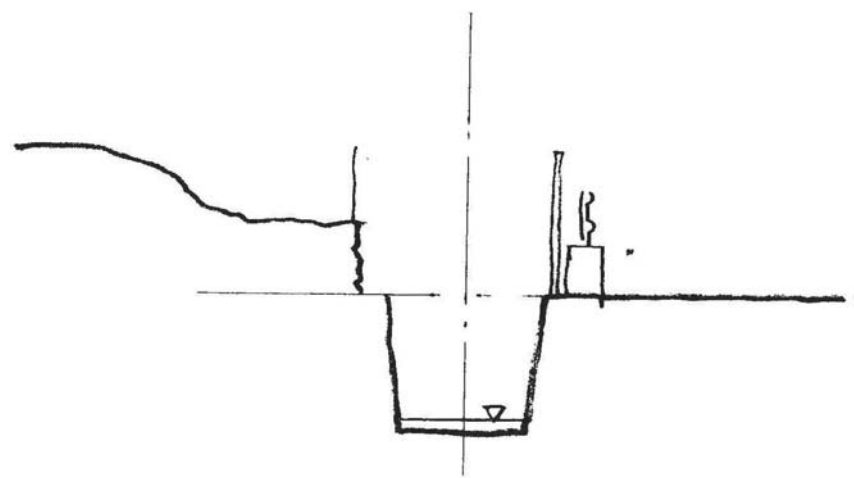
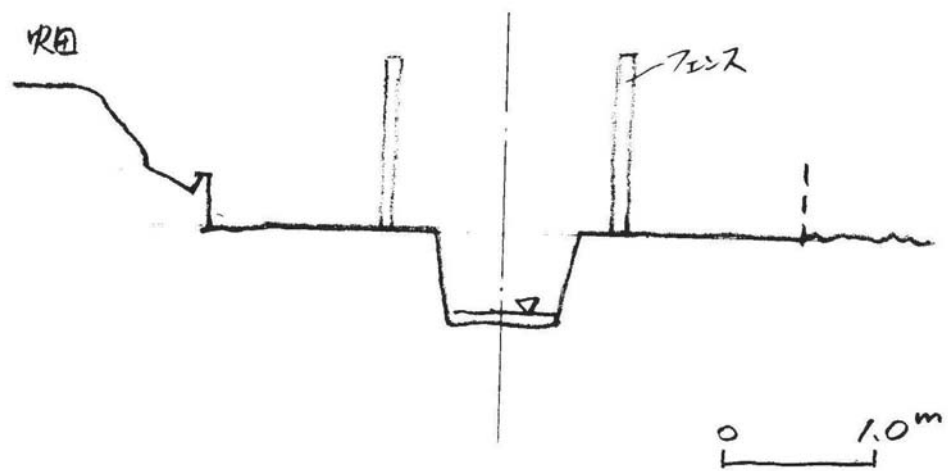


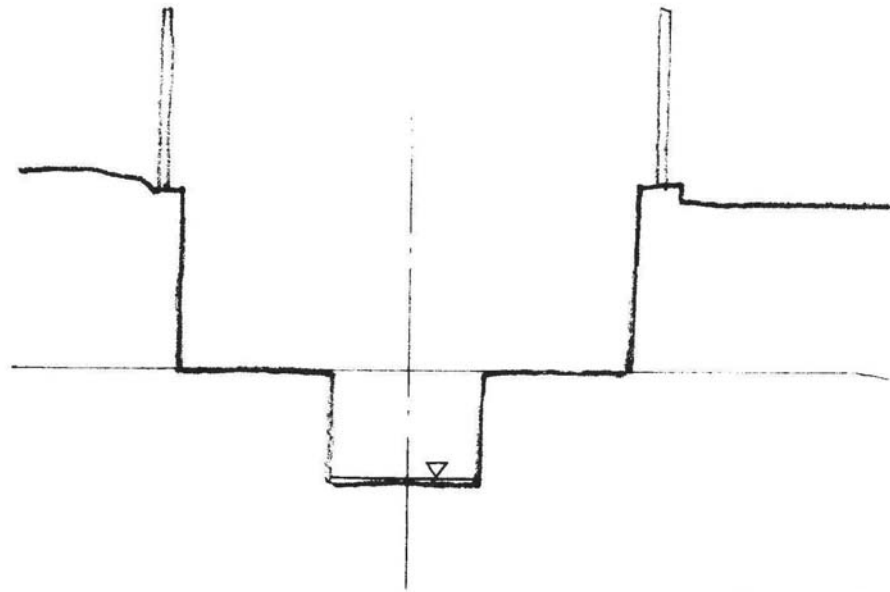


取水施設（中央）反対岸よりみたところ

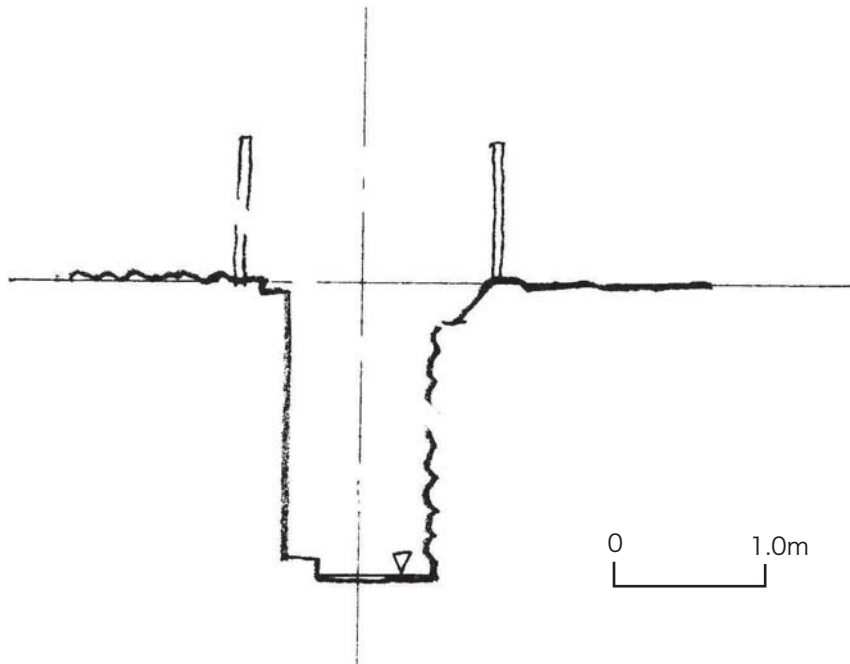


水路（左）ポンプ施設（中央左）谷地川（右）





3

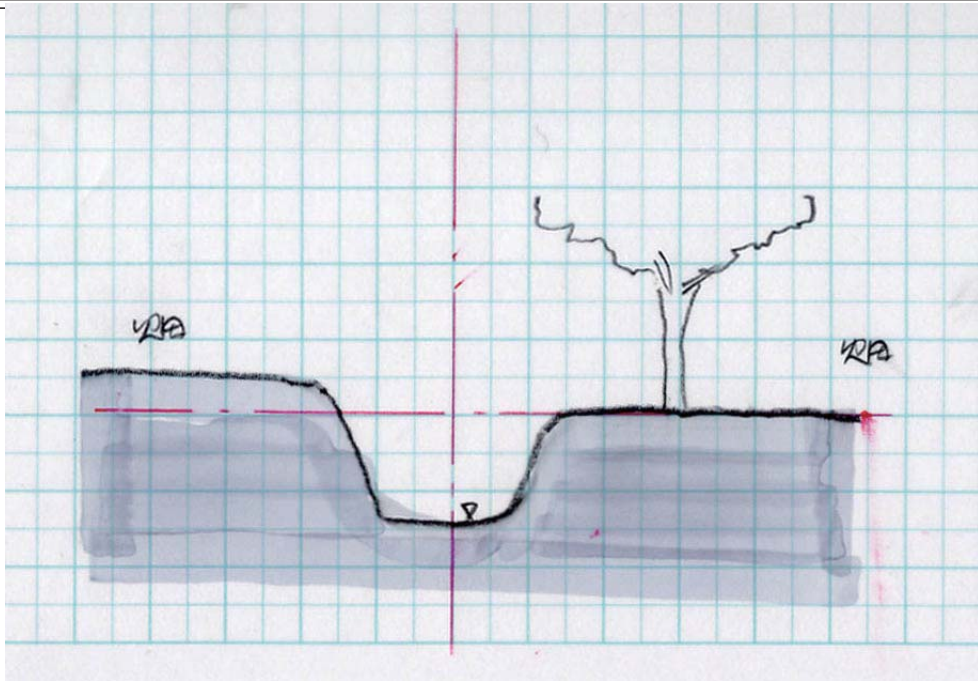


4

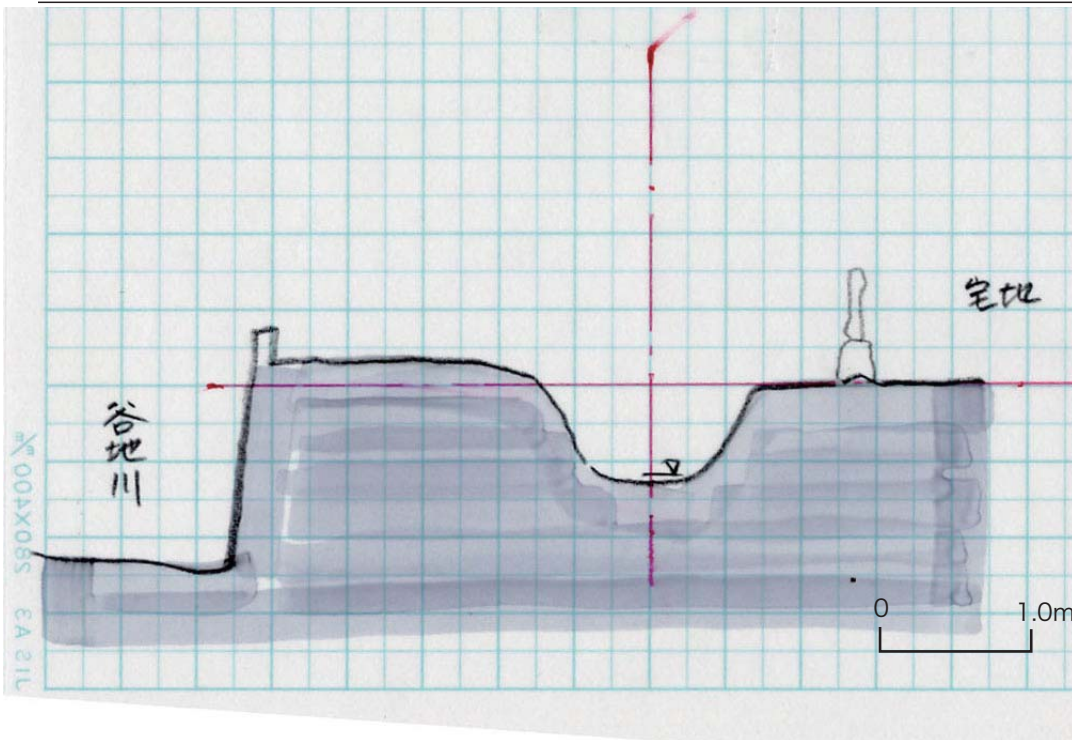
取水口確認出来ず



谷地川写真。下流に向かって右手奥（カーブの先）に取水口があると見られるが、確認出来ず。



1

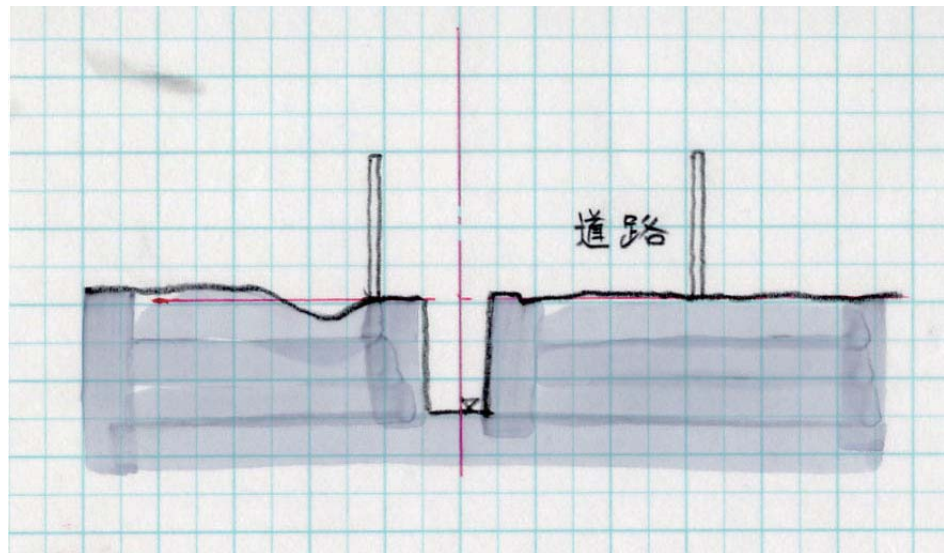


2

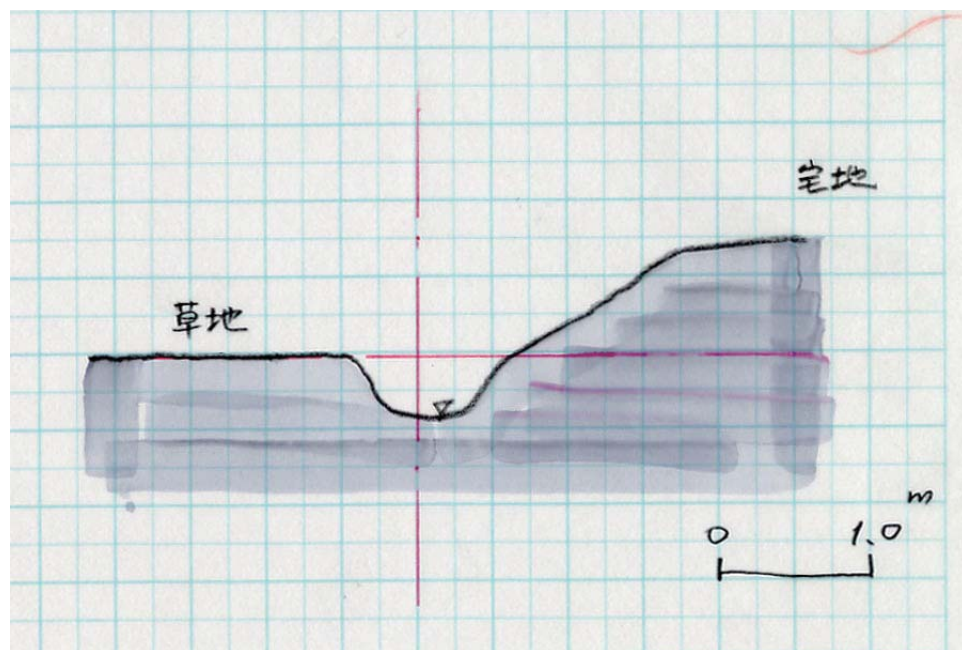
取水口なし



かつて取水口と水路があった場所に貯水池が出来ていた。



1



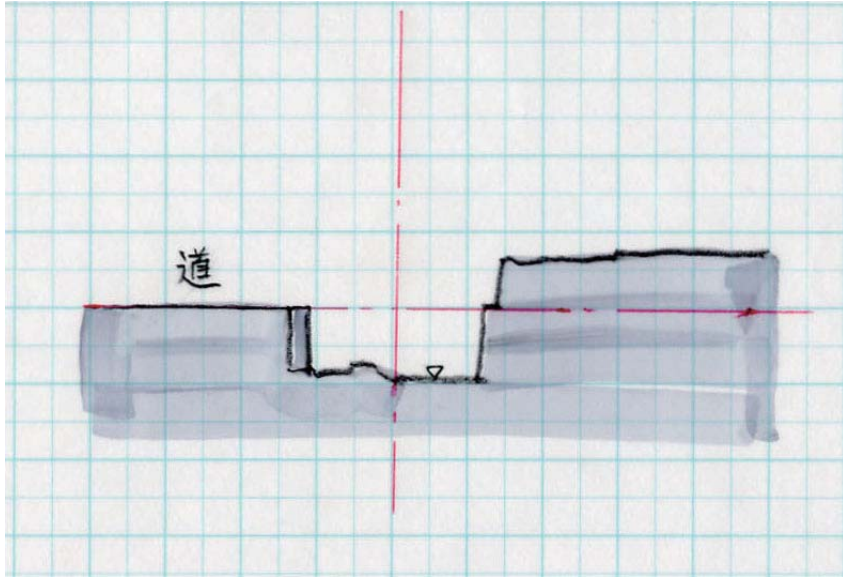
2

取水口確認出来ず。

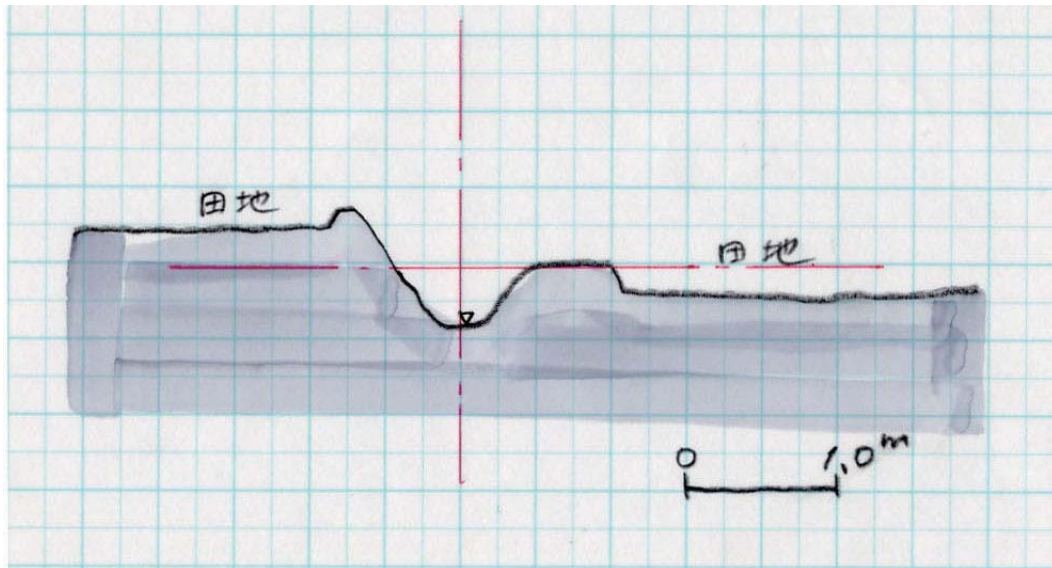


谷地川を下流側より見る。右手護岸壁辺りに取水口があると思われる。

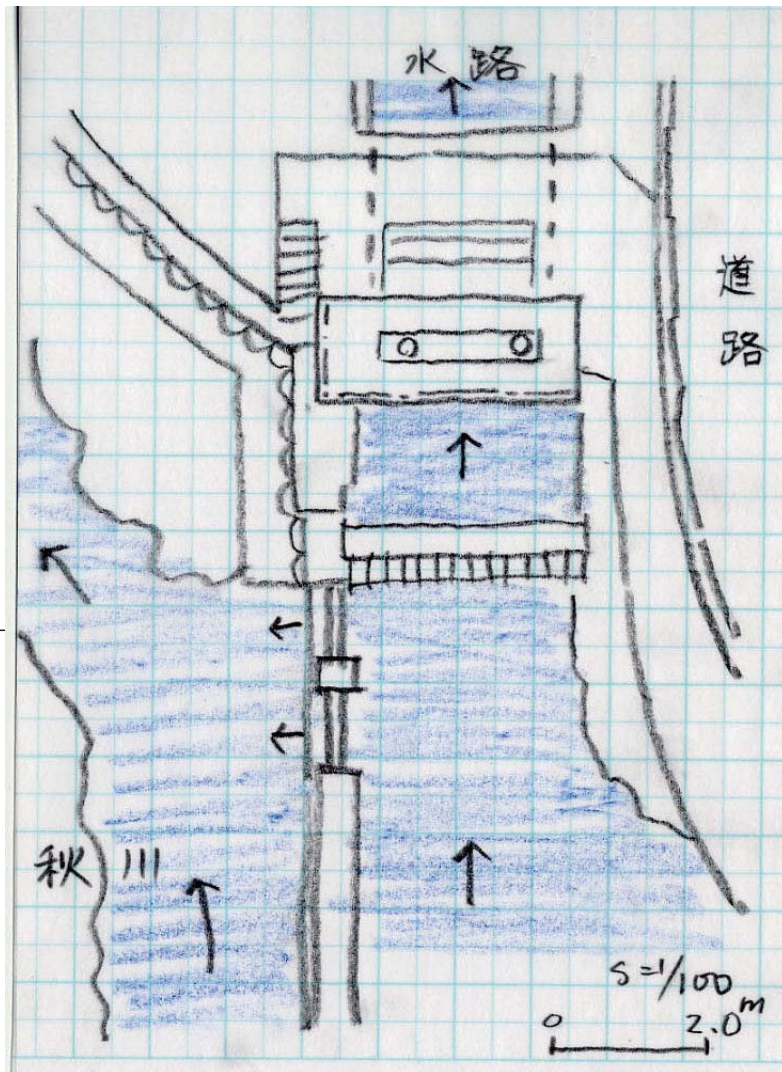




1

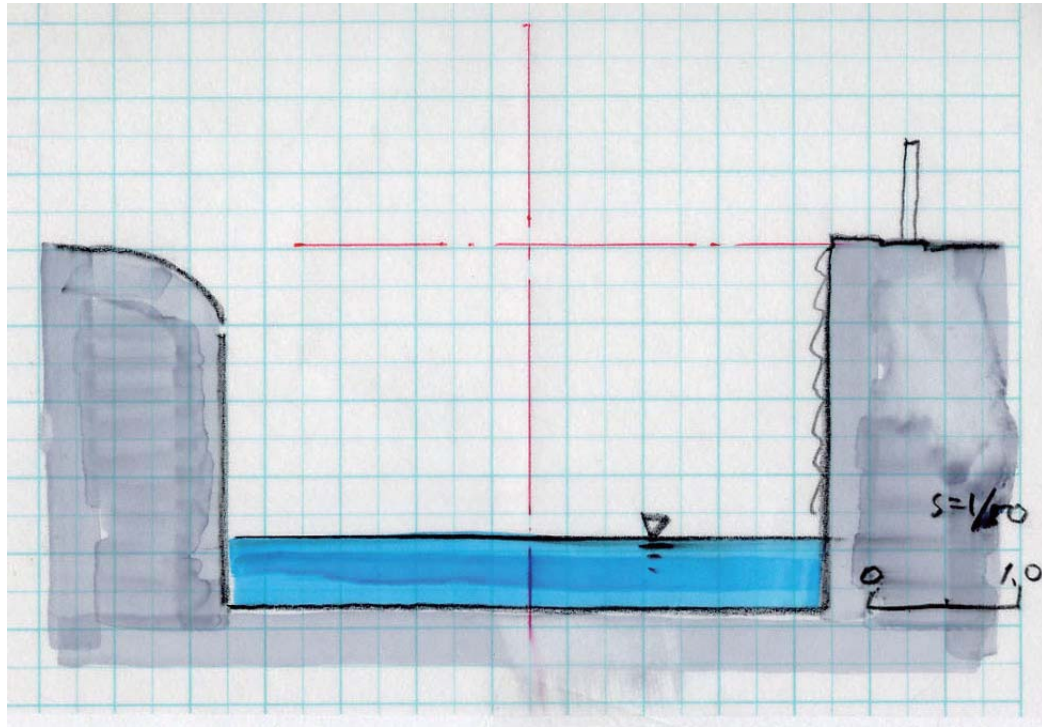


2

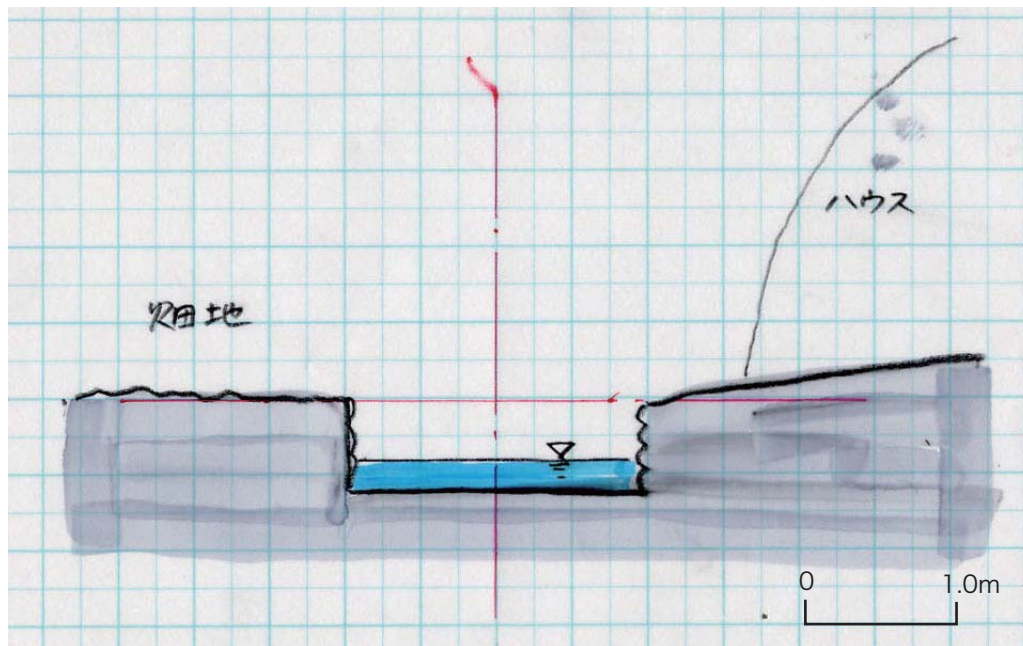


水門 上流より見たところ

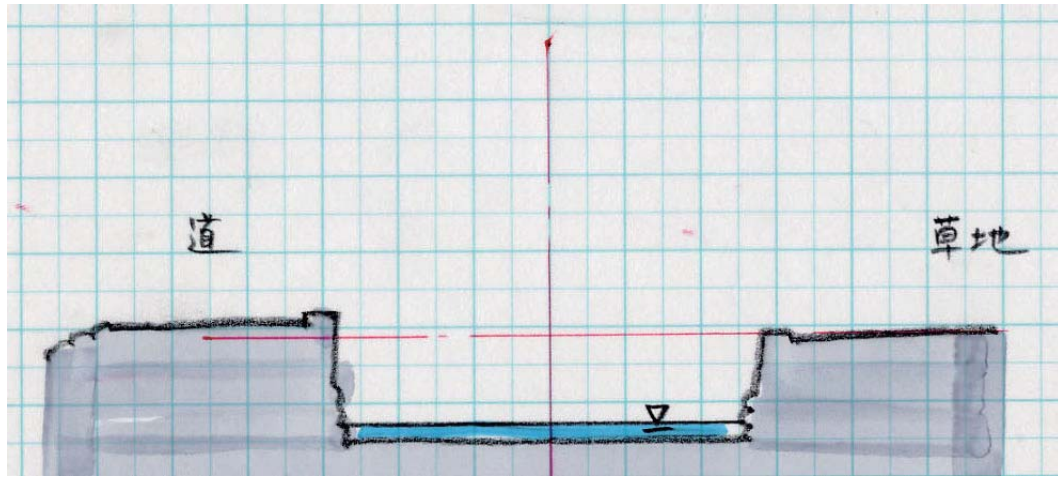




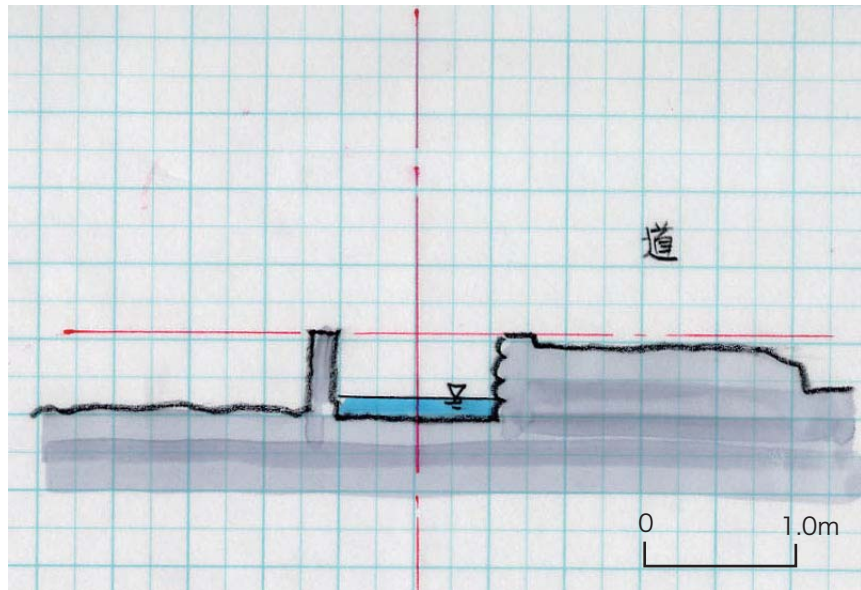
1



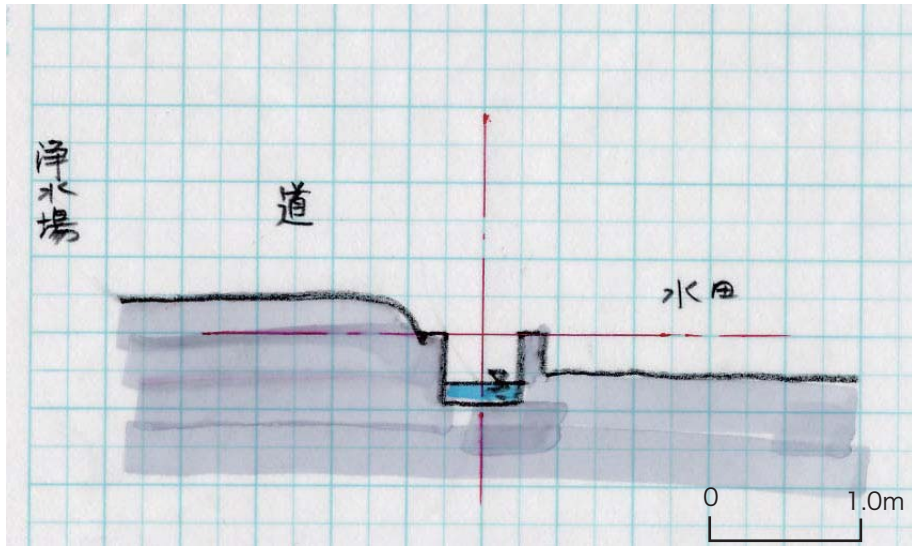
2



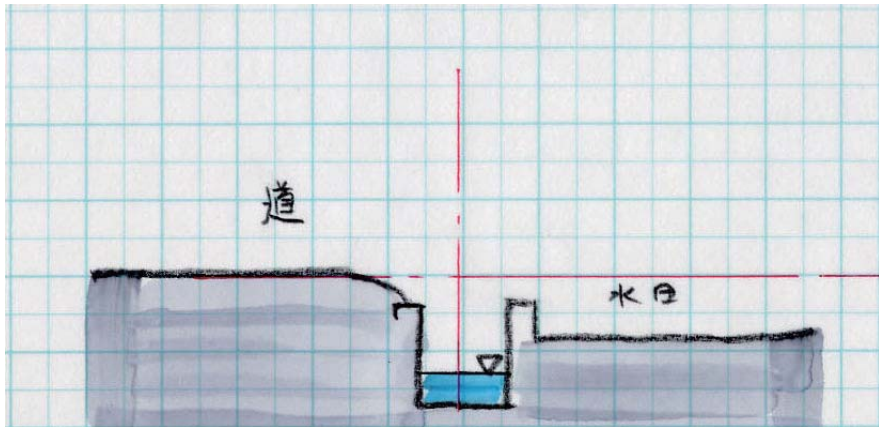
3



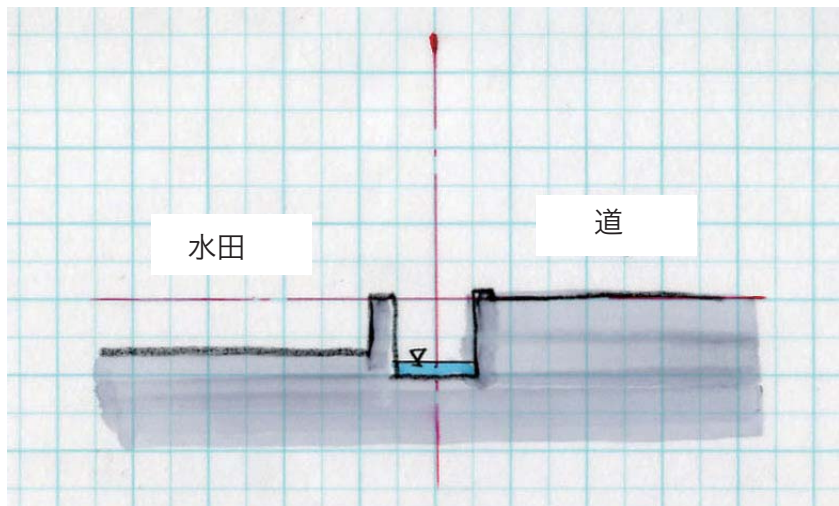
4



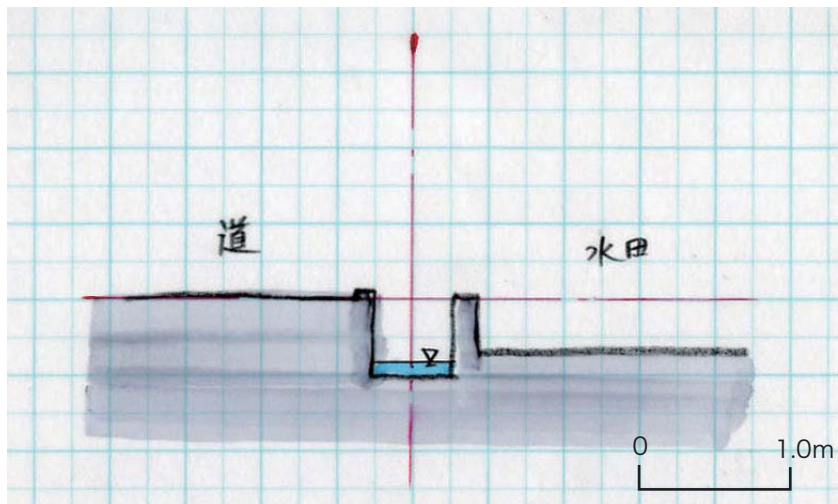
5



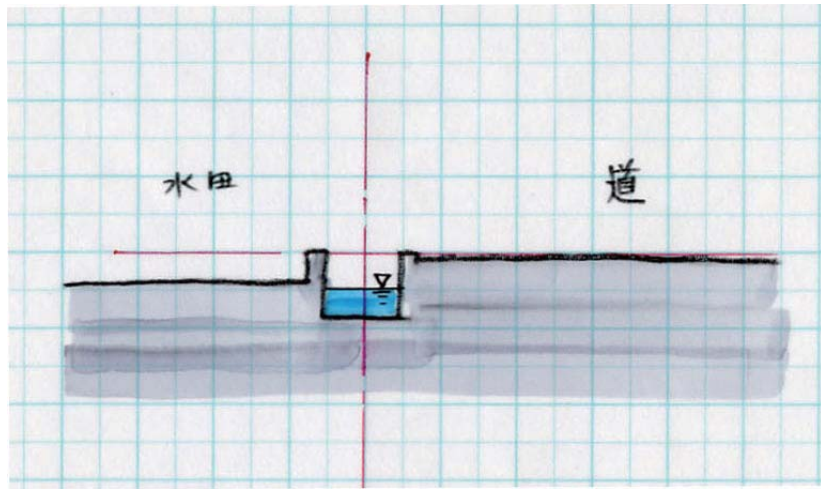
6



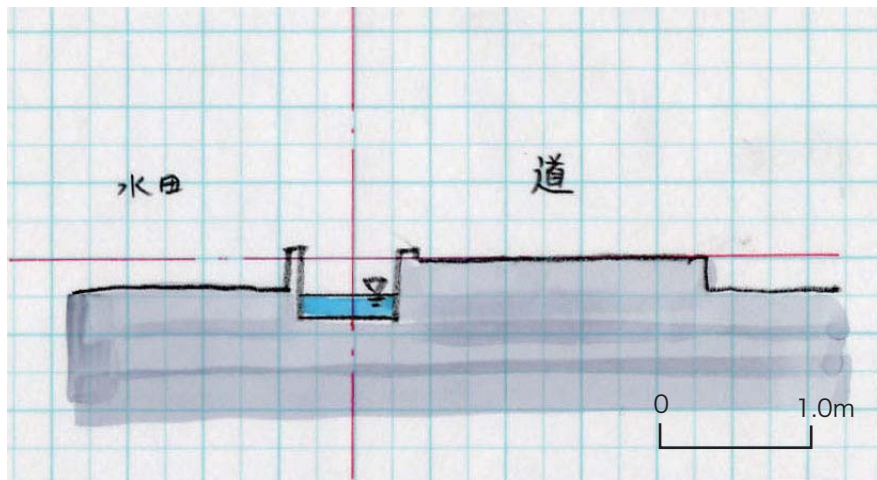
7



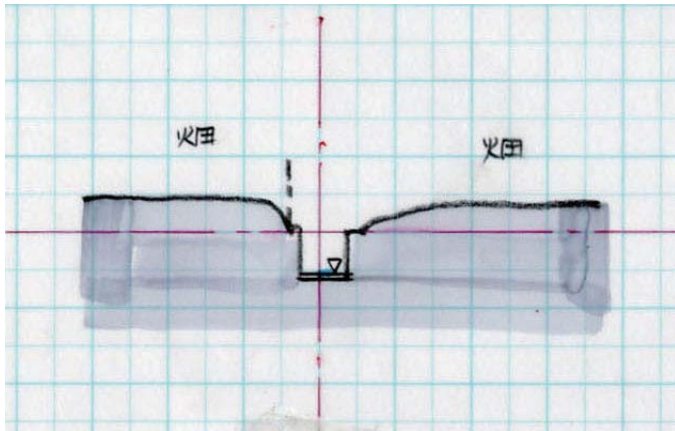
8



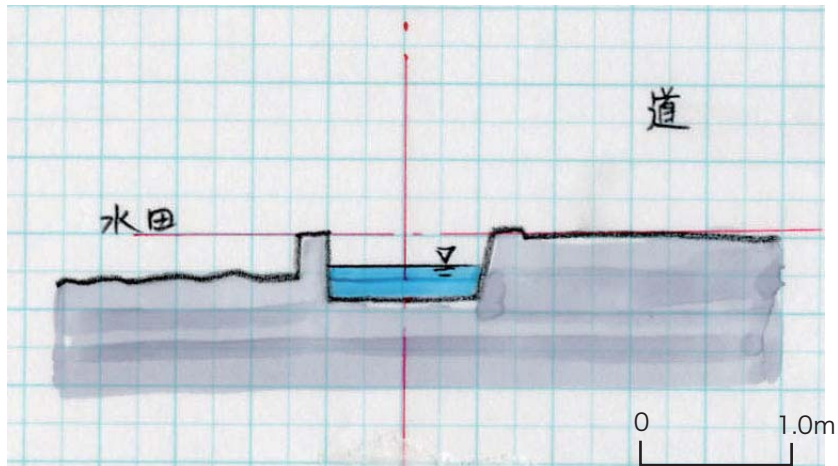
9



10

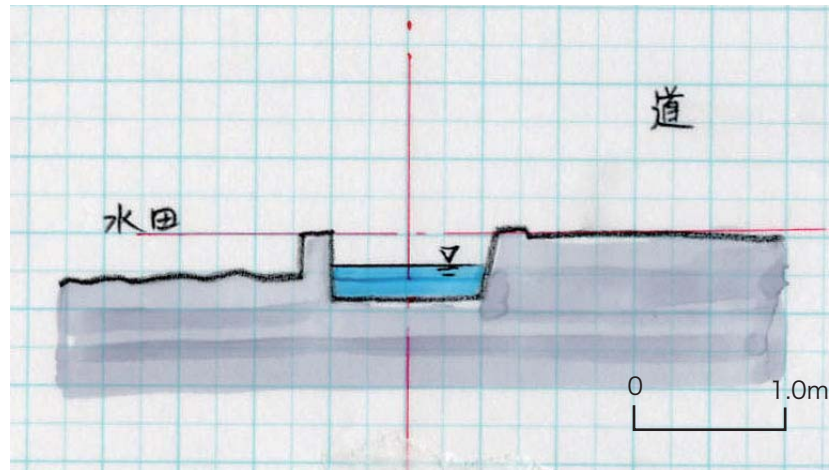


11

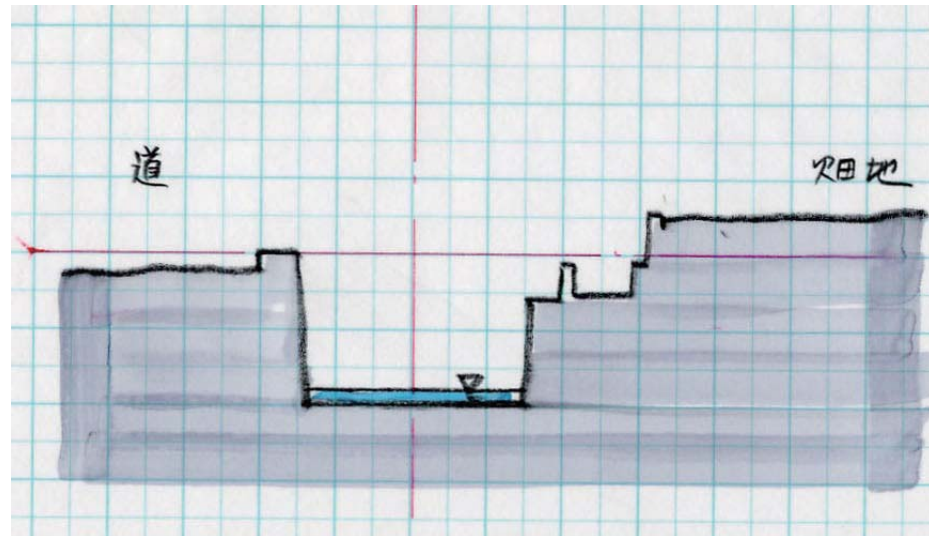


12

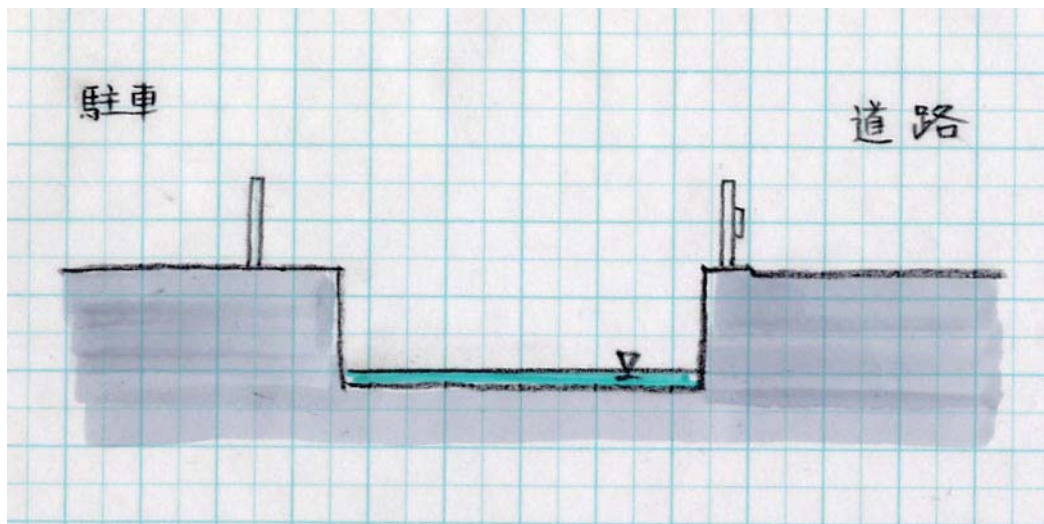




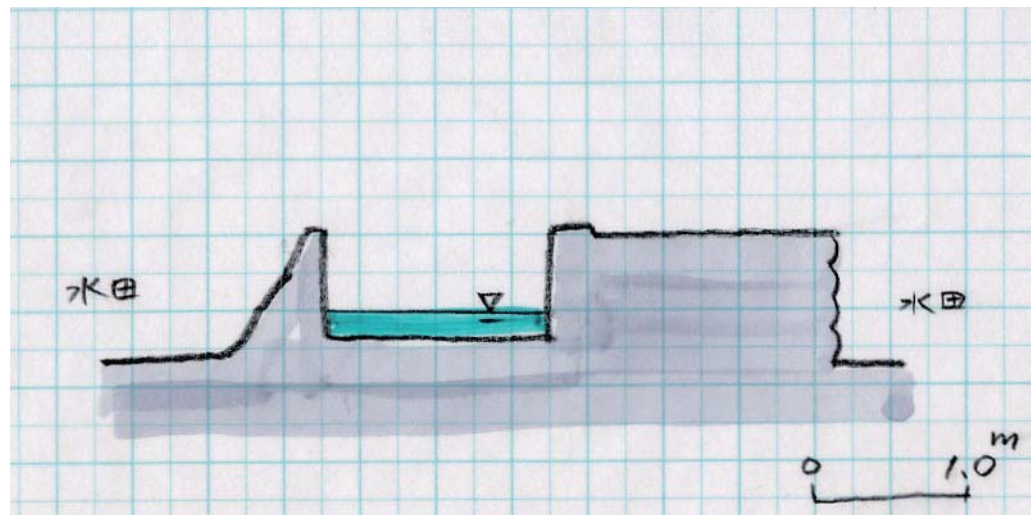
13



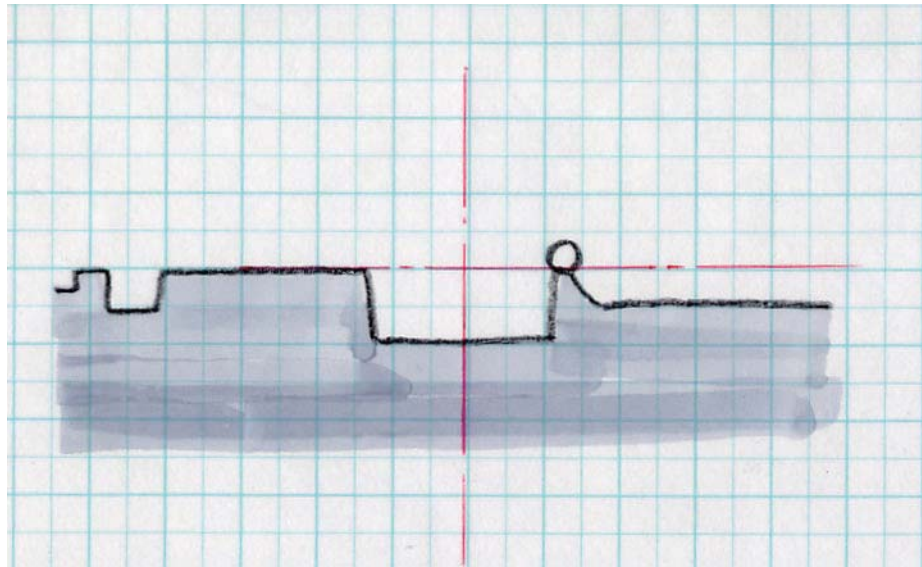
14



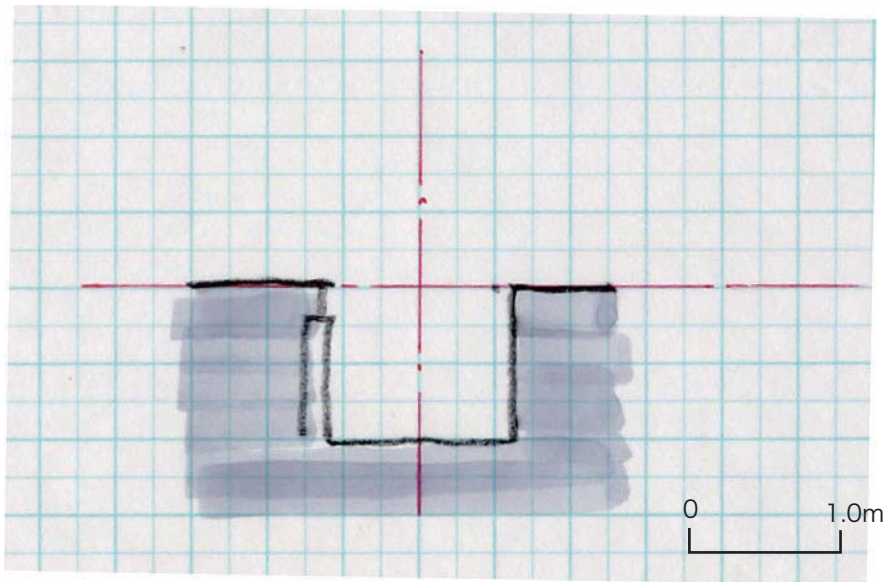
15



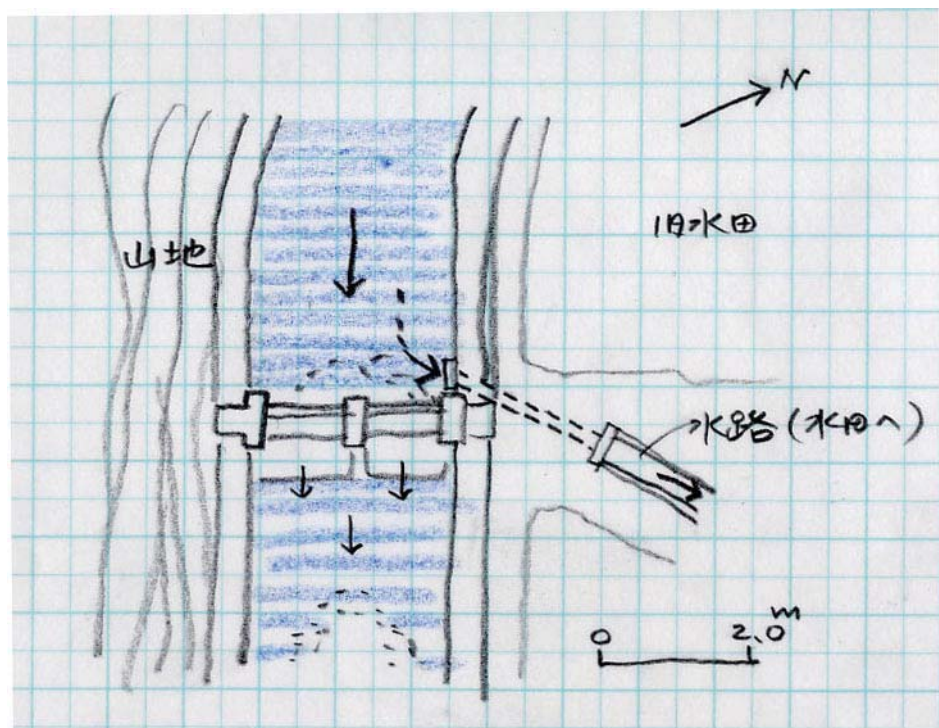
16



17



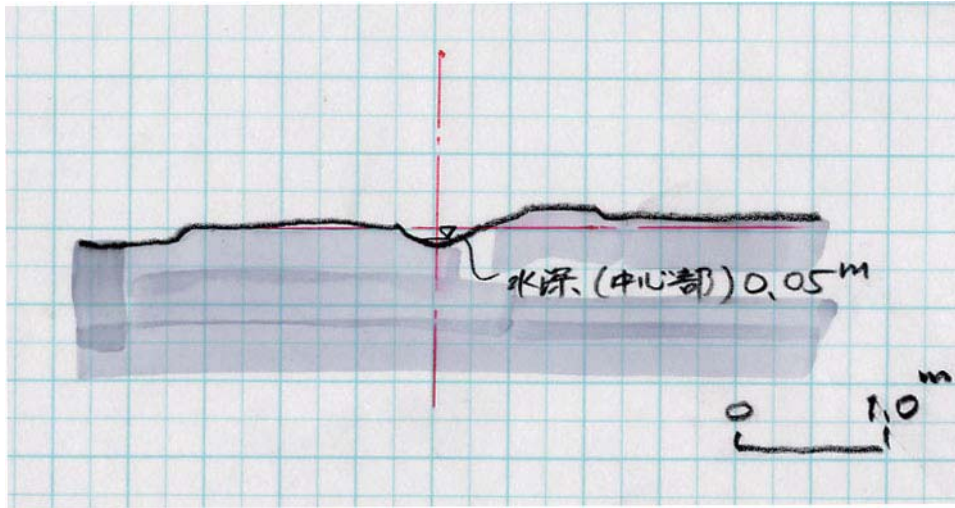
18



取水口を上流部



取水口を下流部



1

2) 水路周辺の景観 (写真)

1. 上柚木用水

岩入川



景観

用水路であったところに道路ができている



景観



景観







景観

景観



景観



長沼上堰



長沼上堰から流れる用水路



長沼下堰



長沼下堰から流れる用水路

景観





景観

庭木が覆い被さり、景観をつくりだす。



住宅地脇を通り抜ける。



幼苗の配布を待つ子供たちの脇を流れる。

景観



通水されている水路（中央部）



畑地へ入っていく水路（通水はない）

景観



大巻上堰 - 櫛田中学校西近くの開渠水路



大巻下堰 - 暗渠となった水路



大巻下堰 - 田中医院近くの小水路



景観

水路上部の集合住宅



景観



取水口の全景



谷戸の水田を潤す水路

景観



取水口の全景



景観



水田のあと地を流れる水路風景



水路で水遊びをする児童達

景観



貴重な水路風景（八王子市子どもキャンプ場内）

景観



ポンプアップされた水が水路に流される場所



田植をまつ水田の風景



田植前の苗

## 景観



かつての田園風景

かつて田圃に引かれた水路は時代の流れとともに衰退した。現在は、水路を利用した魚の飼育場が民間によって営まれている。水路は観光資源として利活用され、市民にリクリエーションの場を提供している。



魚釣りを楽しむ人々

景観



「ふれあいの里」の中で利用されている親水施設



取水施設は廃止されており、用水路及び水田は「ふれあいの里」として利用されている。



「ふれあいの里」の中のモリアオガエルの池



河川水を利用した親水施設

景観



用水路の跡



旧・谷地川 下流より見る。





景観

新しく建設された道路下に流れ込んでいく。



景観

山側から流れ降りてくる水路と合流する。



民家と庭木の間を枯れた用水路跡がとおる。



かつては谷地川護岸壁の脇を水路が流れていた。  
現在は草地。



景観

山側から流れる用水路から合流して、一部は谷地川方向へ、  
残りは鳥井場用水を流れていく。

景観



用水路を利用した水田準備中の様子。

景観



秋川より分水され、この先の取水施設へ



東京最後といわれる田園風景。  
7付近より滝山城跡がある山を見る。



17付近。段差の左側に水車の跡がみられる。

景観



取水口全景、中央部は用水路



田植をまつ水田その風景



田植をまつ水田その風景

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	1
用水路名	上柚木
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 岩入川水系のなかでは、もっとも大規模な取水施設であるが、現在は利用されていないため、用水の通水はない。  
以前の水田用地は、埋め立てが進んでいる。



### 3) 調査者の調査所感

コードNO	1
用水路名	岩入川全体
記入者	渡部

#### 現状

- ・ 岩入川からの取水はされていない。  
そのため水路の流れはなし。  
通水区域の**変化は埋土され、無利用地とされている**
- ・ 水路用地は下流域まで埋没されずにのこっている。

#### 岩入川の状況

- ・ 岩入川流域には5つの取水口があり、取水施設は斧の野残っている。
- ・ 5水系の中で現在利用されている水利施設は柳田用水のみであった。
- ・ 柳田用水の保全が望まれる。
- ・ 流域ないの河川水は、利用時期によっては**反後利用のシステムが施されていた。**

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	2
用水路名	橋下
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 通水はされていない。  
以前の感慨用水は大半が埋土され、中拓地、駐車場、畑地として利用されている。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	3
用水路名	柳田用水
記入者	渡部

#### 概況

柳田用水を利用として水は稲作をしている人の話

- ・ 稲作で大変なことはありますか？
- ・ もう年だから田仕事が大変です。用水の維持管理や畦地の草刈など仕事が多い。
- ・ 稲作の跡継ぎはいますか？
- ・ 子ども達はやる気がないので、5～6年でやめようと思っている。
- ・ 貴殿がやめたら田地はどうなるのですか？
- ・ これから、考える・・・ね。
- ・ 前は田地だったところがどんどん埋められてきているので、そうなるかもしれない。
- ・ 田作をやめると水利板はどうなるのですか？
- ・ 放棄することになるので通水は廃止となると思う。
- ・ 一枚でもやっていたら通水は続くよ。
- ・ それでは、一枚借り受けて田作をすれば柳田用水は継続できるのですか？
- ・ 田地は売り渡すことができない。
- ・ かすことはできる。よほどの覚悟がないとできないと思う。

- ・ 以前は田作者には補助金がおりにいたが今はどうですか？それがあれば、他人にかしてもやっていけないのではないですか？  
現在、補助金はない。
- ・ 八王子市（農林課）のほうではなにか協力してもらっているものはないですか。困っていることはなんですか、やはり継続営地の年間ですか
- ・ 高齢化社会になって、素人でも関心をもち、田作をやってみたいと思っている人は八王子にもいると思うが、そういう人々の協力を募ってたっていゆく方法を考えたことはなおですか？
- ・ 畑地はそうやっているもので、できなくはないが手がかりはない。
- ・ 田作への将来像がえがきにくい状況ともいれますが、そのような中で田作をやっておられるのはどんな気持ちですか？
- ・ 長い年月、続けたことで愛着があるよ。
- ・ ふるさとの稲作風景を自分の手で支えているという気持ちがあるからだろうと思う。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	4
用水路名	天水堰
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 水門は開放され取水をされていない。
- ・ 用水路の一部には谷戸水が入っている。用地は埋立が進んでいる。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	5
用水路名	川根堰
記入者	渡部

#### 概況

以前の灌漑地へは、通水されていない。

取水施設は存在している。用地の大半は、テニスコートに利用されている。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	6
用水路名	長沼
記入者	佐藤

#### 概況

- ・ 湯殿川に架かる新大畑橋下先右岸から取水し、流路最長約1.400mとする。元水田を灌漑する水利空間となっている。兆歳した水路は流量が多量なものを中心に右流路及び左流路の3系統の水路断面及び景観（写真）を記録してきた。下流域に近づくに伴い、水路量大小があり、複雑に構成されている。八王子の農業用水の中で大規模に属するものであるが宅地化が進んでおり、小水路は通水が途絶えがちとなっている。

#### 所感

水路に面した宅地が下流に多い。玄関や庭先を水路空間と一体とした庭作りが積極的に行われており、道行く人の心をやさしくしてくれる場所が存在している。  
一部生産緑地があり、水源を守ってゆく拠点になり得ると感ずる。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	7
用水路名	小比企
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 渡部研究室がS53年頃調査した頃は小比企用水は存在していたが、今日は市からは廃止されたと聞いた。現状がどうなっているかを確認する調査を行ったが取水施設はみあたらなかった。地図上では各土橋上流約10m近辺に過去においてはさんざいていたと思われたので周辺写真を撮り、添付した。

#### 所感

- ・ 水路は残っていたが立ち入り禁止になっていた。その下流には集合住宅が近接して建てられている。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	8
用水路名	坂下
記入者	佐藤

#### 概況

湯殿川中流域にある大橋上流にある大橋蒸留 130mにもうけられている取水施設から取水され、左崖側の水田灌漑として付設されている。

現在は最下流部に一部水田利用が見られる。調査した流路長は 700mであった。その下流は通水されていない間が約 200m 下流に存在する。

#### 所感

水路下流部では水比企まちの広場で、産地直売所に地元の小学生が集まり、笛を手渡されるのを楽しんでいた。用水はこれらの畑地への通水も一部みられたので、今後の新しい水利用形態がみられた。

#### 近所の人のお話

- ・ 水が流れているのは気持ちがいい。夏は涼しい。
- ・ みずが止まる9月以降、ボウフラがわいて困る。  
上流から家庭排水が流れてくるのは困る。



### 3) 調査者の調査所感

コードNO	9
用水路名	釜土
記入者	佐藤

#### 概況

湯殿川中流域にかかる大橋より上流約 300m付近にもうけられた取水施設が取水され、右岸の灌漑用として通水されていた水路である。全長約、700mあるが、上流部約 200mは通水はみられない。その下流は土水路になっていて少量の通水がみられた。積極的な水田通水はみられなかった。

#### 所感

水路中流域には養豚場があり、下流部の水路環境悪化が心配である。改善が望まれるところである。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	10
用水路名	大巻上・下
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 大巻上堰・下堰ともに取水施設は廃止されている。
- ・ 上堰の水を通した水路は上流、中流部は暗渠化されていたが下流部で開渠として残っており流水がみられた。
- ・ 下堰は、中流部で開渠水路がみられた。  
上・下堰ともに水田地はなく、宅地化が進んでいる。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	11
用水路名	山王塚
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 取水口は湯殿川最上川部右岸（館ヶ丘団地調整池上部）に位置する。取水施設はあるがいたみはげしく、取水はされていない。
- ・ 用水路の中・下流部は、集合住宅地となっている。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	12
用水路名	坊ヶ谷
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 取水口は案内川左岸から取水されている。水路長は約350m。  
河川沿いの水田は河川から通水されている。
- ・ 最下流部は宅地によって水量はすくない。
- ・ 取水の調整は他人用地からアクセスするため、少々困難な条件をもっている。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	13
用水路名	梅の木
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 取水箇所は貴布秣社付近にある。貴舟橋から約 50m 下流に取水はある。
- ・ 取水は河川（案内川）の右岸で、水門より通水しているが、現在は、宅地化し、宅地の横を通る側溝へ通水している。
- ・ 取水された水は 2 箇所ですオーバーフローした水を案内川におとしている。
- ・ 取水口より 50m 下流に第 2 の堰があったが、現在の水田利用は不明である。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	14
用水路名	大柳用水
記入者	渡部

#### 概況

- ・ 田、畑の灌漑用水として創設され、今まで利用されてきたが、近年のこの地域の宅地開発により残地の多くは草地となっている。
- ・ 水路の周辺部には「子どもキャンプ場」「スポーツ用グラウンド」「草食動物牧草地」「大学のグラウンド」などに利用されていることから、将来における土地利用計画のなかで適切な環境用水としての効果が高められるような利用計画が必要だと思われる。
- ・ 幼稚・小・中学生等が積極的に水遊びとして利用していることを考慮して、この地域の利用計画には水・緑の空間利用計画の充実が必要である。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	15
用水路名	上戸
記入者	佐藤

#### 概況

- ・ 北浅川にかかる陵北大橋の上流約 50mに設けられた取水施設より取水され、右岸側に通水されている。全長約 1500m。現在、一部畑地の横を流れるが、ほとんど灌漑炉用はみられない。下流部八王子市子どもキャンプ場内で、木々の間を流れる親水水路となっている。

#### 所感

- ・ 水路中流の野球南側あたりから下流までの間は、住居と接して水路がながれているが、水質も良好と思われ水量もある程度あり、暮らしにとけこんだ景観を形成している。
- ・ 調査中、数箇所ではつがいの鴨が水面でたわむれる様子を見ることが出来た。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	16
用水路名	黒沼田
記入者	渡部

#### 概況

調査当日、黒沼田バス停におりると水田の代かきがおこなわれていた。

水源は、北浅川サガン（黒沼田バス停下）よりポンプアップされ、車道下を通され水田地に用水路として通水されている。

#### 所感

代かきをしている人に「おいしい米がとれるでしょう」とたずねると「ごいさんの代から続いているのでこれからもつづけたいな」と返事がきた。

水田に写っている山道の風景は「里山の原風景だ」と実感したところとなった。



### 3) 調査者の調査所感

コードNO	17
用水路名	力石用水
記入者	渡部

#### 概況

本用水は、廃止用水になっているが、取水施設が改良され活用されているため、参考事例として調査した。

取水された用水は約 120m先になる養魚場で利用されたあと、北浅川に放流されている。

#### 所感

以前、畑地へ通水されていたが現在は、通水されていない水路が残されている。

用水施設の新たな利用形態として注目すべき事例といえる。

#### 聞き取り

養魚場は、観光資源として、アユ釣り場として、利用されている。管理人に話を伺ったところ、数年前、八王子市と共同で取水口の整備を行い、現在のアユ釣り場を開拓したことについて熱心に語っていただいた。

今後、このような水辺の開放を民間・行政が協力しあい、新しい観光資源を創出し、歴史文化ある水文化を守ってゆくことが大切であると痛感した。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	18
用水路名	宮の下用水
記入者	渡部

#### 概況

北浅川にかかる金の星橋の下流でポンプアップされた水が「八王子、夕焼け小焼けの里」の環境用水として利用されている。

取水された水は小川にそそがれ、水生植物エリアや「じゃぶじゃぶ池」などに利用されたあと、宿泊施設の庭で鑑賞池に通水されている。

灌漑用水としての利用は見当たらない。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	20
用水路名	梅坪
記入者	佐藤

#### 概況

- ・ 谷地川・八幡宿橋より上流約 20m右岸に取水施設がある。  
しかし、稼動していない模様。水路も草に覆われている。
- ・ 水路およそ 200m下流の地点で、南側からの別の水路が合流して梅坪用水路に通水されている。
- ・ 草地、畑地を 120m程流れ、滝山バイパス (名称確認) 下へ
- ・ 左滝橋西交差点近くで再び水路が現れるが、流水はほとんどない様子であった。

#### 所感

- ・ 新しい道路建設地に元々あった梅坪用水の半分以上がかかってしまった為、現在は利用されていないようだ。
- 途中。水が流れる 100m程の区間は水路沿いに花が植えられており、気持ちの良い空間をつくりだしている。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	21
用水路名	八幡宿
記入者	佐藤

#### 概況

- ・ 谷地川・黄金橋下流約 30m左岸側に取水設備がある。しかし、調査時点では河川工事がおこなわれていたためか、取水はされていなかった。水路下流 120m位の地点で、西側からの別の水路と合流し通水されていた。コンクリートの水路が畑地や馬場、住宅を 300m程、流れた後、滝山街道に沿っていく。途中 100m程暗渠となるが、再び姿を表し街道を離れて、南側の谷地川を目指す、全長約 1 k m

#### 所感

そのほとんどが味気ないフェンスに囲まれたコンクリートの水路であり、利用もみられない。せつかく約 1 k mもの区間のこされているのだが・・・・。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	22
用水路名	鶴舞
記入者	佐藤

#### 概況

資料によると

滝山街道・下戸吹交差点を南に下ったあたりの谷地川から取水しているとのことであったが、確認できず。(近づけない為) 谷地川右岸側 100m程下った②地点辺りで空堀の水路を確認。その先、100m程の③地点付近まで続く。いずれも土水路の形状が残る。

#### 所感

水路沿いに若干畑地が残るが、その他にはすでに田畑はなく、土水路は草に覆われてしまっていた。一部民家の軒先を通る場所もあり、生活と密接した水路景観がここにあったことを思わせる。残念である。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	23
用水路名	鳥井場
記入者	佐藤

#### 概況

谷地川・鶴前橋上流役 200mから取水し谷地皮沿いに水路がながれていたはずであるが、現在その場所には貯水池がもうけられており、水路はない。南側の給料からと思われる別の水路からの水が、鳥井場用水路中程 (a 地点付近) から合流し、ここからコンクリートの水路が始まる。道路をはさみ、草地へと続くが、形状は土水路となり、水もほとんどない。

#### 所感

用水路としての形はほとんど成していない。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	24
用水路名	大道下
記入者	佐藤

#### 概況

谷地川・鶴前橋上流役 100m左岸側から取水されているとの事であるが、鳥井場用水跡の貯水池などで近づけず、取水は確認できていない。その語 100mほどの水路も未確認。鶴前橋北の②地点で土水路を確認した。調査地点では流水はなかったものの、その下流部で水田の準備がすすんでいる様子であった。その中をさらに 100m程度水路が通っている。

#### 所感

確認できたのは約 100mほどであったが、灌漑用に利用さあれていると思われる。今後に残ってゆくことを望む。

### 3) 調査者の調査所感

コードNO	25
用水路名	高月
記入者	佐藤

#### 概況

秋川にかかる東秋川橋をはさみ、上流から水を引き込んで下流15mほどにある取水設備により右岸方向へ水路が通る。最長流路役2km中央部にある浄水場をまわりこみながら、およそ3系統ほどの水田灌漑用水路が複雑に通っている。取水口から200mくらいは住宅地の中をそれ以降は水田、下流部等で畑地をながれる。

#### 所感

調査地は‘東京最後の水田地帯‘とも呼ばれ、一面の水田、畑地、そして南には滝山城跡の山が控える場所である。ビニールハウスによる花の栽培も見られた。一番北側（秋川沿い）の水路で一部使用されていない部分があったが、それをのぞいては、綱の目のような用水路により灌漑されており、東京においては、大変貴重な風景を成立させていると思った。

聞き込み 高月 45-50代 男性

- ・ 秋川寄りには畑で、水路は使用していない。
- ・ 昔は山から3本の水路がおりてきていたが、埋めてしまった。蛍がいたが今はいない。(山に残土を捨てるようになってから)

- ・ このあたりは調整区域なので、農業をやるしかない(=水田はこの先も残る)
- ・ 秋川の水質は米に良いといわれ、おいしいお米ができる(らしい)

ずっと昔はここに(地図参照)水車があったらしい。自分もみたことはない。



### 3) 調査者の調査所感

コードNO	26
用水路名	鑿水
記入者	渡部

- ・多摩美術大学後者から約 500mほど東北の方にある水田の通水方式をみることができた。
  - ・市の水路大腸に記載されていないので詳細なデータは入手できないが、調査記録として本調査を実施した。
  - ・谷戸川から水門により取水し、小水路により水田に通水している。

八王子市の景観地区に指定されており、良好な里山の様相を呈している。

## 4章 調査・研究のまとめ

### 1 水利施設概況 表 4-1 から

1. 調査した水利施設は、26 施設。
2. そのなかで取水施設が古くなっても残っているのは20 施設であった。
3. 20 施設のなかで可動しているのは13 施設。  
水系でいえば浅川水系で6 施設中、全部可動していた。  
取水施設が可動していても、水田通水していないものもあった。
4. 水田へ通水している施設は岩入水系では柳田用水、湯殿川水系では長沼用水(上堰)、案内側水系では、坊ヶ谷戸用水、浅川水系では黒沼田用水、谷地川水系は無し、秋川水系では高月用水、大栗川水系ではやり水用水であった。
5. 谷地川水系に属している梅坪用水、八幡用水は水田用水以外の利用のために通水していた。
6. 通水量については(3 項)で解説する

### 2 水路規模、及びグラフを読み取ると、

1. 表の見方については各水路の上流部で略式測定した値を表(表 4-2)、グラフ(表 4-3)にしたものである。
2. 水路巾員は、0.5m以内のものが26 施設中10 施設あった。
3. 大規模なものは、高槻用水で1.8mついで長沼用水1.4m、

梅の木第二用水1.1mであった。

4. 水路の深さでもっとも深いのは、長沼用水1.1m、ついで鶴舞用水と鳥井場用水0.7mであった。もっとも浅い水路は全体で0.25m未満のものが6 水路あった。
5. 水路断面積で大規模なものは高月用水1.08 m<sup>2</sup>、鶴舞用水0.7 m<sup>2</sup>であった。平均値は0.36 m<sup>2</sup>、0.1 m<sup>2</sup>以内のものは5 用水であった。

### 3 水路の流量（表-4）

1. 流量測定時期は5月上旬であったため、水田の苗植がはじまろうとしているころであった。
2. 流量測定は流水断面積と流速（略式）を現地測定して算出した
3. 通水量がもっとも多いのは、高月用水  $0.52\text{m}^3/\text{sec}$ 、次いで神戸用水  $0.15\text{m}^3/\text{sec}$ 、長沼用水の  $0.11\text{m}^3/\text{sec}$  であった。もっとも少量なのはやり水用水の  $0.005\text{m}^3/\text{sec}$  であった。
4. 流量測定した水路は、12水路であった。  
この水路の中で、水田用水に利用しているものは○印をつけている。
5. 大道下水は水田利用はみだせなかった。水田用の水は近くの湧水を少量利用していると見られる。

### 4 水路空間の利用形態について（表-5）

1. 現地調査実施前に準備したのは、市街化が進んでも多面的利用が存在していると想定し水利用形態チェックリストのシートを用意して全水路について点検するようにした。  
しかし、1水路で多面利用が数項目以上あるものはみあたらなかった。
2. 調査水路で水田用水以外の利用が行われていたものは、通水はおこなわれていても水田に利用されていないもので環境維持用としての利用があるもの大柳用水、神戸用水、坂下水、柳田用水、などが見られる

3. その他、水利施設は可動しているが、水田への通水はせず、他の目的に利用している用水としてあげると、宮の下用水（ポンプアップ化）観光施設の中の野外リクリエーション用の水利用（庭、水車の稼働、川魚の養殖など）、力石用水、川魚の養殖と釣池利用などがあった。

### 5 水路空間を取り巻く景観について

1. 現地調査前に水路がもたらしている景観の特色を見出そうと考え、地域性がみられる景観と写真で記録することにし、準備を行った。
2. その成果は「水路景観」の写真をみていただきたい。
3. 各水路ごとの水路景観は、写真のコメントを記入しておいた通りである。
4. 調査水路全体を通して印象深かったことを以下に挙げる
  - 1) 水路によって通水されている水田があるところは、周辺の景観に潤いを感じ、水の音が聞こえるなど、やすらぎを与えている。
  - 2) 調査対象水路は、河川から導水しているため、河川の水源が、慣行水利権が設定された昭和42年ごろとくらべると大幅に減少している
  - 3) このため、水田稲作をしたい人がいても水源確保で困難をきたすところが各水路ごとにみられた。
  - 4) 調査した水路は26施設であり、その中で水田利用をしている水路は7施設であったが、昭和42年時からみると水

田面積は大幅に減少している。その要因は水門を埋めて、宅地化、道路用地、駐車場、工場用地などの転用をしていることにある。

5) 水路の通水がされていないまま放置されている水路が多くみられた。

水利施設概況表（表-5）で水田利用されていない用水路をしめている。

6) 現在（平成8年）でも水田地域への都市化は進んでいるため、行政の対応が遅れると、現存する水利施設や水田、そして水源となっている河川の果たす機能は大幅に後退するであろう。

#### 5. 水利施設と水田の保全・活用について（提言）

1) 八王子市内の河川を資源とする用水路があったものは60を数えたことが知られている（図-\_\_参照）

2) 本調査によって明らかになったことは小規模ながら水田稲作を支えている用水は7地区であった。

3) 水田稲作を担当している人のなかには40代、60代の人々があり、稲作を今後とも続けたい意思をもっている方もいた。唯、現行の制度や補助事業などでは維持するのが困難な問題があることをうったえる人が多かった。

4) 調査員としての立場から提言しておきたいことを以下に挙げる。

① 都市化が進む現在、身近なところで水田、水路空

間があることは、都市環境の面でも人身の健康面でもその効果はおおきなものがある

② 環境的遺産として保全・継承してゆくための手だてを自治体や市民がとりくんでゆくことが必要である。

③ 水田・水路空間の保全・活用のマスタープランを創出し、実現する方策をもつことである。そのためには行政、水田利用者、市民などが協力しあい方策実現に向けた活動を展開することであろう。

④ 本調査研究の成果は八王子市内に存在する水利施設や水田空間の保全・活用にむけた諸活動やマスタープラン（指標となる施設を含む）策定のための基礎的情報として有用なものになると思われる。

以 上

表-1. 水利施設概況

	河川名	用水名	取水施設		水田用 有無	取水量 m <sup>3</sup> /sec 最上流部
			有	取水可動している 有無		
01	岩入川	上柚木用水	○	×	×	—
02		橋下用水	○	○	×	0.001
03		柳田用水	○	○	○	0.005
04		天水堰用水	○	×	×	—
05		川根用水	○	×	×	—
06	湯殿川	長沼用水(上堰)	○	○	○	0.110
07		小比企用水	×	×	×	—
08		坂下用水	○	○	-	0.070
09		釜土用水	○	×	×	—
10		大巻上堰用水	×	×	×	—
11		山王塚用水	○	×	×	—
12	案内川	坊ヶ戸用水	○	○	○	0.060
13		梅の木平第二用水	○	○	×	0.016
14	浅川	大柳用水	○	○	×	0.025
15		神戸用水	○	○	×	0.150
16		黒沼田用水	○ <sub>ポンプ</sub>	○	○	0.022
17		力石用水	○	○	×	0.032
18		宮の下用水	○	○	×	— 測定できず
19	谷地川	左入用水	×	×	×	—
20		梅坪用水	○	○	×	— 別系路
21		八幡宿用水	○	○	×	—
22		鶴舞用水	×	×	×	—
23		鳥井場用水	×	×	×	— 利用かわる
24		大道下用水	×	×	○	— 系路不明
25	秋川	高月用水	○	○	○	0.520
26	大栗川	鎌水用水	○	○	○	0.005

20

13

7

他に別経路で水路に流水あり

表-2. 水路規模(上流部)

	河川名	用水名	W 幅員	D 深さ	m <sup>2</sup> 断面積
02		橋下用水	0.50	0.35	0.18  のため平均値
03		柳田用水	0.35	0.20	0.07
04		天水堰用水	0.35	0.25	0.09
05		川根用水	0.35	0.20	0.07  平均値
06	湯殿川	長沼用水(上堰)	1.40	1.10	1.54  平均値(上)
07		小比企用水			
08		坂下用水	0.40	0.40	0.16
09		釜土用水	0.70	0.75	0.52
10		大巻上堰用水	1.00	0.50	0.50 平均値(日)
11		山王塚用水	0.35	0.20	0.07  平均値
12	案内川	坊ヶ戸用水	0.60	0.40	0.24 (日)
13		梅の木平第二用水	1.10	0.50	0.55 A
14	浅川	大柳用水	0.70	0.35	0.24 (祭)
15		神戸用水	0.60	0.23	0.14  平均値(日)
16		黒沼田用水	0.45	0.10	0.04 (日)
17		力石用水	0.60	0.25	0.15
18		宮の下用水	不明	不明	—
19	谷地川	左入用水	不明	不明	—
20		梅坪用水	1.00	0.40	0.40 (火)
21		八幡宿用水	0.80	0.60	0.48  A
22		鶴舞用水	1.00	0.70	0.70 (月)
23		鳥井場用水	0.50	0.70	0.35 A
24		大道下用水	01.20	0.50	0.60 (日)
25	秋川	高月用水	1.80	0.60	1.08 B
26	大栗川	鎌水用水	0.35	0.15	0.05  (日)

表-3 水路規模グラフ

	河川名	用水名	幅員 (W)				深さ (D)			断面積 (S)			
			0.0	0.5	1.0	1.5	0.0	0.5	1.0	0.0	0.5	1.0	1.5
01	岩入川	上柚木用水	—				—			—			
02		橋下用水	—	—			—	—		—			
03		柳田用水	—				—			—			
04		天水堰用水	—				—			—			
05		川根用水	—				—			—			
06	湯殿川	長沼用水(上堰)	—	—	—		—	—	—	—	—	—	
07		小比企用水	不明				不明			不明			
08		坂下用水	—				—			—			
09		釜土用水	—	—			—	—		—	—		
10		大巻上堰用水	—	—			—	—		—	—		
11		山王塚用水	—				—			—			
12	案内川	坊ヶ戸用水	—	—			—	—		—			
13		梅の木平第二用水	—	—			—	—		—	—		
14	浅川	大柳用水	—	—			—	—		—			
15		神戸用水	—	—			—			—			
16		黒沼田用水	—				—			—			
17		力石用水	—	—			—	—		—			
18		宮の下用水	不明				不明			不明			
19	谷地川	左入用水	不明				不明			不明			
20		梅坪用水	—	—			—	—		—			
21		八幡宿用水	—	—			—	—		—			
22		鶴舞用水	—	—			—	—		—	—		
23		鳥井場用水	—	—			—	—		—			
24		大道下用水	—	—	—		—	—		—	—		
25	秋川	高月用水	—	—	—		—	—		—	—	—	
26	大栗川	鱧水用水	—				—			—			

表-4. 水路の流量

	河川名	用水名		流量 (m <sup>3</sup> /sec)																
				0.0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.00						
01	岩入川	上柚木用水	—																	
02		橋下用水	0.001	·																
03		柳田用水	0.005	·																
04		天水堰用水	—																	
05		川根用水	—																	
06	湯殿川	長沼用水(上堰)	0.110	—																
07		小比企用水	—																	
08		坂下用水	0.070	—																
09		釜土用水	—																	
10		大巻上堰用水	—																	
11		山王塚用水	—																	
12	案内川	坊ヶ戸用水	0.060	—																
13		梅の木平第二用水	0.016	·																
14	浅川	大柳用水	0.025	·																
15		神戸用水	0.150	—																
16		黒沼田用水	0.020	·																
17		力石用水	0.032	·																
18		宮の下用水	—																	
19	谷地川	左入用水	—																	
20		梅坪用水	—																	
21		八幡宿用水	—																	
22		鶴舞用水	—																	
23		鳥井場用水	—																	
24		大道下用水	—																	
25	秋川	高月用水	0.520	—	—	—														
26	大栗川	鱧水用水	0.005	·																

表-5. 水路の水利用形態

	河川名	用水名	水田利用	水田用水以外の水利用
01	岩入川	上柚木用水	×	
02		橋下用水	×	
03		柳田用水	○	
04		天水堰用水	×	
05		川根用水	×	
06	湯殿川	長沼用水(上堰)	○	
07		小比企用水	×	
08		坂下用水	×	
09		釜土用水	×	
10		大巻上堰用水	×	
11		山王塚用水	×	
12	案内川	坊ヶ戸用水	○	
13		梅の木平第二用水	×	
14	浅川	大柳用水	×	子どもの水あそび場あり、魚取り
15		神戸用水	×	キャンプ場への引水利用
16		黒沼田用水	○	
17		力石用水	×	養魚場への引水利用
18		宮の下用水	×	観光施設への引水利用
19	谷地川	左入用水	×	
20		梅坪用水	×	
21		八幡宿用水	×	
22		鶴舞用水	×	
23		鳥井場用水	×	
24		大道下用水	○	
25	秋川	高月用水	○	以前に水車が移動していた
26	大栗川	鑓水用水	○	

## あとがき

本調査研究に着手して1年が過ぎた。この作業全体を通してふりかえってみて、もっとも注目せざるを得なかったのは、伝統的な通水システムに支えられた水田の多くが消失しはじめていることがあきらかなになったことである。

この状況は4章で具体的に示しているが、都市化が進む中で多面的機能をもつ水田を活用することで都市の豊かさや美しさは保てる。しかし、水田と用水路システムを保全活用するための行政の取り組みは充分でない。また、水田は耕作者の高齢化が進み生活環境も困難な状況である。このように水田消失が進む状況を市民や関係者につたえるとともに、保全・活用に向けた町づくりの活動を展開してゆきたいと考えている。

本調査研究が進展したのは「東急環境浄化財団」の支援があったことによる。ここに感謝の意を記す。

八王子の用水管理担当されている方には無理を言って貴重な資料を閲覧させて頂き他。これによって調査前に水路位置の図化ができ、現地確認がはかどった。

現地調査作業には研究者が所属する多摩美術大学環境デザイン学科・渡部一二研究室に属す学生の協力を得て作図などができた。

水路現地調査は埋設されたところが多かったため十分な現地調査できなかつたことは心残りとなった。

平成20年4月

《調査メンバー》

代表 須藤訓平

渡部一二

佐藤千枝

多摩美術大学環境デザイン学科渡部研究室



はちおうじ あさかわすいけい しな い ようすいろ つうすい みずりようけいたい じったいちようさ  
「八王子（浅川水系）市内の用水路の通水システムと水利用形態の実態調査お

よび、ほぜん保全、かつよう活用にむけた可能性のかのうせい研究けんきゅう」

（研究助成・一般研究 VOL. 30-NO. 178）

著者 すどう須藤 くんぺい訓平

発行日 2009年3月31日

発行者 財団法人 とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-16-14（渋谷地下鉄ビル内）

TEL (03) 3400-9142

FAX (03) 3400-9141